
ス「十代が私を使ってくれないから自らデュエルアカデミアに乗り込んでアカデミアの生徒にな

ガイウス

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX ネオス「十代が私を使ってくれないから自らアカデミアに乗り込んでアカデミアの生徒になつてやる」

【Zコード】

Z7591V

【作者名】

ガイウス

【あらすじ】

私ネオスはネオスペースからやつて来た十代だけのHEROの…
筈だった属性HEROとかいう連中が私を融合素材だけの存在にして十代を奪った畜生おおおーー！こうなつたらアニメ版に行つて活躍してやるーー！

第1話 ネオス「私は融合素材でも事故の塊でもない！－！」

ユベル「僕な

ネオス「私だって苦悩はあるや。」
「…通常モンスター故の過ちをな」

第1話 ネオス「私は融合素材でも事故の塊でもない！――」

ゴベル「僕な

視点 ネオス

私の名はE・HERO ネオス！

ネオスペースからやってきた新たなるE・HEROなのだ！

……なのだがここ最近十代は私を使ってくれない

それどころか……！

「手札から融合を発動！

ネオスとバブルマンを融合してアブソルートZeroを融合召喚――！」

アブソルートZeroの融合素材にされ……！

「手札から超融合を発動！

攻撃したZeroとネオスを融合してE・HERO The シャイニングを融合召喚――！」

The シャイニングの融合素材にされ……！

「手札からミラクル・フュージョンを発動！
ネオスとヒーマンを（以下略）」

毎回毎回属性HEROとかいう後輩どもの融合素材とされているの

だあああ！－！－！

そして一番腹立たしいのは…－！

「なあZero？」

やつぱHEROに沿地はいるのかな？」

『いないHEROなんて聞いた事がないな』

あの彌々しいZeroが十代の精霊と化している事だあああ！－！－！

『どうかなんでネオスなんか入れていいのだ？

はつきり言つて事故が服を来て歩いている様な物だぞ？』

Zeroでめええええ！－！－！

「実はなんか可哀想だから入れてるだけなんだけど…ネオス抜いて
ガキネオスにしようかと思い始めたんだ」

十代までええええ！－！－！

畜生おおおお！－！－！

この世界に私の居場所なんて無いんだ！－！

地球なんて糞な星なんて破滅の光に滅ぼされたり良いんだ！－！－！

うわああああ！－！－！

？？？？？

『お~い。

起きるネオス』

『こ、いきなりトロップの布石すら無かつたのに起きる言われても困るのだが……！』

といつかいつの間に場所が変わってるんだ？

『それは作者の都合…もとい私が可哀想なお前の為に布石無しに送つたのだ。

だって布石出したら死ぬじやん痛いじやん』

「確かにそうだが……ていうかお前……？」

オシリスじゃね？

「なんでオシリスがこんな所にいんの？」

『それはな…お前と同じ理由なのだよ』

私と同じ理由だと……！？

『毎回馬鹿アテムが意味も無しに私を召喚しオベリスクとタイマンさせるわ、失敗したら視聴者からドジリスっていわれるわ、私だけOCG化されてないのを良いことに……！』

オシリスお前まだOCG化されてないんだって？

フフフ…バロス（笑）

流石ドジリスだ！

OUG化もドジって不可能になつたって訳か！

ドジリスなだけに（笑）『アイツ、もうOUG化されてるのを良こと』

にドジリスドジリス言いやがつて！

私だつて好きでドジつてゐ訳じや無いのに…！

ざけんじやねーよ！…！』

「さあ、境遇が違つとは云え、お前と私は同士といつ訳だな？」

『そりだよネオス！

私と君は友達だ！』

…正直融合素材にされてただけ私の方がましだつたかもしれん

『…こきなり話が飛ぶが今から君にはアニメ版GXに行つてもう少

「アニメ版？」

『アニメ版には漫画版HEROは存在してない。

だから君は活躍しほうだいなのだよ！…！』

成る程！

あの部々しいNero…もとい属性HEROどもがいない世界なら
私は活躍しほうだいとこうわけか！

…私の唯一の友であるHアーマンがいなくなるのは寂しいがな

『それでは今から君にはアニメ版の世界に行つてきてもいいんだ…』

「わかった…！」

これがトリップをする瞬間かあ…！

楽しみだな…！

『では頑張つてきたまえ！
…アカデミアの生徒としてな』

「え？

今なんて

此処で私の意識は途絶えて言つた…

海馬ランド 試験会場

「…、此処は…？」

海馬ランドか…

といつ事は試験会場か？

てかたまたま試験会場にあつた鏡を見てみたのだが…

「なんで顔だけそのまま？」「なんで顔だけトリップ前なんだ！？」

身体は人間、頭はネオス！

バランス悪いわ！！！

ドジリスこの野郎…！

『試験番号3番のネオス君。
デュエル場まで来てください』

あつ呼ばれたな

「…仕方ないな」

顔が心配だが行くしか無いか…！

海馬ランド 試験会場 デュエル場

「私は実技最高責任者であるクロノス・デ・メティチなノーネ！
試験番号3番の実力を見せてもらうノーネ！」

「よろしくお願ひします」

あれ？

顔に関してはスルーなの？

まあ良いや

「「デュエル！！」」

ネオス LP4000 クロノス LP4000

「先攻は頂くノーネ！」

ドロー！ヨー！

古代の機械兵士を召喚！」

クロノスの目の前に古い機械の兵士が現れる

古代の機械兵士

星4／地属性／機械族／攻1300／守1300

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「更に天使の施しを発動！」

デッキから3枚ドローし2枚捨てますーノ！」

クロノス教諭が手札交換カードを使うだと…？

事故でもしたのか？

「ギャラリーが喧しいですが貴方はただ単純に天使の施しを使つた訳では無いのですよね？」

てか天使の施し嘗めんなギャラリー

あのチートカードは恐ろしいんだぞ

「流石受験番号3番。

常識がわかっている様なノーネ！

手札から一族の結束を発動！」 一族の結束

永続魔法

自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類のみの場合、自分フィールド上に表側表示で存在するその種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

古代の機械兵士 攻撃力1300 2100

「やはり… ロンボを仕掛けてきたか

攻撃力2100とかもう古代の機械兵士（笑）つて馬鹿にできねーよ

「カードを一枚伏せてターンエンドなノーネ！」

「私のターン！

ドロー！

E・HERO アナザー・ネオスを召喚！』

E・HERO アナザー・ネオス

星4／光属性／戦士族／攻1900／守1300

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

「このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、カード名を「E・HERO ネオス」として扱う。

ネオスの田の前に小さなネオスが現れる

「更にスーパーヴィス発動しアナザーに装備！」

スーパーヴィス

装備魔法

デュアルモンスターにのみ装備可能。

装備モンスターは再度召喚した状態になる。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが墓地へ送られた時、自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して特殊召喚する。

「そして強欲な壺を発動！

デッキからカードを2枚ドローする！

そして天使の施しを発動！

デッキから3枚ドローし2枚捨てる！

カードを1枚セットしてターンを終了だ！」

「デュアルデッキですか。

私のターン！

ドロー二回！

手札の古代の機械巨竜を捨ててマシンナーズ・フォートレスを特殊召喚！

マシンナーズ・フォートレス

星7／地属性／機械族／攻2500／守1600

このカードは手札の機械族モンスターを レベルの合計が8以上になるように捨てて、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手の効果モンスターの効果の対象になつた時、相手の手札を確認して1枚捨てる。

マシンナーズ・フォートレス 攻撃力2500 3200

ママママ、マシンナーズ・フォートレスうううう！？

ガチカード使つてんじや ねええええ！！！

「リバースカードオープン！」

奈落の落とし穴！

これによりマシンナーズ・フォートレスを破壊し除外する！』

奈落の落とし穴

通常罠

相手が攻撃力1500以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外する。

マシンナーズ・フォートレスは突如現れた落とし穴にはまり破壊される

「奈落の落とし穴でしたーか…！」

奈落の落とし穴だと！？

卑怯だぞ！！

喧しいわ！

マシンナーズ・フォートレス怖いんだぞ！

「古代の機械兵士アナザーネオスに攻撃するーー！」

アナザーネオスを破壊させてたまるか！

「ダメージステップ時にオネストを発動！
相手モンスターの攻撃力分アップ！」

オネスト

星4／光属性／天使族／攻1100／守1900

自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを手札に戻すことができる。

また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

E・HERO アナザー・ネオス 攻撃力1900 4000

「むう……！」

な、なんとか撃退できたか……！

クロノス LP4000 2100

「カードを1枚セットしてターンを終了するノーネ！」

「私のターン！」

ドロ「リバースカードオープン！」

リビングデッドの呼び声！」なにい！？」

リビングデッドの呼び声

永続罠

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなつた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

此處でリビングデッドの呼び声！？

試験だから発動タイミングを早めたのか？

「墓地から古代の機械巨竜を特殊召喚するノーネ！」

古代の機械巨竜

星8／地属性／機械族／攻3000／守2000

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

以下のモンスターを生け贋にして生け贋召喚した場合、このカードはそれぞれの効果を得る。

グリーン・ガジェット：このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

レッド・ガジェット：相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、
相手ライフに400ポイントダメージを与える。

イエロー・ガジェット：戦闘によって相手モンスターを破壊した
場合、相手ライフに600ポイントダメージを与える。

古代の機械巨竜 攻撃力3000 3800

不味い

攻撃力3800とか勝てねーよ

まさかクロノスの野郎オネストを発動させる為にわざとアナザーネ
オスに攻撃しやがったな

…畜生

視点 十代

「おーやつてるやつてるー！」

なんとか試験に間に合つたけど…攻撃力3800のモンスター！？

「すげー！！

あのモンスターすげーなー！

「そりゃそうや。

相手はあのクロノス先生だよ。
勝てるはずが無いよ…」

「いや、 そうでも無いぜ？」

「えつ？」

クロノス先生とかいう人と戦ってる奴の目はまだ諦めて無いぜ！

視点 ネオス

…どうしよう

一応古代の機械巨竜を倒すカードはあるがまだテックの中なんだよな…

そういうえばドローしたカードって…あつ

「クロノス先生…すみません」

「…ヨ？」

「手札からラス・オブ・ネオスを発動します」

ラス・オブ・ネオス

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO ネオス」1体を選択して発動する。

選択した「E・HERO ネオス」をデッキに戻し、フィールド上のカードを全て破壊する。

「な、なんなノーネ？」

「ラス・オブ・ネオスは自分フィールド上にE・HERO ネオスが存在する場合に発動できます。

アナザーネオスは再度召喚でE・HERO ネオスと化しているので発動できます。

…アナザーネオスを選択し選択したアナザーネオスをデッキに戻しフィールド上のカードを全て破壊する…」

「なんですかーーーおおおおおー！？」

アナザーネオスが地面にチョップ・ビッグバンを起こし全てを破壊した

「更にスペールウィズの効果発動！

このカードが墓地に送られた時、墓地から通常モンスターを特殊召喚する！」

「墓地に通常モンスターなんーて…まさか天使の施し…？」

「正解！

墓地からE・HERO ネオスを特殊召喚…」

視点 十代

すげー…！

クロノス先生の強力モンスターを破壊してモンスターを特殊召喚するなんて！

ていうかE・HERO ネオスってかつこいいな！

あんなE・HERO初めて見たぜ！

視点 ネオス

「ネオスでダイレクトアタック！！
ラス・オブ・ネオス！！！」

ネオス（ソリッドビジョンの方）はクロノスにチョップしビッグバンを起こした

「ペーぺロンチイイイノオオオオオオオオオオ！」

クロノス L P 2 1 0 0 - 4 0 0

ビッグバン起きたけどクロノス先生大丈夫かな？

まあとにかくアカデミアは合格できただろう

コレから十代に会えると思つたら興奮してきたぞ（性的な意味では
ありません）

…そりいえば家何処だろ？

適当なアパートでも見つけるなり公園で合格発表まで暮らすなりして待つとしますか…！

第2話 ネオス「じちの本田見てたら速いな程度だけど実際体験してみたらや

新キャラが2人登場します

そしてネオス哀れ…（泣）

第2話 ネオス「」の本田見てたら速いな程度だけど実際体験してみたらや

視点 ネオス

公園

私は今公園で路上生活…ホームレスとして生活している

何故なら今の私には家が無いのだ

トリップしちゃったから家が無いのは勿論、食料や服だってのだ

優位つあるのは金（1500円）ヒテツキのみ

ドジリスの野郎…！

コレでも私はHEROなんだからな…（泣）

「この糞餓鬼があ！」

さつさとカード寄越せ「誰が餓鬼じゃコラア…！」

ワタシはもう16歳じゃボケエ…！」 げぐわあああ…！」

なにあれ？

不良が幼女にボコられてんだが…

「そ、そこのホームレス！！」

「ホームレスって私の事か？」

「それ以外に誰がいるんだボケエ！！
レアカード寄越せや！！」

いきなり寄越せ言われてもなあ…

「仕方ないな」。

ホラよ」

ネオスは不良にカードを渡す

「へへへ…！」

「コレで俺も金持ちに…ってこれ究極完全態グレード・モスじゅねー
か！！

売れるかああああー！！！」

ああー！

アイツ究極完全態（笑）を破り捨てやがった！！

いくら救済処置を考えてもどれも不可能に近いとの評判である究極完全態（笑）を破り捨てやがった！！

「な、なうば」「なうだ？」

「グレード・モスじゅねーか！！」

「コレだつたら紅眼の黒龍の方が遙かにまじじゃ……」

「マイツまたグレード（笑）を破りやがつた！！

「つかもついいわ！！

てめー学費の借金の1500円払つ為に協力してんのにコレじゃあ
パーじゃん！！」

「学費つてなに？？」

「「あひ……」」

10分後

「つまりあれか。

そこのお前は『テュエルアカデミア』の学費を払つ為に芝居をして同情
をかつてもらい高級カードを貰い売る…そういう事か

「…すんませんでした」

「てかアンタ教師なのになんで見た目幼女?
なんで芝居に協力してんの？」

そして口には出さないがなんで学費1500円だとそれを自力で払わないんだ？

「それは…アレだよアレ。

狸校長が我慢の限界とか言って今日絶対に自力で払えって言われて

「あ～」

狸校長つて鮫島か

そういえば十代（元の世界の方）が

リスペクトデュアル？

昔はかつこにいつて思つてたけど化けの皮を剥がしたら相手をおち
ょくりお互い全力を出そつとか言いながら自分はチートカードを使
う馬鹿な理想論だろ？（笑）

全くコレだからカイザーからヘルカイザーになるんだよイヤツッ
ホオオオオオオオウ！！

あつ最後のはエドね「ど、とりあえずコレで学費払つ…？」

ネオスは不良（？）に1500円を渡す

「えつ…良いのか？」

「いや、なんか可哀想だから…」

「あ、ありがとう…。

僕の名前は城之内 剣八である伝説のデュリストである城之内兄
さんの弟だよ

「あ～あの城之内さんの弟か…ってそんな事より性格変わつてね
？」

「あ…此方が素なんだ。

演技でやつてたけどもし喧嘩事になつたりひとつつかと思つてた

よ

あれ演技なのかよ…

正直遠くから見てたけどめっちゃ怖かつたぞ…

「あ～ワタシはシオン・ライス。

こんな見た目だけどアカデミアの教師なんだからねー。」

まあ確かに見た目は幼女（10歳くらい）だからな

「私の名はネオス。

…」この街から家が遠いから此処で路上生活をしてる

ぶつちやけ嘘です

ドジリスによりトロップしましたなんて言える訳がない

とこつかこの2人は私の顔に違和感を感じないのか？

アレか

ドラえもんが過去にいるのになんの違和感も無しにドラえもんが買
い物したり空き地で遊んでると同じ様な感じか

「てか1つ聞くナビ何時まで此処に路上生活してるつもりなんなの？」

「そりゃ入学届けが来るまで「住所が無いのに入学届けが此処に届
くとでも…」…しまったああああああああああああああああああああ

そりいえば公園に住所なんてある筈無かつたよー。

私の馬鹿！！（泣）

「ちなみに今日がアカデミアの入学式だよ」

「…まじで？」

ネオスは剣八の言葉に焦りを感じる

「…仕方ない」

シオン先生…？

なんでバイク持ってきてんの？

足届くの？

「ぎりぎり3人乗りは可能かな…。
さあ乗つた乗つた！」

なんで剣八君当たり前の様に乗つてんの？

てか私も乗るパターンか！？

「とりあえず乗ろつか。
間に合わなくなる前に」

「…はい」

死ななきや良いんだが… ドジリス…じゃなくてオシリス様…！

「私に天の『J加護を…！

『無理。

てかお前HEROなんだから自力で頑張れ』

今ドジリスの声が聞こえたんだが

てか今の私はHEROでは無く人間だ！（顔以外は）

「それじゃあレッツゴー…！」

「あああああ…！」

私は地獄を見ることとなつた…

童実野町 都内

今シオン先生のバイクになると止まらなくなるから

もう一三百キロ出でるぞ…！

「大丈夫？

シオン先生バイクの事になると止まらなくなるから

「なんでアンタは平常でいられるんだあああ…？」

「慣れた」

「ええええええ！－！－？」

慣れたつて何時も2人乗りでこのスピードかー？

よく捕まらなかつたなー！」

「そこのバイク待てえ！」

あれ？

あのバイクにあの顔は…？

「げえ！？」

あれは牛尾！－！」

牛尾さん！？

初代から5D'sまで出ている遊戯王の隠れた顔！－！」

てか作者！

遊戯王とか5D'sとかのメタな発言言わすな！

「3人乗りにスピード違反、そして見た目的な意味で乗っちゃいけない年齢で今度こそ逮捕してやるぜえ！－！」

「見た目に触れるなあああ！－！」

今度こそつて何回もスピード違反してんのかこの人！－？

「あつ、久しぶりです牛尾さん」

「剣八君か。

あんな幼女スピード魔に付き合わなくて良いの元

「教師と生徒の立場上逆らえないんですよ」

「マイツらに普通に話してんだ!!

てか剣八と牛尾さん知り合いなのかよ!!

「とにかく今は急いでるからじやーねー!!」

オイイイイイ!!

スピード上げるなあああー!!

「てめええええー!!」

牛尾さんもスピード上げなーでえええー!!

視点 十代

港

「こないなあのHERO使い

いくら待ってもあのHERO使い

このままじゃ船行つけまつぞ…！

「こないな。
よし行くか」

げえ！

もう行くのかよー

「待つてくれよ！」

後10分だけでも「他の生徒も待つていてるんだ。
来ていなき受験生には悪いが仕方ないんだ」くつ…一
「…」

とつとう船が行つちました

あのHERO使いとデュエルしたかったなあ…

視点 ネオス

「コラ待てシオンー！」

「待てと言われて待つ馬鹿がいるかああーーー！」

いかん…速すぎて気持ち悪い

「先生！」

港が見えました！」

港か……つて港！？

「おひしゃ……つて出発してゐる……？」

「え？！？」

「ちょ、先生！？」

シオンのバイクが坂を走りスピードを上げる

「おの野郎... どうするんだ?」

せらば牛尾！！

ジャンプウウ！？

ジャンプで出航した船に乗る気があああー!?

「あの野郎！
ジャンプしゃがつた！」

流石に牛尾さんもジャンプは無理か…

てかドジリス…じゃなかつたオシリス助けてえええーーーー

視点
十代

「あ、暇だな」

どうとう来なかつたなあのHERO使い

ネオスかつこ良かつたけどもう見られないのかあ～

「ああああああ！－！－！－！」

「な、なんだあ！？」

バイクが……此方に向かつて飛んできたあ！？

「イヤツツ亦オオオオオオオウ！！」

「先生余裕だなオイ！！」

そう言いながらバイクは船に着陸した

バウンドしながら

「……なんとか着いたかあ」

「…大丈夫か？」

十代がネオス達に声をかける

「「「大丈夫だ。問題無い」」」

「そ、そつか…」

でもあのHERO使いが来て良かつたぜ！

「なあ！

デュエルアカデミアに着いたら俺とデュエルしようぜー。」

「…あ、ああ。

でもその前に休ませて…あううううん

こうして俺達の学園生活が始まった

大丈夫だろうかネオス？

第2話 ネオス「」の本田見てたら速いな程度だけど実際体験してみたらめ

ネオス「私がホームレスってどういう事！？」

ガイウス（作者）「仕方ないじゃん。
家無いし金無い」

ネオス「喧しい！！」

ガイウス（作者）「まあとにかく新キャラが出たので自己紹介だ。」

ネオス「無視するな！！」

剣八「城之内 剣八です。

一言言うと兄さんはデューリストよりギャンブラーが向いていると
思つ

シオン「シオン・リイスだよー！

身長の事は禁句だからね！！」

ガイウス（作者）「といつ訳で次のネオスをお楽しみください」

第3話 十代「所詮アニメ版E・HEROなんぞより漫画版E・HEROなんぞ

今回は十代中心です

そして原作とは少し違つ展開

第3話 十代「所詮アニメ版E・HEROなんぞより漫画版E・HEROなのかな

視点 ネオス

デュエルアカデミア 体育館

「デュエルアカデミアにようことや。
この学園で健全なデュエリストを目指して頑張つてください」

私達入学生は今、鮫島校長の挨拶を聞いている

短くて言いな～っと思つていたら十代は立つたまま爆睡していた

器用だな…

ちなみに入学式には教師全員が此処にいる筈なのだがシオン先生だけはいなかつた

そして入学式が終わり私達は皆それぞの寮に向かつていった

イエロー寮

「なかなか良いところじゃないか

此処はあのヒアーマン三沢がいたと皿のイエロー寮だ
地味だの空氣だの言われてたが一番良い寮じゃないか

レッジド寮は言つまでもない

ブルー寮はあらゆる意味で豪華なのは良いが料理が決まっていらないし
食べれるんだとか

実は私は大食いなのだよ（笑）

「あ、ネオスじやん」

あの身長の低い幼女は…シオン先生か

「また会つたね」

そして不良役がめちゃくちゃ怖い剣八君だ

「ネオスつてイエローなんだ。
ワタシは此処の寮長だよ」

「寮長つて…その身…じゃなくてその歳で？」

「前の寮長がカレー屋を継ぐとかで止めたやつなんだよね」

たしか元の世界のイエロー寮の寮長ってケバ山だっけ？

違つ様な気がするが… まつ良いか

「そりいえば公園で学費とか言つてたがまさか…」

「うん。

2年生だよ」

先輩じゃねーか…

学費とか言つてたからまさかとは思つてたが先輩だったとは…

「ま、まあ僕の事は呼び捨てで良いよ。
どうせ呼び捨てで呼ばれるだろうし…」

どうやらこの人アカデミアの宿命の一つを分かつているようだ

アカデミアの先輩は大抵呼び捨てで呼ばれる

例外（吹雪）はあるが大抵呼び捨てで呼ばれる

隼人が言い例である（まあ隼人は留年してたが）

「まあとにかく荷物を置いてきなよ」

「あ、はい」

こうして私は荷物を部屋に置いてきたのであった

視点 十代

今俺と翔はデュエルの匂いに釣られて（もつとも翔はデュエルの匂いなんてわかりません）デュエルフィールドにやつてきた

だけどそのデュエルフィールドはオベリスクブルー専用だつたらしく2人のブルー生徒に門前払いされていたけど…

「じゃあお前、俺と勝負しないか？

それなら良いだろ？」

「誰かと思つたら！？」

「万丈目さん！

クロノス教諭に勝つた110番ですよ！」

なんか鶏頭の奴が現れたな

「あつ、俺は遊城 十代！

よろしく！

…でアイツは？」

あつ、鶏頭に睨まれた…

「お前万丈目さんを知らないのか？

同じ1年でも中等部からの生え抜き、超エリートクラスのナンバー1！」

「鶏頭で笑わせる未来のお笑いデュエルキングとの呼び声も高い万丈目 準様だ！」 鶏頭つてやつぱりコイツらも… 「誰が鶏頭だ！！」あつ、聞こえてたみたいだ

「なあ、アイツってあの頭氣にしてんのか？」

「昔自分ではかっこいいと思つてしてたけどかっこ悪いのが分かつて気にしてんじゃないのか？」

「最初あつた時とか笑うの堪えてたもん（笑）」

まじかよ…！（笑）

てかなんで俺達仲良く話してんだ？

「貴様等…

なにヒソヒソ話しているんだ！」

「け、決して頭の事じや無いですよ…」

「やはり頭の事か…！」

あつ、バレた

「頭の内容に触れた罰としてアンティデュエルだ！」

なんかデュエルする事になつたんだけど…まあ良いか！

「良いぜ！

売られたデュエルは買つのが礼儀だ！」

「後悔するなよ？」

「「テュル」」「ほお？」こんな時間にトユエルとはな 貴様は……」

な、なんだあの銀髪おかっぱ頭は？

「歓迎会とやらが始まるがこのまま『トユエル』をしても「お前等行くぞー！」ふん」

万丈目達が行つちまつた

「貴様が遊城 十代か？」

「そうだけど誰だよお前？」

「俺の名はタイタニア所属の白鳥 剣だ」

「タイタニア？」

「タイタニアとはオベリスクブルーを超えるクラス。
選ばれし『トユエル』リストのみが選ばれるクラスだ！」

選ばれしつてタイタニアなんて初めて聞いたんだけど……

「貴様の試験『トユエル』見たぞ」

「なんだつて？」

「E・HEROを使っていたのを見たが……紙束だな」

「なんだと……！」

「イシ……！」

俺のデッキを紙束って言いやがったな……！

『此処でストップ！

このオシリスの天空竜が紙束について説明するぞ！』

「こきなり出てくんなドジリス！」

『黙れネオス！

遊戯王で書つ紙束とは『デッキとはいえないカードの束』といつ意味である！

この世界で自分のデッキを紙束呼ばわりされるのは自分の魂を侮辱されたのと一緒に訳である！

『ノレオシリスの説明終わり！』

な、なんか声が聞こえたんだけど……今はそんな場合じやねえ……

「お前……俺のデッキを紙束って呼びやがったな！」

「俺は正直な事を言つたまでだ。

E・HEROには2種類ある。

一つはお前が持つなにをしても中途半端な普通のE・HERO！

そしてもう一つは属性を力とし圧倒的な力でフィールドを支配する属性E・HEROだ！』

属性E・HERO……！

俺が使つてゐるE・HERO達が使われなくなつた元凶……！

お前まだそのE・HERO達を使つてんのかよ！

今は属性E・HEROだろ！

そのまま、ゴミを使つぐらにならデュエルを止めちまいな……デュエルしよう

「デュエルだと？」

「E・HEROが属性E・HEROに負けてない事を証明してやる
！」

「構わんさー

直ぐに終わらせてくれる！

「ア、アニキ～！」

あれ……？

「翔……いたのか？」

「最初からいたツスよ……」

「めん……素で忘れてた

「「デュエル……」「

十代 LP4000 白鳥 LP4000

「先攻は俺からだ！」

ドローー！

手札から融合口を発動！』

融合
通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによつて決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「手札のフュザーマンとバーストレディを融合！
現れよ！E・HERO フレイム・ウイニングマン！」

E・HERO フレイム・ウイニングマン

星6／風属性／戦士族／攻2100／守1200

「E・HERO フュザーマン」 + 「E・HERO バーストレディ

イ

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが戦闘によつてモンスターを破壊し墓地へ送つた時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「ターンを終了するぜ！」

「やった！」

アーチのヒースモンスターだ！」

俺のマイフェイバリットカードで乗っきてやるぜー。

「俺のターン！

ドロー！

手札から苦渋の選択を発動！』

苦渋の選択

通常魔法

自分のデッキからカードを5枚選択して相手に見せる。
相手はその中から1枚を選択する。

相手が選択したカード1枚を自分の手札に加え、残りのカードを墓地へ捨てる。

「『苦渋の選択？』」

あんな使えないカードを…？

「俺が選んだのは『レだ！』

沼地の魔神王 × 2

E・HERO オーシャン
E・HERO プリズマー
E・HERO ハーマン

属性E・HERO…！

「…俺はE・HERO プリズマーを選択する

「ではE・HERO プリズマーを手札に加え残りを墓地に捨てる。
そしてプリズマーを召喚!」

E・HERO プリズマー

星4／光属性／戦士族／攻1700／守1100

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体を相手に見
せ、そのモンスターにカード名が記されている融合素材モンスター
1体を 自分のデッキから墓地へ送つて発動する。

このカードはエンドフェイズ時まで墓地へ送ったモンスターと同名
カードとして扱う。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「プリズマーの効果を発動!

デッキからモンスターを墓地に送る事でこのモンスターは墓地に送
つたモンスターと同じモンスターとなる!
俺はデッキからヒーローマンを墓地に送る!」

プリズマーの身体が歪みヒーローマンの姿になる

「さつきからモンスターを墓地に送つてなにがしたいんスかー!」

翔が馬鹿にしながら囁つ

「今から貴様等に墓地肥やしといつ物を教えてやるー!」

「「墓地肥やし?」」

墓地肥やしつて…なんだ?

「手札から死者蘇生を発動！」

死者蘇生

通常魔法

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

「墓地からエーティーを特殊召喚する…」

E・HERO エーティー

星4／風属性／戦士族／攻1800／守 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、次の効果から1つを選択して発動することができる。

自分フィールド上に存在するこのカード以外の「HERO」と名のついたモンスターの数まで、フィールド上に存在する魔法または罠カードを破壊することができる。

自分のデッキから「HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「エーティーの効果を発動！

デッキからHEROを1枚手札に加える！

俺はフォレストマンを加える！

更にミラクル・フェージョンを発動！」

ミラクル・フェージョン

通常魔法

自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、「E・HERO」

とこの辺のついた融合モンスター1体を融合!ツッキから特殊召喚する。

(Eの特殊召喚は融合召喚扱いとする)

「墓地のオーシャンと沼地の魔神王を融合!」

現れる! E・HERO アブソルートZero!」

E・HERO アブソルートZero

星8／水属性／戦士族／攻2500／守2000

「HERO」と名のついたモンスター+水属性モンスターこのカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO アブソルートZero」以外の水属性モンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「な、なんでE・HEROと関係ないモンスターと融合ができるんスか!?」

「沼地の魔神王はあらゆる融合素材の代わりにできるモンスターだ! もっとも属性E・HEROは指定されたE・HEROと属性さえ揃えば融合が可能なのだがな」

「や、そんなの反則ツスよ!」

「はやけ!」

更に!!ラクル・フュージョンを発動! フィールド上のエアーマンと墓地のエアーマンを融合!

現れる! E・HERO Great TORNADO!」

E・HERO Great TORNADO
融合モンスター

星8／風属性／戦士族／攻2800／守2200

「E・HERO」と名のついたモンスター + 風属性モンスター
このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが融合召喚に成功した時、相手フィールド上に表側表示
で存在する全てのモンスターの攻撃力・守備力を半分にする。

「Great TORNADOの効果発動！」

相手フィールド上のモンスターの攻守を半分にする！

E・HERO	フレイム・ウイングマン	攻撃力2100	105
0	守備力1200	600	

「バトル！」

プリズマーでフレイム・ウイングマンを攻撃！

「畜生……！」

十代 LP4000 3350

「残りで一斉攻撃だ！」

「畜生あおあお！…」

十代 LP3350 - 1950

視点 翔

「やはり中途半端はこの程度か。
せいぜいアカデミアを楽しむが良い」

白鳥がデュエルフィールドを去つていく

「アニキ！」

「翔、デュエルって楽しむだけじゃ駄目なのかな？」

ア、アニキ…？

「アニキ…なにを「所詮デュエルなんて強いカードを使わないと勝てないって事なのかな…？」

アハ…アハハハハ…「アニキ…」

僕はその後アニキをレッド寮まで送つていった

そしてアニキは歓迎会にも参加せずに一日中悲しそうな顔で夜空を見ていた…

第3話 十代「所詮アニメ版E・HEROなんぞより漫画版E・HEROなのが

ネオス「属性E・HEROめえ……！」

オシリス「このまま属性落す（闇落ちの属性E・HERO版）しな
ければ良いが……」

ネオス「私は十代を信じるぞ……！」

次回をお楽しみに！

第4話 ネオス「好きなカテ」「リー」を馬鹿にされるのはどんな人でもショックだ

ネオス「一期の十代だって悲しい時はあるのだよ」

第4話 ネオス「好きなカテ」「リー」を馬鹿にされるのはどんな人でもショックだ

視点 ネオス

入学式から1日が経ち授業に出でみると……

「楽しい」「デュエルより勝つ」「デュエルのかなあ……」

十代の様子が明らかに変になっていた

十代っていつも明るくなかったか？

そりや霸王化から解放された時は暗かつたけどさ

入学式から1日目から暗いのは異常である

「十代……どうした？」

「ネオスか……。

E・HEROって肩なのかな……？」

ちょ、いきなり何を言い出すのだ（汗）

「E・HERO使いがいきなり何を言い出「属性E・HEROの方が強いんだよな？」……今なんと？」

今嫌なキーワードが出たんだけど……

「だから属性E・HEROの方が強いんだろう？」

属性E・HEROだとおおおおーー?

「十代ー」

属性E・HEROと戦ったのかーー?」

「…ああ。

後攻1キルされた」

後攻1キルつて…した奴酷いだろ

突然だがアニメ版と漫画版の強さの差に凶悪な効果とお手軽な融合
素材なのは読者も知っているだろつ

属性E・HEROの恐ろしさは凶悪な奇襲性である

アニメ版と違いジャンク・シンクロンやデブリ・ドライゴンで蘇生させて融合

バトルフェイズ時に超融合でアブソと適当なモンスターを融合させ
て罠の回避＆追撃など

達が悪い運用法としてはスキドレと組み合わせたスキドレHERO
…つと話がそれてしまつたな

「…確かに属性E・HEROの方が強いぞ」

「…だよな。」

「デュエルは所詮強いカーーだが最強でも無いし必ず勝てる訳でもない」……

「十代のE・HEROでも属性E・HEROで勝てるわ。また勝てるように調整や強化をすればいいではないか」

「こんな事を言つたが大丈夫だろ?」

「…俺がデュエルを始めたのは父ちゃんがカードを買ってきてくれてそれで始めたんだ。」

「その時に俺が持つE・HEROと出会ったんだ」

あれ?

「この展開つて回想話か?」

「だけど始めた時期が悪くてさ。E・HEROより属性E・HEROが流行つてた環境の時に始めちまつたんだ」

今更中途半端なE・HEROかよ!-

属性E・HERO以外のE・HEROなんて屑当然だぜ!-

「小学校のクラスの皆が属性E・HEROで俺だけがただのE・HEROだったんだ。」

まあ白鳥 剥ほど強くなくてパーティもそんなに無かったからギリギリ負けるくらいだったけどな」

クラス全員が属性E・HERO!?

なにその悪夢……！

「俺だけがただのE・HEROだったから嘘められてや。最初は気にしてなかつたけど段々と気になつてきて授業も出られなくなつたんだ」「……それで？」

「父ちゃんに言つたら屬性E・HEROを嘘つてやるつて言つたんだ。

……でも俺のE・HERO達を捨てるのは嫌だつた

此方の十代はなんてHEROの思いなんだ……！

元の世界の十代なんか

属性じやない方のE・HERO?

アイツら弱すぎ

D・HEROより弱いんじやね？（笑）

十代貴様！

ディアボリックガイを讃めるな！

ディアボリックガイはガチカードだ！

……そういえば此方のD・HEROのはじつじつどうが？

「結局俺は属性E・HEROを置わざしてそのままユエルをしていつたんだ。

そつしてゐたところ、この時に鬼にカードが出てくるよつたって属性E・HEROに勝てるよつとなつたんだ

「父ちゃんに言つたら屬性E・HEROを嘘つてやるつて言つたんだ」

「多分十代の思いに『テッキが…いや、E・H E R O達が答えてくれたんじゃないのか？』

「そうかもな。

：なんかネオスに話したらすつきりしたぜ。

ありがとな！」

元の元気な十代に戻つて良かつたよ

実はと言うと3年後半の十代より此方の十代の方が好きだったりする
だってあっちの十代は大人になつたせいで現実見まくつて私をリストラするし

「そういうえば白鳥の奴いないな…」

「白鳥？」

「ああ、タイタニアとかいうクラスの奴でオベリスクブルーを超えたクラスとか言ってたんだけど…」

タイタニアか…

今度調べてみるか

視点 明日香

タイタニア

数年前デュエルアカデミアにできた新しいクラス

その強さはオベリスクブルーなど相手にならぬくらいの強さであり本物のエリートに相応しいクラスだった

だがその人数はたった15人と少なかつたのであった

「待つっていたぞ。

天上院 明日香君」

私は今タイタニアの寮長の部屋にいる

何故なら彼から誘いが来たからだつた

「君を呼び出したのは鮫島校長から君をタイタニアにクラスアップさせる事になったのだよ」

「タイタニアに……！？」

私が兄さんと同じクラスに……！？

「しかしただでクラスアップさせる訳にもいかないのだよ。1週間後にタイタニアの生徒とデュエルをしてもらつ

やつぱり簡単にクラスアップはできそうにないわね

「対戦相手は一いつひりで決めておくから楽しみにしておきたまえ」

「わかりました。
では失礼します」

明日香は寮長の部屋から出ていった

「…ぐだらん」

タイタニア寮長は椅子に座りながら咳いた

「あんな低レベルデュエリストがオベリスクブルーとはな…。
鮫島校長も人を見る目が無くなつて来たということか」

「吹雪君には悪いが徹底的に潰させてもうひづ…。」

タイタニア寮長は不適に笑いながらアカデミア本校を見上げていつ
た視点 ネオス

放課後となつた今、私はデュエル場にいた

何故なら放課後はデュエルが出来るからである

「フレーム・ウイングマンでダイレクトアタック！」

「うわあああ！」

レッド生徒 LP1700 - 400

調子を取り戻したのか十代は楽しそうにホールをしている

元の世界の十代もあんなんだつたらなあ…

「よーし…

次は「万丈目さん！

110番がいました！」その声は…。」

あのエリート臭に鶏頭…それはまさしく！

「「鶏丈目！…」」

「誰が鶏だ！

あと笑うな貴様ら！」

取り巻きまでもが笑つてるとか…万丈目哀れ

「それはさておき…ネオス！

俺とデュエルしろ！」

「なんだと？」

十代では無く私とだと？

「貴様珍しいE・HEROを持つているそうじやないか。
アンティルールでデュエルをしようじゃないか」

ネオス…といふか私の事か

「アンティルールは校則違反ッスよ！」

「大丈夫だ翔。

私に任しておけ」

そう言いながら私はデュエル場へと向かっていった

「よく逃げなかつたな。
褒めてやるぞ」

「もし貴様が負けたら私は勿論、十代と翔、取り巻き2人にドロー
パンを奢つてもらうぞ」

「なんだと！？」

「これならアンティルールにはならない…訳がないか

「「「「頑張れネオスー！！」」」

「貴様らあああ！！」

「ごめん万丈目

だが負ける気は無いので本氣で行くぞ

「「デュエル！」」

ネオス LP4000 万丈目 LP4000

「先攻は頂くぞ！」

ドローー！

地獄戦士を召喚！」

地獄戦士

星4／闇属性／戦士族／攻1200／守1400
このカードが相手モンスターの攻撃によって破壊され墓地へ送られた時、この戦闘によつて自分が受けた戦闘ダメージを相手ライフにも与える。

「更にカードを1枚伏せてターンを終了するー。」

「私のターン！」

ドローー！

天使の施しを発動！

デッキから3枚ドローし2枚捨てるー。」

「手札事故か？」

ラーメンローとはいえそんなカードを入れてるのはなー。」

「天使の施し嘗めんな！」

つーかお前の地獄戦士よりよっぽど使えるわー。」

「なんだと貴様！」

だつて地獄戦士つて悪く言えば劣化版アマゾネスの剣士なんだもん

アマゾネスの剣士は自爆特攻が可能で地獄戦士は自爆特攻しても効果が発動しないしな「そして手札からO・オーバーソウルを発動！」

O・オーバーソウル

通常魔法

自分の墓地から「E・HERO」と名のついた通常モンスター1体を選択し、自分フィールド上に特殊召喚する。

「私は墓地からE・HERO ネオスを特殊召喚する！」

ネオスの目の前にネオスが現れる

「いつの間にそんなカードを…天使の施しかー？」

「だから言つただろう！

天使の施しを嘗めるなと！

更にアナザーネオスを召喚してバトルだ！

アナザーネオスで地獄戦士を攻撃！」

アナザーネオスが地獄戦士にチョップし破壊する

「ちつ…！」

万丈目 LP 4000 3300

「だ、だが地獄戦士の効果を発動！
俺が受けたダメージを相手に与える！」

地獄戦士がネオスに迫り切り裂いてくる

『誰が雑魚モンスターだ』の野郎！』

「ぬう……」

ネオス LP4000 3300

なんか地獄戦士が喋つたが…まあ良いや

「ネオスでダイレクトアタック！

ラス・オブ・ネオス！」

ネオスが万丈目の頭にチョップを仕掛けた

「何故頭を…！」

万丈目 LP3300 800

「カードを一枚セットしてターンを終了だ

「良いぞネオス！」

「…………」「…………」「…………」

「調子に乗るなよ…！」

俺のターン！

ドロー！

強欲な壺を発動！

「デッキからカードを2枚ドローする！
更に地獄の取引を発動する！」

地獄の取引（アニメGXオリジナル）

通常魔法

相手の墓地に存在する攻撃力2000以上のモンスター1体と自分の墓地に存在する魔法カード1枚を選択して発動する。
選択したモンスターを相手フィールド上に特殊召喚し、選択した魔法カードを手札に加える。

「このカードは相手の墓地に存在する攻撃力2000以上のモンスター1体と自分の魔法カード1枚を選択する。

選択したモンスターは相手フィールド上に特殊召喚され魔法カードは俺の手札に加える！

俺はお前の墓地からネオスを選択し俺の墓地から強欲な壺を選択する！」

私のモンスターを特殊召喚だと…？

もしかしてあの付せば奈落の落とし穴か？

だがそれなら私（ソリッドビジョンの方）が〇・オーバーソウルで特殊召喚された時に発動する筈だが…

「そしてクリッターを召喚！」

クリッター

星3／闇属性／悪魔族／攻1000／守 600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

「…アレが引けなかつたがまあいい！」

手札から強制転移を発動！」「強制転移だと…！」

強制転移
通常魔法

お互に自分フィールド上に存在するモンスター1体を選択し、そのモンスターのコントロールを入れ替える。

そのモンスターはこのターン表示形式を変更する事はできない。

「俺はクリッターを選択する…！」

「ならば私はアナザーネオスを選択する」

まさか強制転移とはな…！

強奪じゃないだけましと言えるが…やられた

「出た！

万丈目さんの魔法コンボだ！」

「更に強欲な壺を発動し2枚ドロー！

そしてライトニング・ボルテックスを発動！」

ライトニング・ボルテックス

通常魔法

手札を1枚捨てて発動する。

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

ライトニング・ボルテックスの絵柄から雷が放たれネオスのモンス

ターを全て破壊した

ライトニング・ボルテックスとかなんてデスティードローなんだ…

「更にクリッターの効果を発動！」

このカードがフィールド上から墓地に送られた時、デッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える！

俺が加えるのは地獄戦士だ！

そしてバトル！

アナザーネオスでダイレクトアタックだ！」

アナザーネオスがネオスにチョップを仕掛ける

「リバースカードオープン！
リビングデッドの呼び声！

墓地からネオスを特殊召喚する…」

「ちつ！

ターンを終了する！

「私のターン！

ドロー！

万丈目！

このデュエル…もうつたぞ…

「なんだと…？」

「手札からO・オーバーソウルを発動！」

「なにい！？」

ちなみに〇・オーバーソウルは3枚積みだ！

かつて十代に1デュエルだけで7回も蘇生させられたからな！

「ネオスを特殊召喚する！」

ネオスの目の前に2体目（勿論ソリッドビジョン）が現れる

「バトル！
ネオスでアナザーネオスを攻撃！」

「ぐつ！」

万丈目 LP 800 200

「もう1体のネオスでダイレクトアタックだ！」

ネオス（2体目）がラス・オブ・ネオスで万丈目を攻撃した

「ぐわあああ！……」

万丈目 LP 200 - 2300

「やつたなネオス！」

「「「ドローパン！ドローパン！」」

なんとか勝つたな

もしもあの時のカードが強制転移ではなく強奪だったら危なかつた
がな

「約束通りドーパンを奢つてもらおうか」

「くつ…仕方ない」

その後…

「やつたぜ！」

黄金の卵パンだ！」

「ま、幻の唐辛子パンッス…！」

相変わらず凄いな十代

さてと私が引いたパンは…？

「カードパン？」

中身は…万能地雷グレイモア…「…」は、腹が…ぐわあああ…！…

「ネオスちゃん！」

消費期限が過ぎたパンが…って遅かつたみたいね

トメさんこの野郎…！（泣）

「うして私はトイレに一直線となつた

ネオスメ

消費期限切れのパンを引くとは哀れだな（笑）

しかもカードがグレイモアとはな

まさしく地雷パン（笑）

「さてと俺は…カードパンか。

中身は…炸裂装甲…つおおおおーー！」

は、腹があああーー！

「万丈田ちやんも引いちゃったのね

トメちゃん…！

腹が炸裂するなんて…！

いつじて俺もトイレに一直線となつた

第4話 ネオス「好きなカテ」「リー」を馬鹿にされるのはどんな人でもショックだ

ネオス「クラス全員が属性E・HEROってどういふこと...? (汗)」

十代「昔流行つてたからな。
俺だけが違和感あつたくらいだぜ?」

ネオス「...恐ろし過ぎる(汗)」

第5話 ネオス「儀式」と融合の混合が事故の元だと何故わからん…

明日香

ネオス「越えたくても越えれない壁があるのだよ…」

一部編集しました

まあ一部の文字が変わっただけで話自体は変わりませんが（幼なじみ 幼馴染 グラマー グラマラス）

第5話 ネオス「儀式と融合の混合が事故の元だと何故わからん!」

明日香

視点 ネオス

イエロー寮 ネオスの部屋

私はつい最近気付いた

アニメ版と何かが違う事に

属性E・HEROはいつまでもない

まず違うのはシオン先生と剣八、そして白鳥という生徒だ

この3人はアニメ版にいなかつた

特にシオン先生みたいな人は他のアニメにもなかなかいないしな

次にタイタニアというクラス

まだよくわからないがこのクラスもアニメ版にいなかつた

結論はといふとこの世界はアニメ版に極めて近く、限りなく遠い世界だということだ

「おのーれえええええーーーー！」

つい叫んでしまった

ネオス悪い子（笑）

しかし…逆に言えば十代が霸王化しない確率があるかも知れないと
いう事だ

だつて此処がパラレルワールドならアニメ版とは展開が違う筈
ところの事は新鮮な気持ちで物語を楽しめるとこつ事だ

「フフフフ…やつてやる、やつてやるー。」

また叫んじゃったよ…（汗）

…まあ一つ注意しどのま転生者だな

転生者が必ずしも良い奴って訳じや無こし向よつシンクロとエクシ
ーズが出てきて

シンクロにエクシーズ…面白そうなので採用シマース！

…なんて事になればシンクロ＆エクシーズ最強伝説が始まる

それだけはなんとしても阻止しなければな…！

「よーし、やるやく」「ひるせーんだよクソがあーーー」「ウボアアアアー！
ー！」

私は突然現れた剣八に椅子を投げつけられ某皇帝の如くウボアーナ
目についた…（泣）

10分後

「う、ごめん…」

「此方も煩くてすみませんでした…」

「2人とも煩いし危ないからね～」

他人事みたいに言わないで下さいシオン先生…

そして剣八…じゃなくて剣八様

貴方本当は喧嘩強いでしょ…？

「てかネオスってブルー女子寮に行かないの？」

「女子寮に？」

行く予定は無いですが…ていうか男子が女子寮に行くの禁止でしょ
ーが

てかなんで女子って必ずブルーに入れるんだよ

羨まし過ぎるぞ…（泣）

「まあそりゃそうか。でも君に拒否権は無いけどね。

「レを鮎川先生に渡しといとよ」

「シオン先生…なんですかそれ？」

「マク SFと新起動戦記ガン MWのDVDだけど…」

「なんでマク SFヒガン MWがあるんだ！」

まあ私も好きだけどね…（笑）

「今日返すつもりだったんだけど忘れてやつてしまふ。
ところが訳でネオスにこのDVDを返して貰つてしまつて、
「明日返せば良いでしょーが！」

「遅れたら金請求されるんだよおおおお…！」

「そんなの知るかあああ…！」

その後もめでてもめて結局私が行くことになつたちなみにシオン先生は報告書を書くとかで行けれないから私に頼んだとか

…おのーれえええ（泣）

ブルー女子寮…の近くの森

「何処だ此處はあああ…？」

森の中をぐるぐる周り気ついたら無限ループに引っかかるといつ HEROにあるまじき行為をしてしまっている

「…どひょい？」

正直何処に行けば良いのか迷う

もつ無限ループしたくないし

「誰かああ！」

助けて下さあ「左に曲がり更に上に行けば森から出られるぞ」…はい？

後ろから声が…まさか！？

「幽れ「幽靈では無い！タイタニア所属のクリス・ラーディッシュだ！」…はい？」

その後…

「貴方もブルー女子寮に…？」

「そうだ。

少し用があつてな」

少しして落ち着いた後、私達は自己紹介をしブルー女子寮に向かっている

「てかクリスさんタイタニア所属なんですね」

「そうだ。

まあクラスなど飾りみたいな者だ。
偉い者にはそれがわからんようだが

飾りねえ……間違つて無いけど

てか読者にはどうでも良いかもしけんが彼女を見ると……美人だ

美少女というよりグラマラスレベルだよまじで

更にツインテール……私の好みだ（嬉）

「…どうした？

赤くなってるぞ？」

「あ、すみません」

てか早くブルー女子寮に行かなければな……！

ブルー女子寮 湖

「…なにしてんだアイツら？」

ブルー女子寮に着いて見てみたら湖で十代達がデュエルをしている
じゃないか

「エトワール・サイバーを召喚！」

エトワール・サイバー

星4／地属性／戦士族／攻1200／守1600
このカードは相手プレイヤーを直接攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

エトワール・サイバーか

「更にカードを1枚伏せてターンを終了するわ！」

：私にはあの伏せがなんとなくわかるんだが

「…ワンパターンだな。

あれから全く成長していないな」

クリスさん？

もしかして明日香の知り合いなのかな？

「俺のターン！

ドロー！

スペーカーマンを召喚してバトルだ！」

「（私の伏せカードなんて眼中に無いの…！？）

罷発動！

ドゥーブルパッセ！」

ドゥーブルパッセ

通常罠

相手モンスターが自分フィールド上の表側攻撃表示モンスターの攻撃対象になつた場合に発動する事ができる。

そのモンスターの攻撃は自分への直接攻撃になる。

その後、相手プレイヤーは攻撃対象となつたモンスターの攻撃力の数値分のダメージを与える。

「やはりドゥーブルパッセか…。

相手の攻撃を自分が受けてその後自分のモンスターはダイレクトアタックをするカードだつたな。」

「そうだ。

…だがあんなカードを使うより魔法の筒を使った方が遙かに良いのだがな

…じもつともです

関係無いけどドゥーブルパッセのOCG化は誰も望んで無いよね…？

その後2人のデュエルを見続け…

「サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！
ボルティック・サンダー！」

「さやああああ！！！」

サンダー・ジャイアントにより勝負が決まった

「…戦略性が0だな。

相手が良かつただけでアカデミアから出たら間違いなく負けるな…！」

「

「…今なんど？」

「アカデミアを出たら間違いなく「その前！」…相手が良かつただけの所か？」

「十代は弱く無い！」

私の友を侮辱するのは許さん！」

元の世界の十代は嫌いだがこの世界の十代を侮辱するのは許さん…！

「…すまなかつた。

彼を侮辱したつもりは無かつたのだが…すまない

「いえ…此方も大声で怒鳴つてすみませんでした」

私とした事が…つい感情的になってしまった

「…私は明日香がタイタニア昇格に相応しいか此処に明日香のデュエルを見にきた」

「…盗み見ですか？」

「いや、本人の要望だ」

本人の要望だと…？

「それはどういづ…？」

「明日香の兄の吹雪と私は幼馴染でな。
いつもテコエルなどをして遊んでいたものだ」

あの吹雪さんと幼馴染なのこの人！？

それなのにアカデミアの女子にナンパしてゐる吹雪さんって…（アニメ版ではだけど）

「…初対面にこんな話をするのもアレかな。誤解とはいえ友を侮辱してしまったお詫びにそれを返しておく」

クリスはネオスの持つロボロを受け取る

「あの…それ誰のか鮎川先生のだろう?
…私も時々借りているからな」

アンタもかい！

そんなツッコミをしたかったが彼女に失礼だったのと心中でツッコミを入れといった

視点 クリス

「DVD持つてきてくれてありがとうね～！

（シオンの野郎…！

生徒に返却をせるとは……）」

「いえ、借りたものを返すのはマナーなので。
それとシオン先生には返したのはネオスと言つてくれればありがたいのですが…」

「了解！」

…これ逆襲の ャアのロバロよ

これは…逆襲の ャア！？

「あらがとうござります…！」

これ見たかったのだ…！

クリスが鮎川の部屋から出る

鮎川の部屋から出た直後…

「…ちよつと良いですか？」

…明日香か

「…良いだろ？？」

ブルー女子寮 湖

「何故…何故あの時来てくれなかつたの？」

そんな事か

「来たさ。

だがお前に見られない所にな」

「何故そんな「誰かに見てもらわないとデコルが出来ないのか?」

「くつ!」

「そして一つ言つておく。

今のお前では私は愚か吹雪にも勝てない」

私はそう言い残しブルー女子寮を去った

「またか!」

「あの人はあんな事しか言わない!」

「あの人には私の真の実力を見せて勝つてやる!」

第5話 ネオス「儀式と融合の混合が事故の元だと何故わからん!」

明日香

ネオス「最後のは意味ありげな終わりかただな……」

ドジリス『次回は月1試験だ。
てか月1試験勉強してるので?』

ネオス「勉強なんか必要…あるかもしねい(汗)」

ドジリス『…心配だな(汗)』

第6話 十代「テスト勉強なんてしたくないぜ…」 ネオス「いや、テスト勉強

ネオス「咄はテスト勉強しような…」

十代「実技さえできればそれでいいさ…」

白鳥「その甘つたれた根性を呂き直してくれる…」

十代「ぬわああああ…」

今回はあとが色々無しです

第6話 十代「テスト勉強なんてしたくないぜ!」 ネオス「いや、テスト勉強

視点 ネオス

デュエルアカデミア 教室

「それでーはシニヨーラ明日香。

混沌の黒魔術師をディメンション・マジックで特殊召喚しモンスターを破壊した後、混沌の黒魔術師の魔法カードの回収効果の処理はどうなるか説明するノーネ！」

「混沌の黒魔術師の魔法回収効果は特殊召喚時に発動します。特殊召喚時に「ディメンション・マジックの破壊効果を使った場合、タイミングを逃し発動が不可能となります。

発動したい場合、「ディメンション・マジックの破壊効果を使用しなければ魔法カードの回収効果が使えるようになります」

「流石はオベリスクブルーなノーネ！」

私は今アカデミアで授業をしている

てか混沌の黒魔術師か…

たしか禁止カード化された時はやけ酒してたって布拉マジ先輩が言ったな

「…ではシニヨール丸藤！」

「は、はい！」

「優先権についての説明をお願いするノーネー！」

優先権つて…初心者にはかなり難関な物を出すな

「え…ゆ、優先権は…わかりません」

まあそりや そうだわな

優先権なんて初心者はわからないし

「よろしい。
では私が優先権を教えてあげまスー！ノ！」

優先権とは（以下略）

その後あまりにも説明長くなつたので省略させてもらつた

そして授業が終わり…

「来週は月1テストがありマース！」

「テストおおおー！？」

「まじかよ…！」

「テストは学園の仕来たりナーノ！」

テストかあ…

私にとっては初めてだ…と思つたかね読者の皆?

我々HEROにはHEROになる為の試験があり筆記は勿論、実技や作文、更には面接と人間と変わりないテスト内容だつたりするちなみにHEROに1番大事なのは道に迷つたお婆ちゃんに道を教えるくらいの小さな親切心が大事なんだとか…つと話がそれてしまつた

「今回アカデミアのテストに絶対に出るノーカー、優先権なノーネ! 優先権はデュエルモンスターで1番大事ですカーラしつかり勉強するノーネ!」

優先権：確かに大事だが十代とかはわかるのだろうか？

「それでは解散ナーノ!

あとシニヨール十代とシニヨールネオスは教室に残つてもらうノーノ！」

「な、何故に…？」

「私なんかしたかな…？」

そして私と十代、そしてクロノス以外が教室を出で…

「シニヨール十代！

貴方は寝ていたのでテストについて聞いていないと思うノーネ！」

「寝ていたのバレたのかよ！？」

「十代…」

授業は真面目に受けるべきだぞ

「今回のテストは優先権についての問題が出るので勉強しておくれ
一ネ！」

「ゆ、優先権？」

「十代…やはりわからないか

「だつて優先権なんて知らないし月1試験なんて実技でなんとかするぜ」

や、やはり聞いてなかつたか…

「月1試験は筆記と実技の合計140点を取らないとレポートを書かれるんだぞ…！」

「…え？」

唖然としてるが事実だぞ

「シニヨールネオスの言つ通りなノーネ！

ていうか寝てるから大事な事がわからなくなるノーネ！」

「絶望した…！」

いかん…！

十代が何処かのマイスターもとい教師みたいな事になつている…！

「てかクロノス先生は何故私を「なんとなくなノーネ」…私の時間
を返せ！」

絶望した！

クロノスの氣まぐれな嫌がらせに絶望した！

イエロー寮 ネオスの部屋

「というわけで月1試験の勉強を始めます！」

「べ、勉強かあ…！」

「諦めるツスよアニキ」

今日から私の部屋でシオン先生による月1試験の対策として勉強する事になった

勉強を受けるのは私に十代に翔は勿論、剣八に何故か万丈目と取り巻き2人もいる

「まあとりあえず抜き打ちテストからしますか」

「抜き打ちテストおー!？」

「文句言つなー!」

それではスタートー!」

といつわけで抜き打ちテストが始まつたのだが……なにこれ?

問1・相手が炸裂装甲を発動した時、無効したい場合はどうするか
答えよ

問2・カオス・ソーサラーを蘇生するには?

めちゃくちゃ簡単だな

まあ抜き打ちテストだし当然といえば当然だが

そして…

「はい終了!」

「やつと終わつたあー!」

抜き打ちテストが終わりシオン先生が採点をする

「じゃあ成績発表するよー!」

まず剣八とネオスは「ひ」と無しで合格

あんな難易度で私を苦しめるなど100年早いわ!

「先生。」

僕達はともかく他の人は？

「…剣八の予想は見事当たつてるよ。
ブルー3人組はギリギリ合格。
レッド2人は…なにこれふざけてんの？」

「やつぱつ…」

やつぱつで十代達が不合格になるの予想してたんかい！

まあ私もだけどせー。（汗）

「まあそこの水色眼鏡。

…最初の1問を間違えるとかどうなつてんの？」

「サイクロンで炸裂装甲を無効にできるんじゃ」「あくまでカードを
破壊するだけで効果を無効することはできないよ？」「なん…だと…
？」

「全く…コレだからレッドは」

認めたく無いが万丈田の言つ通りかもしれない

オベリスクブルーがオシリスレッドを見下すのも無理は無いかもし
れないな

まあ見下す事自体いけないのでだが

「そして十代…！」

「なんで白紙なの…？」

「わ、わからなくて「…徹底的に鍛えてやるわあ…！」アババババ
バ…！」

「シオン先生落ち着いてください。
首しめてますよ」

十代いいいー！

そして地獄（十代にとっての）が始まった

次の日

「お・は・よ・う…」

「お、おはよー…（汗）」

十代の顔がワイトみたいな事になっていた

なんでもシオン先生がレッド寮に来て十代を深夜まで勉強させていた
たらしく

シオン先生やり過ぎです

「ヤバイ、まじヤバイ…！」

「これ以上やつたら死ぬ…」「でもレポート」「レポートも嫌だけど
勉強も嫌だあ…」「はあ…」

十代…諦めてくれ

私にもシオン先生を止めるのは無理だ（汗）

そして1週間後

「優先権とは各フェイズやステップでカードを最初に発動する権利は、常にターンを進めているターンプレイヤーにあり（以下略）」

「あの…十代だよな？」

「アレが110番だつた十代なのか…！」

「おひー！

『』で優先権はマスターしたぜ！

あれから1週間

十代はシオン先生による地獄を乗り越えついに優先権を覚える事ができた！

…つて今優先権はつて言わなかつたか？

「カオス・ソーサラーを正規召喚し神の宣告で召喚を無効され破壊されたカオス・ソーサラーは蘇生できるか？」

なんか嫌な予感がするから私も問題を出してみたが…

「正規召喚したから蘇生できるんじゃねーのかな？」

「予想通り優先権しか頭に入つて無いじゃないか！」

「シオン先生！」

「これどうこう事ですか！？」

「あ～あれだよ。

優先権を中心に勉強してたから他の所が頭から離れちゃったみたい」

「なにしてんですか！」

「ハレジやあ明日までに間に合わないぞー！」

「とりあえず今日は遅いから寝よー！」

夜更かしして遅刻なんてしたら全てが水の泡になるからさー。」

十代：私にはもうひとつある事もできないようだ

レポート頑張ってくれ

視点 十代

「遅刻だああああーーー！」

レポート回避の為に帰つた後に遅くまで勉強したのが間違いだつた！

しかも全然頭に入つて無いし！

やつぱ勉強なんて柄じゃないぜ！（泣）

「ふんぬうううう！」

あれは…たしか購買部のおばちゃん！

「手伝うぜー！」

「テストに遅れちゃうよー…？」

「困ってる人をほっとく方が無理だ！」

俺つてこいつのに弱いタイプなんだな絶対…

「にしても重い…！」

「坂道だからねえ…！」

テスト…間に合わないだろうな

「貴様あ！」

テストが始まりそつな時に何をしているかあー！」

「お前は…白鳥ー！？」

な、なんでアイツが！？

「貴様は……遊城 十代か！？」

「まさかお前も遅刻か？」

「貴様……確かにそつだが貴様のよくなじょうもない理由では無い！」

「なんだと！」

まさか俺が寝坊したの知ってるのか！」

「その隈を見ればわかるわ！」

そつこええば最近あまり寝てないから隈が……やっぱ勉強なんて嫌だあ！

「それより貴様はなにをしてるのだ？」

「購買部のおばちゃんの車が故障して、仕方ないな。隣良いか？」
はい？

まだ全部言い切れてないし……てかもう車押してるし

「ぬおつやあああ！」

おつ…

だいぶ押しづくなつたぞ！

「全速全身だ！！」「

俺は無我夢中で車を押しながら案外白鳥つて良い奴なのかもしけないと思つたのだった

そして俺達は遂にアカデミアに着いたのだった！

⋮ テストに間に合ってくれええええ！！

第7話 ネオス「筆記テストがわからない場合は選択問題だけでもやつてしまひ

? ? ? ? 「ネオスと私は過労死コンビ」――

ネオス「過労死上等――

どんどんこや――」

フュザーマン「俺だつて過労死HEROの――頭だぜ――」

ネ&?（誰だ「マイシ……?」）

第7話 ネオス「筆記テストがわからない場合は選択問題だけでもやつてしまひ

視点 ネオス

デュエルアカデミア 教室

私は今テストをしている

つーか問題が抜き打ちテストより簡単過ぎるのだがなにこれ？

問1・ドラゴン族に伝説の剣は装備できるか？

仮にもアカデミアに合格してるのにこの問題は無いだろ？
しかし気になる問題もあったのだ

問13・新シリーズであるX・セイバーを開発した人物は次の内誰か答えよ

- 1・マリアン・ラーディッシュ
 - 2・ペガサス・J・クロフォード
 - 3・ゼノ・フェニックス
- … X・セイバーって未来のカードじゃないか！？

なんでX・セイバーが…って私が来たからアニメ版から離れたせい

だつたな（泣）

てかラーディッシュコットビツカで聞いたキーワードなんだけど

あとフロニッシュクスつてキーワードも

「な、なんとか間に合つたぜ……！」

「あと20分しか無いではないか！」

入口から声が……ってあれは十代！

「十代君に白鳥君。

早くテスト用紙を貰いに来るんだにゃ～」

あの銀髪おかっぱは白鳥と言つのか……って白鳥つて十代から聞いた
後攻1キルした奴じやないか！？

なんで仲良くな（？）来てるんだあの2人は？

まあ十代が来たし後は十代次第だな

視点 十代

「なにこれ？」

シオン先生の抜き打ちテストよりレベル低くね？

1番の問題なんか俺でもわかるし

でも1~3番の問題はわからないな…

とりあえず「テュエルモンスター」ズの産みの親であるペガサス会長に
しどこうかな

そしてテストの法則である選択問題は絶対にしておこう

奇跡さえ起これば正解するしな！

とりあえずレポート回避の為に最低でも40点は取るぜ！

視点 ネオス

「筆記テスト終了だにゃ～！」

午後から実技試験なので「テックの調整をしつゝじゅうじゅう！」

やつと終わったか

しかしテストのレベル低くて正直感謝している

だつてもしもテストのレベルが高かつたら十代がレポート地獄に転
落してた所だからな

「おおおおおお！」

なんか急に皆走り出したんだがなんだ？

「新しいパックが出たから皆買いに行つたのさ」

「…誰？」

なんだコイツは？

いきなり知らない奴に話しかけられる覚えは無いのだが… つてどつかで見たような？

「… そういうえば会つのは初めてだつたな。

俺は三沢 大地だ」

三沢… ってあのエアーマンか！

イエロー寮なのに一度も会つてなかつたな（笑）

「私はネオスだ。
てか新しいパックつて「新しいパック！？」私の台詞を最後まで言わせてくれ！」

十代と翔め…！

私の台詞を取るとは… できるな！

「ああ。

なんでもあの下級属性HERO最強と言われているエアーマンが収録されていると「なんだつて！？」顔が近い…」

つい顔を近づけてしまった

私は落ちついて三沢の顔から離した

しかしエアーマンか…！元の世界の属性HEROは他のHEROで嫌われているがエアーマンだけは違った

エアーマンはE・HEROだけでなくD・HEROやE・HEROをサーチし妨害する魔法・罠を破壊するHEROだ

更には性格も良く他のHEROにジュークを奪つたりうわつた属性HERO（主にオーシャンやボルテックなど）に虐められたアニメ版HEROを庇つたりしていた

そして私とエアーマンは属性HEROの中で優位つの友だった

元の世界ではエアーマンと一緒に暴れたものだ（属性HEROが来てからは私が散々な目にあつたが）

早い話エアーマンはあらゆる意味で本当のHEROである

「三沢は買つのか？」

「俺は買わないぞ。

自分のデッキを信じているから新しいカードなんて要らないわ」

なかなかかつてない事言つじやない

だが私は…！

「ネオスはばどいす」「買つー…」即答だな

「パック買うんスか！？」

さつき三沢君は「新しいカードが欲しいのでは無い。

エアーマンが欲しいのだ！」ほほ同じ理由じゃないスか！」

「ネオス…お前だけは属性HEROを使わないと思「属性HERO
なんぞに興味は無い！」

エアーマンに」だからエアーマンも属性HERO「エアーマンだけ
は違う！…エアーマン好きなのか？」

「大好きヤー！」

だつて属性HEROで唯一の友だしな

「エアーマンかあ…。

確かにエアーマンは強いけど…俺は属性HERO嫌いだ。
だけどネオスはエアーマンだけが好きならそれで良い…ってネオス
？」

「神速の速さで購買部に向かつて行つたぞ

「どんだけエアーマンが好きなんだ…？」

デュエルアカデミア 廊下

「どけどけえええ！」

「うわあああ！！！」

はつはつはー！

何故かスピードだけがHERO時代に戻っていた

まあ今は好都合だから良いが

フジヒロ

新しいバックを買うまではスピードナビZEROでござったぜ。」
「アイツの為にな

今ドジリスの声が聞こえたが気のせいか?

しかしアーヴィングの為とはなんの事だ…？

私は疑問に思いながら購買部に向かつて行つた

デュエルアカデミア 購買部

卷之二

エアーマニアアアアアン！

今買つてあげるからねえええ！！

「販売時間より早いが…セイ！」せんよりじぐ

「1パック1500円か1000円ですか…」

高いなオイ！

ちなみにD.P.とはアカデミアのお金であり入手方法はT.F.シリーズをした人ならわかるだろ？「買います買います！」

「毎度ありがとうございます…」

わてとどれを選ぼうか…

もしもエアーマン以外の属性HEROが出たら泣きたい

『買ええええ！
私を買ええええ！』

…なにこの声？

このパックから聞こえるんだが…よし

「ではこれで」

視点 十代

ネオスが購買部に行つてるので俺達も購買部に行くことになった

まあ俺も属性HEROは嫌いだけど中身は気になるしなにヨリドロ
一パンが食べたかった

「全く貴様は…！」

責めてエアーマンくらい入れたらどうだ？」

「俺は属性HEROは嫌いなんだよ」

「それは俺に対する挑戦か？」

「そういえば白鳥は属性HERO使いだったな

「属性HEROなんてズルいカード」「そういえば貴様の兄はカイザーダつたな」な、なんでそれを…？」

カイザー…なにそれ？

「貴様の名字が丸藤だつたからもしかしたらと思つたのだ

「だ、だけどお兄さんとさつきの話がなんの関係があるんスか！」

「リスクペクトルとか言いながらパワー・ボンドで1キルする兄は良くて属性HEROのは駄目なのは矛盾してないか？」

「そ、それは…！」

パワーボンドってあのスーパー・レアカードの…？

「リスペクト・デュエルとか言いながら相手の全力をみたいとか言って自分はパワーボンドを使い叩きのめす。

更にはサイバー流はハンデスやデッキデスを批判してるそうじゃないか？

所詮リスペクトデュエルなんぞそんな物なのか?」

「……」

翔が半泣き状態になつてゐるじゃないか…

てカリスペクトデュエルの噂は少しだけ知つてゐる
なんでも相手を尊重し相手をリスペクトするらしい
でも白鳥が言つてゐる話が本当ならリスペクトデュエルつてくそつ
たれじやないか

ようは相手に全力を出させて”所詮はそんなものか。
では今から私の自慢の全力で潰してあげまーす! (笑) ”つていう
ただの見せ自慢だな

1つ勉強になつたのかな?

「ただいまー!」

「ネオス! ?」

「もう戻つて来たのか貴様! ! ?」

「足には自身があつてな!
所で翔の奴はどうしたのだ?
半泣き状態なのだが?」

「まあ色々あつてな。

それよりパックの中身はなんなのだ？」

翔の事はスルーかよ！？

「アニギィ…！」

リストペクトデュエルはただの見せ面じゃないよねえ…？」

「そ、それはだな…見てないからわからない」

「だ、だったらお兄さんのデュエルを見て見せ面じゃないか確かめてみてね！」

急に元気になつたな…

そういうえばネオスが買つたパックの中身はなんなんだろ？視点
ネオス

なんか翔が半泣きになつてたが十代が慰めたのか元気になつていた

「なあネオス！

パックの中身を見せてくれよ…」

「慌てるなつて！

…では開けるぞ…」

私はパックを開けて中身を確認する

一枚目はオーシャンか

…いらぬ

私はオーシャンを投げ捨てた

「貴様あ！」

オーシャンを投げ捨てるんじゃない！」

2枚目はボルテックか

…「コイツもいらぬ

ボルテックも投げ捨てた

「貴様あ！」

俺に喧嘩を売つていいのかあ！」

さつきから怒声が聞こえるが無視

3枚目は…なんで融合破棄が当たるのだ！

私は融合破棄を回収し4枚目を確認する

…Zeroかよ

「…破りたいんだが良いかな？」

「…やめたげでよお…」

やはり駄目か

私はNetteoを由比に向けて投げ由比の、テロで令和せた

「ぬわああああ……！」

てかエアーマン当たらないじゃないか！

きういの最後の一枚に賭ける！

「最後のは……エアーマン？」「

「まじかよー」

「やつたッス！」

エアーマンなのは嬉しいが……

「なにこのガリガリ？」「

私が手に入れたエアーマンは通常のイフリストと違い痩せ干そつていた

なにがあったんだエアーマン

『ネ・オ・ス……』

な、なんか聞いたことのある声が……ってエアーマン……？

「……うつとアヒレ行ってくれる

「遅れるなよー！」

私はトイレに向かった

エアーマンから事情を聞くために

そして…

「なにがあつたのだ？」

トイレに着いた瞬間に質問開始

そしてエアーマンは

『あつちの…あつちの十代が…!』

「まさか…リストラされた』リストラではなく死者蘇生で復活されたり貪欲な壺で戻されまた特殊召喚の繰り返しで過労死しかけた』貴様あ…！」

めちゃくちゃ使われてるじゃないか！

私なんか融合素材だけの扱いな上にリストラされたんだからな！
しかし気になる事があるな

「どうやつてこの世界に来たのだ？」

「デジリスがトロップさせてくれた」

デジリスの野郎… 今回は許す！

「でもまさかネオスに再開できるとは思わなかつたな。

ネオスがいなくなつてから魔王十代に過労死されるくらい重労働されてたからドジリスに感謝しないとな」

「…ドジリスに感謝している所で悪いが早速『テュエルに参加して欲しいんだけど…?』

「…まあ良いけど」

なんだその『また』『テュエルか…』みたいな顔！

気持ちはわかるが一緒に戦つてくれ！

『ただ今から実技テストを始めるノーネ…』

「なにい！？」

私はエアーマンを無理矢理『テッキに突つ込み』『テュエル場へと向かつていつたのであつた

…遅刻しそうな十代の気持ちが少しわかるかもしれないと思つた

第7話 ネオス「筆記テストがわからない場合は選択問題だけでもやつてしまひ

ネオス「何時まで月1試験が続くんだ！」

ガイウス（作者）「次回で終わるかな…多分」

ネオス「多分つてお前…（汗）」

では次回もお楽しみ！

第8話 ネオス「戦いで一番大事なのは相手の戦法をズタズタに引き裂く」と

予告通り月1テスト終了！

ネオス「長いわ！」

あとこんなノリだが今回はシリアス寄りだ」

注・明日香ファンすみませんな状態な話ですかも

第8話 ネオス「戦いで一番大事なのは相手の戦法をズタズタに引き裂く」と

視点 ネオス

デュエルアカデミア 廊下

『急げネオス！
間に合わなくなるぞ！』

「喧しい！」

読者の皆はわかると思うが私はデュエル場へと全力疾走中である
何故かHERO時代の速さがいつの間にか失つており遅い…という
よりは人間が走るくらいの速さに戻っていた

「今度は私が遅刻してしまう…」

私が全力疾走で走っていると田の前に人が！

「ヤバッ！？」

「！？」

…勿論正面衝突してしまった

HEROとして情けなく思つた瞬間だった

「あたたた…。

大丈夫か… つて貴方は…！」

「ネオスか？」

私が正面衝突し田の前にいたのはブルー女子寮の近くの森で出会ったクリスさんであった

「… そういうえばタイタニアも月1試験でしたっけ？」

「ああ。

それよりカード落としたぞ？」

カード… つて HERO 時代の私の奴が

「あ、ありがとうございます」

「実技テスト頑張るんだぞ」

「は、はい！」

私は再び全力疾走で走つて行つた

『ネオス…』

「なんだ？」

『あの美人のねーちゃんから闇を感じたんだが、妙な闇なんだ』

「妙な闇？」

ていうかクリスさんに闇つてなんかあつたのか？

『武人の魂を持つた闇…。

よくある絶望の闇とか元の世界の昔の十代が持つてた優しき闇とはまるで違う闇だ…』

「武人の闇か…。」

ネオスがクリスと別れてしばらく…

「…私は私のする事をしなければな」

クリスはそう言い『テュエル場へと向かつて行つた

『テュエルアカデミア テュエル場

「遅いッスよネオス！」

「もう十代の『テュエルは終わつてるぞ…』

「す、すまないな…」

もう十代の『テュエルが終わつているとは…。-(汗)

『シーマールネオス！

早く来るーノ！』

呼ばれているな

「では行くぞ！」

私が観戦場から出ていくと十代とすれ違う

「頑張れよネオス！」

「…ああ…」

十代に頑張れと言われたのは何時ぶりだつたかな…？

元の世界で頑張れなんて言われなかつたからな…

…十代の為に勝つ！

私はデュエル場へ着き相手を見ると三沢…では無く

「素敵なレディが相手じゃなくて男がかよ…。

まあさつさと終わらせて女の子と友好を築きに行つてくれるぜー。」

中村 祐治…アイドルカードで固めたネタデッキを使用する馬鹿である

何故私が奴を馬鹿と言つのかといつと奴が

ネオスって変な顔してゐるワロス

版権に引っ掛からないのかよ？（笑）

私だって気にしているのだからな！

奴だけは潰す！

「「デュエル！！」」

ネオス LP4000 中村 LP4000

「私の先攻！

ドローしてターンを終了！

なにいい！？

「なにしてんだネオス！？」

「事故ったんスか！？」皆驚いているな

だが元の世界ではこの状態は悪夢の前兆なのである……！

「事故ったのかよ？

これは俺の勝ちだぜ！

ドロー！

お注射天使リリーを召喚！

お注射天使リリー

星3／地属性／魔法使い族／攻 400／守1500

このカードが戦闘を行うダメージ計算時に一度だけ、2000ライフポイントを払って発動する事ができる。

このカードの攻撃力は、そのダメージ計算時のみ3000ポイントアップする。

「リリーだと…？」

「どうした三沢？」

「あのカードはダメージ計算時にライフを2000払う事で攻撃力が3000ポイントアップするスーパー・ア・カードだ！」

「ま、まじで…？」

「バトル！

リリーでネオスにダイレクトアタックだ！」

リリーはネオスに巨大な注射を刺す

「この瞬間にリリーの効果発動！

ライフを2000払い攻撃力を3000ポイントアップする！」

中村 LP4000 2000

お注射天使リリー 攻撃力400 3400

「いくらソリッヂ・ジヨンとはいえ此ればかりは怖いな…」

ネオス LP4000 600

「さあ、コレで次のターン」「フフフフ…！」な、なにがおかしい！」

「田の前を見てみるがいい！」

ネオスの田の前に2人の男女が現れる

冥府の使者ゴーズ

星7／闇属性／魔族／攻2700／守2500

自分フィールド上にカードが存在しない場合、相手がコントロールするカードによってダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、受けたダメージの種類により以下効果を発動する。

戦闘ダメージの場合、自分フィールド上に「冥府の使者カイエントークン」（天使族・光・星7・攻／守？）を1体特殊召喚する。このトークンの攻撃力・守備力は、この時受けた戦闘ダメージと同じ数値になる。

カードの効果によるダメージの場合、受けたダメージと同じダメージを相手ライフに与える。

カイエントークン 攻撃力0 3400 守備力0 3400

あんな使いにくいカードを使うなんて…！

あんなのまぐれだ！

あれ？

ゴーズの評判悪いな

もしかしてこの世界では価値が低いのか？

「ゴーズってなんなんスか？」

「自分フィールド上になにも無い状態でダメージを受けた時に特殊召喚できるが条件がキツいから雑魚扱いされているが…いざ出ると強いな」

「（俺の手札は全てモンスター…！）
ターンを終了する…」

「私のターン！」

ドロー！

私が攻撃すればリリーで迎撃する為にライフを払わなければいけないがそうすれば貴様のライフは0になり敗北する。

攻撃を通しても負けだがな

「そ、そんな…！」

ゴーズなんて雑魚カードに負けるなんて…！」

「ゴーズが雑魚？

強カードの間違いだ！

冥府の使者コンビでダイレクトアタック！」「バカなあああ…！」

中村 LP4000 - 2100

「一つ貴様に言つておこひ。

「ゴーズは強力ードだ。

リリーなんぞよりよつほど強いぞ」

昔は禁止カードにされてたらしきけど今では3000（笑）だしな

「ただいま帰つたぞ！」

「凄いなネオス！

1ターンキルをするなんて！」

十代の笑顔…なんか嬉しい

「貴様…。

本当にHEROでキカ？

入試試験のビデオで見たが「ゴーズなんてHEROには入らんしましてや融合を使わないHEROなんて聞いたことが無いぞ？」

あの試験つてビデオに撮られてたのか？

「…HEROの中でもネオスは特別なのぞ」

実際HEROの中でもネオスは異例だしな

融合は一応するけどモグラ以外は速攻で殴り倒されて融合できない
しじても効果はキモバードとモグラ以外は微妙だし

えつ？

「出身のHEROがそんな」と言つていのかつて？

現実なんだから仕方ないさ（汗）

『ただ今から特別イベントが開催されるノーネ!』

特別イベント?

テスト中なのにか?

『我がオベリスクブルーの女子生徒でシーヨーラ明日香がタイタニアに昇格する資格が与えられたーノ!』

「おおおおー!」

凄い歓声だな

「タイタニア昇格つてそんなに凄いのか?」

「馬鹿者!」

タイタニアは選ばれる人数が物凄く少ないのだぞ!だが女子が入った例はあまり見ないがな。

アカデミアの女子の大半は可愛いイラストでテックを固めているのが殆どで実力はレッド並み…酷ければ習い事と呼ばれるくらいだぞ

「「誰が習い事よー(ですか!)」「

「ジョンコにももえー!?」

「なんで私達がレッド以下にされるのよー!」

「失礼しますわ!」

「事実を言つたままでだ… つてタイタニア側が来たぞ…」

事実は全て言つてもいいとは限らんが… つてあれは…?」

「クリスさん…！」

「知り合いなのかよ？」

「森と廊下でちよつと…」

「あんな美人と… 羨ましいッス…！」

(貴様あ… 許せん…)

なんか白鳥から殺氣が放たれてるけど私には知らん… が一応話題を
変える

「タイタニアって男女コート&ズボンなのか?」

「…オベリスクブルー女子の制服の露出が激しいからズボンにした
らしい」

「…そつか」

そんな話題をしている内にクリスさん明日香がデュエル場に立つて
いた

「貴方を倒してタイタニアに昇格するわ…！」

「…あれからなにも成長していないお前などに負けるか…！」

「「デュエル！！」」

クリス LP4000 明日香 LP4000

「先攻は私からよ！」

ドロー！

エトワール・サイバーを召喚！

なんで毎回最初にエトワール・サイバーが出てくるんだ？

「そしてカードを2枚セットしてターンを終了！」「私のターン！

ドロー！

X - セイバー エアベルンを召喚！

クリスの手の前に凶暴な野獣戦士が現れる（注・獣族です）

X - セイバー エアベルン

星3／地属性／獣族／攻1600／守 200

このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手の手札をランダムに1枚捨てる。

X - セイバー！？

そういえばテストにラーディッシュってキーワードが…クリスさんの名字じゃないかあああ…！

恐らくマリアンはクリスさんの親で親が親馬鹿を発揮して作り出したに違いない！

「X - セイバーだと！？」

じやああの人4年前のI2社のオリジナルカテゴリー募集キャンペーンの当選者だつたのか！？」

な、なんだ公式だつたのか…！

あとディスクの情報によるとエアベルンはチューナーモンスターじゃないようだ

ガドムズがいないが大丈夫なのだろうか？

「更にカードを2枚セットしてターンを終了する…」

「私のターン！

ドロー！

サイバー・チュチュを召喚！』

サイバー・チュチュ

星3 / 地属性 / 戦士族 / 攻1000 / 守 800

相手フィールド上に存在する全てのモンスターの攻撃力がこのカードの攻撃力よりも高い場合、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

「このカードは「サイバー・チュチュの召喚時に激流葬を発動！」

な、なんですって！？」

激流葬

通常罠

モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

突然現れた津波がフィールド全てを包み込み破壊する

「で、でも貴方のモンスターも「リバースカードオープン」・ガトムズ緊急出撃！」「な、なんなのよ……！」

ガトムズ緊急出撃オリジナル

速攻魔法

自分フィールド上の「X - セイバー」と名のついたカードが破壊された時、ライフを1000払う事で発動できる。

手札にある「X - セイバー」と名のついたモンスターを1枚捨て手札またはデッキから「XX - セイバー」・ガトムズ」を自分フィールド上に特殊召喚する。

このカードが発動したターン、自分はバトルフェイズを行えない。

津波が治まつた直後に軍隊が現れ、その中からガトムズが現れる

XX - セイバー ガトムズ

星9 / 地属性 / 獣戦士族 / 攻3100 / 守2600

自分フィールド上に存在する「X - セイバー」と名のついたモンスター1体をリリースして発動する。
相手の手札をランダムに1枚捨てる。

クリス LP4000 3000

ガトムズいたんかい！？

「攻撃力3100！？」

「速攻魔法1枚で！？」

「…ターンを終了」

「私のターン！」

ドロー！

レスキュー・キャットを召喚！」

レスキュー・キャット

星4／地属性／獣族／攻 300／守 100

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、デッキからレベル3以下の獣族モンスター2体をフィールド上に特殊召喚する。

この方法で特殊召喚されたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

可愛いいいい！！

耳元でキャーキャーわめくんじゃない！！

てかレスキュー・キャットだと…？

「レスキュー・キャットの効果発動！」

このカードを墓地に送り、テックからレベル3以下の獣族モンスターを2体特殊召喚する！

エアベルン2体を特殊召喚する！

エアベルン兄弟だ…って悪夢だよこれ

「リバースカードオープン！」

威嚇する咆哮！

威嚇する咆哮！

通常罷

このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

威嚇する咆哮のイラストから咆哮が響き、ガトムズ達は耳をふさぐ

「レスキュー・キャットの効果で特殊召喚されたモンスターはこのターンで破壊されるのは知ってるわよね？」

「流石は明日香さん！」

「素晴らしいですわ～！」

甘いなアイツら

そんなものはガトムズには関係無い

「自爆する前に有効活用すればいい！」

ガトムズの効果発動！

X・セイバーと名のついたモンスター1体を生け贋に捧げる事で相

手の手札を一枚捨てさせる!』

「そ、そんな!』

X・セイバーの得意技の一つであるハンデス

デッキデスとは違いかなり鬱陶しく強い

まあ暗黒界からしたら『アザース! (笑)』で済まされるが

ハンデスだつて!?

汚いぞ!

… そういえばハンデスって海馬社長が嫌つてたからハンデスを嫌うデュエリストが多いって元の世界の十代が言つてたな

… ここまで嫌われているのを見たのは初めてだが

「捨てたのはブレード・スケーターか。

ではもう一度ガトムズの効果でエアベルンを生け贋に手札を一枚捨てさせる!』

コレで明日香の手札は0枚か

「私はコレでターンを終了する

「私のターン!』

ドロー!』

「…ブラックホールを発動！」

ブラックホール

通常魔法

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

ガトムズがブラックホールに呑み込まれ破壊される

「引きが良いな…。」

逆に言えばそれだけだがな」

「ツ…！」

貴方はあの時から私を見下して…！

私だってアカデミアでオベリスクブルーの女王とまでなれた！
それでも見下しすつもりなの！？」

あの時？見下す？

なにがあつたのかこの2人は？

ちなみに私は耳が良いからこの歓声でも良く聞こえる

「お前の敗北で吹雪が闇へと消えた！

お前がデュエルをしなかつたら吹雪は闇に消えなかつた！

飾りごときでふんぞり返っているお前などに吹雪が救えるか！」

「飾りですって…！」

ハンデスなんて卑怯な戦術使っている貴方が言つじとのの…！」

やつだやつだ！！

卑怯者！

「正々堂々と戦うス！」

明日香が言い放った言葉に観客（+翔）がクリスに野次を飛ばす
ヤバイ…！

喧しいのもあるがクリスさんに対する生徒達の心ない野次が私にも
突き刺さる

HERO故の本能もあるが元の世界で裁き1キルやシンクロ連打、
スーパー六武ワールドを経験した私にとってハンデスなんて当たり
前な行為だし卑怯でもなんでもない

「止めるよ翔！」

「コレだけはアーキには止められないスよー！」

リスペクトデュエルしやがれ！！

もう我慢ならん…！

「私はターンを終了するわ。

ハンデスなんて戦術で勝った気に「喧しいんじゃカスビもおおおー！
！…」ツ！？」

視点 ク里斯

中等部でもハンデスは嫌われてたが此処でもか…

やはりデュエルなんてビートで殴りあわないとデュエルでは無いと
いうわけか…

吹雪…やはりハンデス使いと分かつていてデュエリストとして受け
入れてお前がいないと「喧しいんじゃカスどもおおお…」な、
なんだ！？

「お前等なあ！」

ハンデスが駄目なら古代の機械やサイバーは良いのか！
アイツら魔法・罠を制限したり8000の化け物になつて一方的に
フルボッコしてくるんだぞ！
なにがリスクトデュエルだ！なにが正々堂々だ！」

「正々堂々なデュエルの何処が悪「悪いな！」なんだつて…」

「正々堂々なんて禁止カードや制限守つてたら良いんだよ！
お前らどうせハンデスされたら負けるから卑怯とか言つてるんだろ！
聞いた話だがリスクトデュエルってハンデスを批判してるそつじ
やないか？」

ハンデスは立派な戦術だ馬鹿野郎！

戦術を批判するくらいならリスクトデュエルやリスクトデュエルの象徴であるサイバー流なんて無くなつた方が良いわああああ！
！」

色々言つてたが…ネオスは吹雪と同じでハンデスを戦術と受け入れ

てくれているのか？

…だが殆どの生徒から殺氣の田で見られているぞ？

「…ネオス。

とりあえず静かにな」

「すまない三沢…」

…少し心が和らいだのかもしれない

「貴方のターンよ？

…それにもしてもネオスには失望したわ。

ハンデスを戦術だなんて…！

あんな卑怯な行為を「黙れ飾り」…なんですか？」

「戦術を卑怯だの言つお前…いや、アカデミアに私は負けん！
ドロー！」

強欲な壺を発動し2枚ドロー！

レベル合計が12になるように墓地に存在するX - セイバーと名の
ついたモンスターを除外し武人の闇と呼ばれしX - セイバーを特殊
召喚する…」

「武人の闇…？」

「墓地に存在するガトムズとエアベルンをゲームから除外しX -
セイバー デスクカリバーを特殊召喚する！」 X - セイバー デ
スクカリバー（オリジナル）

星12 / 地属性 / 戦士族 / 攻3600 / 守3300

このカードは通常召喚できない。

レベル合計が12になるよう墓地に存在する「X・セイバー」と名のついたモンスターをゲームから除外した場合に特殊召喚する事ができる。

このカードが戦闘により相手モンスターを破壊し戦闘ダメージを与えた時、相手の手札1枚をランダムに選択し墓地に送る。
墓地に送ったカードがモンスターだった場合、もう一度手札1枚をランダムに選択し墓地に送る。

クリスの目の前に他のX・セイバーとは比べ物にならないような霸氣を放ち大剣を軽々しく持つた鎧を着けた巨大な魔神が現れる

『闘争とは…それは正々堂々と戦うことでは無く戦う意思から始まるのである…!』

『更に死者蘇生を発動しエアベルンを特殊召喚する…』

デスクカリバーの隣にエアベルンが現れる

「な、なんなのよ…!
また負けるの…!？」

「飾りは飾りらしく散れ…!」

「きやあああああ…!…!…!」

明日香 L.P 4000 - 1200

『しょ、勝者はシニヨーラクリスなノーネ!』
会場が沈黙に包まれその状態がずっと続いた

それもそうだ

皆が卑怯だと言つたハンテスに明日香が敗北したのとネオスの言つた叫びの融合で沈黙が作り上げられていたからだった

視点 十代

俺達はあの沈黙から脱出するため廊下に出ていっていた

「明日香様があんな卑怯者に負けるなんて……」

「相手が卑怯なだけで明日香さん負けでは無いわ！！」

ジュン」「ともえはわっかあれだし

「リスクペクト」「テ」「ルなんて無くなつた方が良いなんて……許せない……」

翔はさつきから怒りまくつてゐ

「十代……」

「ま、万丈目に……取り巻き2人」

「取り巻きつて……間違つちや無こけどさ」

認めるんだそこは

「俺は最初ハンデスを卑怯な戦術だと思つてた。

…だがネオスの言葉で考えが変わった。

リスペクトデュエルの方が必要無「翔の目の前だからリスペクトデュエルの悪口は言つな…！」す、すまん…」

「アカデニアがアレほどとはな…！

全く失望されるわ！」

「白鳥…そんな事言つても俺の属性E・HERO嫌いは変わらないぞ？」

「そつ意味で言つた訳では無いわ！」

…そりいえばネオスの奴何処に行つたんだ？

視点 ネオス

やつてしまつた…！

HEROの…いや、人として見過せなくて叫んでしまい殆どの生徒を敵に回してしまつた

オベリスクブルー所かラーアイエローとオシリスレッドまでもだ

どうなるのだろうか私は…？

『まあHEROとしてかつこいい事したんだから良いだろう?』

「良くないから。
リスクでかすぎたから」

私がエアーマンと喋りながら歩いていたから

「あだつーー?」

「ハハー?」

…また衝突しました（泣）

「すまな… つて貴方が」

「ネオス…」

またクリスさんだった

「あの「受け入れてくれて…ありがとう」…えつ?」

私はなんの事が分かったのは少しだってからだった

そして…

「…乙女だ」

荒熊さんの息子の「」とくまひこしまった…

第8話 ネオス「戦いで一番大事なのは相手の戦法をズタズタに引き裂く」と

ネオス「ハンデス!! 卑怯つてなんなんだ?」

ガイウス（作者）「海馬がハンデス嫌いなのが原因らしい」

ネオス「全く奴らは…!
てか明日香…（汗）」

ガイウス（作者）「二次創作だからできるのだよ」

ネオス「…（汗）」

ガイウス（作者）「次回はオリジナル回だ。
ちなみに十代達は原作通り廃寮に行きます」

第9話 ネオス「リスクトデュエルは戦術を批判する事ではない」

エアード

今回の話は前回の後日談です

ネオス「食事の邪魔だけはしないでくれ！（泣）」

第9話 ネオス「リスクトデュエルは戦術を批判する事ではない」

エアード

視点 ネオス

イエロー寮 食堂

私は今イエローの皆と食事をしている

えつ？

前回で皆を敵に回したんじゃないのかって？

その件に関しては剣八と三沢がイエローの皆を説得したりして前回私の言つた言葉をちゃんと理解してくれるようになつたんだとか

そんでその時、イエローの生徒が私に言つた言葉が

僕は君に……いや、デュエルにとんでもない冒瀧を犯してしまった

…！

どんな卑劣とはいえ戦術は戦術なんだよな…

イエローの生徒として…デュエリストとして恥ずかしい行いをしてしまったあ！

リスペクトデュエル廃止！
鮫島狸は髪もハゲろ！

最初から最後の前はともかく最後の鮫島校長関係なくね？

ちなみに十代や万丈目達もそれぞれの生徒を説得してみてくれたみたいだが無駄だったみたいだ

ブルーは無駄だと思つてたがまさか〇とは思わなかつた…男子は女子なんて期待するだけ無駄だ

だつて飾り…じゃなくて明日香がいるから『明日香様』絶対正義みたいな事になつてゐに違ひない

飾りとはいえオベリスクブルーの女王つて呼ばれているしな

そして読者の皆はお馴染みのオシリスレッド…否、馬鹿レッド（十代以外）は論外だよ論外

この前私が教室に向かつてたら『卑怯者の仲間だ!』とか言つてきやがつた

殴りたかつたが私はHEROなのでやらなかつた

翔に至つては『リスペクトデュエルを反する者はデュエリストじゃない』だよ?

酷くない?

そして授業の問題で『カウンター農はリスペクトデュエルに反する卑怯なカードです…』って聞かれると

「カウンター農はリスペクトデュエルに反する卑怯なカードです…」

「いや、そんな事は聞いてないノーネー（汗）」

翔つてこんなリスペクトデュエル狂信者だつけ？

私がこの世界に来たせいなのかもしかんが酷いよコレ…

そして私は虐めの対象に「ネオス～？」ってまだ話終わってないのに～！（泣）

私はシオン先生に呼ばれる

「アンタリスペクトデュエルを批判したんだつて？」

「は、はい…」

ヤバイ…！

もしかしてこの人もリスペクトデュエル狂信「ナイス！」…えつ？

今ナイスつて…？

「実はリスペクトデュエルやサイバー流が大嫌いなんだよね私」

「いや、でもそれと月1テストとなんの関係が…？」

「…今からネオスがサイバー流を潰せる実力がどれくらいあるか試してみたいんだけど?」

「…はい?」

いきなりなに言い出すんだこの人

てかサイバー流を潰すって言つたよねこの娘!? 「今このデュエル界は単なるパワーゲームと呼ばれてもおかしくない環境になつてるので。サイバー流はそれを象徴している…!」

「ま、まあ確かにそうですが…」

実際ハンデスとかが嫌われてたり3000が出たらおしまいとか言われているしな

「だからさあ…私と一緒にサイバー流を潰せるくらいの実力があるかデュエルをしてみない?」

「デュエルねえ…

「良いんですけど…今食事中「デュエル!」食事をせんええ!…」

こいつして私とシオン先生のデュエルが始まつた…

ネオス LP4000 シオン LP4000

「では私から先攻を…! ドロー!

アナザーネオスを召喚！」

私の目の前に小さい私が現れる

…「コイツもある意味で属性E・HEROの仲間だが憎めない…」（泣）

「更にカードを一枚セットしてターンを終了する！」

「私のターン！」

ドロー！

…悪いけど後攻1キルするわ

「…はあ？」

まさかバーンとか言わないよね…！（汗）

「手札からサイクロンを発動！
伏せカードを破壊する！」

ああ…次元幽閉が（泣）

「更に未来融合 フューチャー・フュージョンを発動！」

未来融合 フューチャー・フュージョン

永続魔法

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体をお互いに確認し、決められた融合素材モンスターを自分のデッキから墓地へ

送る。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に、確認した融合モンスター1体を 融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなつた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

未来融合！？

未来融合にはろくな思い出が無い

Zeroの素材にされたりZeroの素材にされたりZero素材に…つて素材ばっかじゃねーか！！

「私はキメラテック・オーバー・ドラゴンを選択してサイバー・ドラゴン+デッキの機械族全て（サイバー・ドラゴン含む27体）を墓地に送る！」

キメラテック・オーバー・ドラゴンかよおおおお！？

てかサイバー流じゃねーか！？

「サイバー流潰す人がサイバー使ってどうするんすか！？」

「私がサイバー使ってる理由？」

私は元サイバー流だつたからだあああーー！」

「…まじすか？」

「反応薄いなあ…」

まあ良いや。

更にオーバーロード・フュージョンを発動！」

オーバーロード・フュージョン

通常魔法

自分フィールド上または墓地から、融合モンスター1カードによつて決められたモンスターをゲームから除外し、闇属性・機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

(この特殊召喚は融合召喚扱いとする)

「オーバーロード・フュージョンの効果は…嫌と言つほどしつですよ。

事実キメラテック・オーバー・ドラゴン専用カードですしね…」「知つてるなら話が早いや。

未来融合で墓地に送ったモンスターを全て除外してキメラテック・オーバー・ドラゴンを融合召喚！

キメラテック・オーバー・ドラゴン

星9／闇属性／機械族／攻 ?／守 ?

「サイバー・ドラゴン」+機械族モンスター1体以上

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの融合召喚に成功した時、このカード以外の自分フィールド上のカードを全て墓地へ送る。

このカードの元々の攻撃力と守備力は、融合素材にしたモンスターの数×800ポイントの数値になる。

このカードは融合素材にしたモンスターの数だけ相手モンスターを攻撃する事ができる。

出たよ鬼畜機械龍！（泣）

元の世界の十代が

サイバーで強い融合モンスターってサイバーツインとキメラオーバーくらいだろ?

サイバーエンドとか劣化究極四人（笑）

まあ完全劣化とは言えんがな…

オネストに対応できるし

「キメラテック・オーバー・ドラゴンの攻撃力と守備力は融合素材にしたモンスターの数×800ポイントアップする！」

キメラテック・オーバー・ドラゴン 攻撃力？ 21600 守備力？ 21600

「更に手札からミニッター解除を発動！」

リミッター解除

速攻魔法

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。

この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

キメラテック・オーバー・ドラゴン 攻撃力21600 守備力0
守備力21600 43200

もう化け物です…

お疲れ様でした（泣）

「アナザーネオスに攻撃！

1連打ア！」

「ウボアアアアア！…！」

ネオス LP4000 -37300

「久しぶりにオーバーキルされました…」

キメラテック・オーバー・ドラゴンは鬼畜ですよ全く…（泣）

「『めん』めん。

まあ『レは対鮫島の狸専用デッキだから気にしないでね』

「…シオン先生はサイバーを使っているのに何故サイバー流を嫌うのですか？」

私や読者が思う矛盾を解決させてくれ！

「…私は元はサイバー流の一員だつたんだ。

だけどリスペクトデュエルはハンデスやデッキデス、そして1キルを批判している。

では何故ハンデスやデッキデス、そして1キルが存在してるので？
何故存在していて禁止されてないのに批判をするのかがどうも気になったのよ」

確かにクリスさんのハンデスがアカデミアの生徒に批判されていた
が…まさか…？

「その顔はなにかに気づいたみたいだね？」

私の予想だけどリスペクトデュエルが関係…というか原因でサイバーフラフがハンデスとかを一方的に批判しているんだと思うんだ」

リスペクトデュエル：

元の世界の十代が…って前も言ったから良いや

だが月1テストで観客が

リスペクトデュエルしゃがれ！

つて言つてたのが聞こえたな

「そもそもリスペクトデュエル…というのは相手を思いやり相手を尊重するという意味から来ている。だけど今のリスペクトデュエル…といふかサイバー流はカードや戦術を批判したりサイコ流などの流派を外道扱いする肩の塊と化している。

こんな事があつても良いのだろうか？」

「いや、まああつてはいけないと…」

といふかリスペクトデュエル自体無くなれば良いと思つ

なんでカウンター罠が批判されなければならん

ボルテースとか涙目じやん（汗）

「…まあ長こ説明は置いといて…サイバー流漬をうつよ?」

「…漬してどうするんですか?」

「…そんな事は決まってるよ?」

サイバー流消して新たにデュエルアカデミアを設立するのよ。」

なんだ目的があるなら良いや

どつかの桃姫みたく暴れるだけは私も勘弁だしな

…シオン先生に校長の才能があるかは別だが

「まあ長話に付き合わせたお詫びに食堂の料理を奢つ「もつ食事済
ましきやいましたよ!!」…まじで?」

いつして私の食事はオーバーキルという料理でお腹いっぱいとなつた

…ヘビーパワウウウ! (泣)

第9話 ネオス「リスクトデュエルは戦術を批判する事ではない」

エアーマン

ネオス「十代は？」

エアーマン「原作通り肝試しに行つたぞ」

ネオス「なんでお前が原作とか知ってるんだー（ネオスは知らない）」

「

エアーマン「まあ次回もお楽しみ！」

第10話 ネオス「用も無いのに呼び出せないでください」 ハーマン「私の

ネオス「最近シリアス多くない?」

ハーマン「まあ良いじゃん」

翔「リスペクトー・リスペクトー・リスペクトー・リスペクトー・リスペク
トー・」

ネ&工「黙れ!-!-!-」

第10話 ネオス「用も無いのに呼び出せないでください」 ハーマン「私の

視点 ネオス

レッド寮 十代＆翔の部屋の前

「おい開けろ！

さもなくば扉を爆破するぞ！」

「十代～！

早く出てきてくれ～！」

私はレッド寮の前で十代達が出てくるよう説得している

査問委員の人達が説得してくれと頼んできたのできたのだが…早く
出てこないと本当に爆破されるぞ（汗）

実際に被害者である明日香が扉を開けなかつたので扉を爆破され黒
焦げになつてている姿が隣にいる

ちなみにダイナマイトを設置し扉を爆破した後に手榴弾を部屋に投
げ込み中にいる人も爆破…ギャグ小説だから生き残れたんだよね？

「爆破だけは勘弁してくれ～！」

扉から十代が出てきた。十代だけが

「卑怯者の言つことなんて嘘に決まつてゐッス！」

あ、あの野郎……！（怒）

カウンター罵批判したお前に言われたく無いんだよ……。

「よし爆破するぞ」

「待つたー！」

十代：！

やはり翔は見捨てられな「カードの避難をさせてくれ……」十代お前…（汗）

翔よりカードかお前は……

その後十代がカードの避難を終えた後に部屋が爆破されたのは言つまでもない

デュエルアガデミア 校長室

「遊城 十代と丸藤 翔、そして天上院 明日香は立ち入り禁止となつていた特別寮に肝試しと言つて勝手に侵入し内部を荒らした。証拠品の写真はあるから言い逃れはできんぞ？」

何故か私は十代達と一緒に校長室に連れられて退学通告を喰らつて
いる

勘違いされたと困るので言ひておくが私はなにもしてないから退学
は無いからな！

「なんでもするから退学は止めてくれよー。」

「ならば今日から1週間私の靴を磨きお茶を汲み使用人のごとく
クロノス教諭…」「冗談なノーネ」

教師としてその罰はいかんだろう…（汗）

「では本当の罰を取れるノーネ！」

貴方達はこの1週間タイタニアに体験入寮してもらいまースー。」

「　　「タイタニアにー？」「　　」

タイタニアってクリスさんや白鳥がいるクラスじゃ ないか

そういうえばタイタニアの寮ってどんな寮なんだろうか？

「タイタニアに体験入寮し1週間タイタニアの生徒として過յマースー
ノ！」

それでは失「クロノス先生！」な、なんなノーネ？」

「私が呼び足された理由は？」

「なんとなく…ではなく暇なので貴方にもタイタニアに体験入寮し
てもらいまースー！」

「…暇つて理由で体験昇格をせるなあああーーー！」

そんな大人修正してやるーーー！

クロノスにとつて私はなんのかと思い詰めながら校長室を後にした…畜生ー！（泣）そして校長室から出て數十分後…

「タイタニアかあ…！」

強い奴がたくさんいるんだろうなー！」

「はあ…。

大丈夫かな…？」

十代達はこんな事を言つてはいるが大丈夫なのだろうか？

タイタニアはオベリスクブルーのエリート（笑）と違つて本物のエリートだし強いし属性E・HEROウザいし

まあとにかく行つてみないとわからないので行つてみる事にした

…タイタニア寮つてどんなのだろうか？

タイタニア寮 正門前

「な、なんなんスかこれ…？」

「コレが…タイタニアー！？」

「ブルーより豪華だと思ってたけど案外普通だな」

私達の目の前にあるのはブルー寮とイエロー寮の中間ってくらい豪華な寮だった

…見た目だけだとブルーの方が凄くね？

「と、とりあえず入るうつか旨…」

私達はタイタニア寮に入つていった

「なななな…なんなんスかあああ！？」

「中ヤバッ！」

「ブルーなんて比じやないわね…！」

なにこれ…豪華過ぎる

しかも周りの設備が凄い

入口のホールには最新のデュエル場がありカード屋なんか単体で売つてる

だけどエアーマン高い！

1000000円とかどうかしとるわ！

元の世界でも30000円くらいなのに…！

「来たか貴様ら……つて何故ネオスも？」

「その声は……白鳥！？」

「寮長がお呼びだ。
わざわざとこい」

十代達は白鳥に連れていかれ私は……

「貴様は予定外だからホールでフラフラしてろー！」

…と言われた

畜生…！（泣）

視点 十代

タイタニア寮 寮長室

「良く来たな諸君。

私がタイタニア寮の寮長だ」

俺達の目の前には仮面を着けた人が椅子に座っていた

「早速だが君達にはタイタニア寮の見学をしてもらいその後歓迎会

に参加してもいい?

歓迎会つて俺達のかな?

「あの……タイタニアの生徒つて強いんスか?」

「弱い生徒などはおらんよ……」

タイタニア寮長が静かに笑つてゐるけど正直怖いな

「では白鳥君。

早速この3人を案内するのだ」

「了解しましたあ!」

俺達は白鳥に連れられ寮の見学へと行つたのであつた

……早くタイタニアの奴らどデュエルがしたいぜ!

視点 ネオス

私は今タイタニアの生徒に捕まえられている

「……」

「……」

「……」

行数稼ぎしても無駄だからね！

てかなんなんだこの男は！？

じつと見つめてきて…私にはそんな趣味は無いぞ！

「…イエロー寮なら南だぞ？」

「いや、私は此処に行けどクロノス先生に言われたのだが…」「…ならば良い

ならば良い

この後どうすれば良いのだ！（汗）

『とりあえずデュエルだ！』

人事だと思つてエアーマンこの野郎…！

「…了解した」

なんか突然携帯だして了解した言われても…どつか行つたから良いや

でもこの私を放置という地獄から解放していく「ネオス？」…救世主
クリスさあああん！

「私を放置という地獄から解放してくれえええ！」

「…はあ？」

タイタニア寮 テュエル場

「放置されるとは災難だつたな」

「…クロノスに修正したい（泣）」

私はクリスさんに連れられテュエル場に来た

とりあえずテュエルでも見て時間を潰すんだとか

「それにしてもあの飾り…明日香までもがタイタニアに体験入寮とはな」

「私はクロノスの気まぐれで来てしまったんですけどね…」

「ワンフーの効果でパトロイドを破壊する」

ワ、ワンフー！？

王虎ワンフー

星4／地属性／獣族／攻1700／守1000

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、攻撃力14
00以下のモンスターが召喚・特殊召喚に成功した時、その攻撃力
1400以下のモンスターを破壊する。

「緑川め…容赦無いな」

「緑川… つてさつき私の事をじつと見てたアイツウ！？」
フィールドには強者の苦痛とワンフーがあるからテッキは苦痛ワン
フリーか

攻撃力の低いビークロイド使いの翔だとキツいな……

「あっちでも『ユエルをしている様だぞ?』」

「あれは……明日香か？」

明日香と戦つてるのは…わからん(汗)

だが髪型とか地味だからモブキヤラだろう

「ゾンビマスターの効果でゾンビマスターを蘇生！」

更にゾンビマスターの効果でゾンビマスターを（以下略）

あつちも容赦無いな……

流石は禁止カードになつた生還の宝札なだけはある

「全モンスターでダイレクトアタック！」

明日香やられました

「ワンフード止めだ」

「うわあああ……」

翔…ワンフー一体にやられるなよ…

てかタイタニアってモブですか?レカよ

緑川はモブでは無いと思つが…

「とりあえずクリスさん?

終わつたんですが「私もデュエルをするかな」…えつ?」

クリスさん…それ人違つ

『デュエルモードオン。
データ吹雪セット』

吹雪?

吹雪つて事は吹雪さんのデュエルデータつて事か

「観戦させる羽田になつて悪いな!
だが観戦して満足させれるデュエルにしてみせるぞ!」

「あの…勝手に始め!『デュエル!!』」…もう良こです(泣)
クリス LP4000 吹雪 データ LP4000

「私ノターン。

ドロー。

ライオウヲ召喚

ライオウ

星4／光属性／雷族／攻1900／守 800
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、お互いにドロー以外の方法でデッキからカードを手札に加える事はできない。

また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、相手モンスター1体の特殊召喚を無効にし破壊する。

「更ニカードヲ2枚セットシターンヲ終アシマス」

ライオウか…

光デュアルは…小さい私がいないから違うな

「私のターン！」

ドロー！

X・セイバー エアベルンを召喚！

更に手札からセイバー・スラッシュを発動！』

セイバー・スラッシュ

通常魔法

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する「X・セイバー」と名のついたモンスターの数だけ、フィールド上に表側表示で存在するカードを破壊する。

セイバー・スラッシュといえば大量展開できれば強力な除去カードとなるカード

まあ使い所を間違えたら効果で自爆してしまつが

「ライオウを破壊しバトル！

エアベルンでダイレクトアタック！」

エアベルンがデュエルマシーンに突撃する

「コノ瞬間スキルドレインヲ発動」

スキルドレイン

永続罠

1000ライフポイントを払つて発動する。
このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に表側表
示で存在する効果モンスターの効果は無効化される。

スキルドレインだとお！？

最初に出たのがライオウだつたからわかりにくい…！

吹雪 データ L P 4 0 0 0 0 3 0 0 0 0 1 4 0 0

「スキルドレインでハンデス効果は無効にされるな…！
カードを2枚セットしてターンを終了…！」

「私ノターン。

ドロー。

神機王バルバロスを召喚

神機王バルバロス

星8／地属性／獸戰士族／攻3000／守1200

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

この方法で通常召喚したこのカードの元々の攻撃力は1900になる。

また、このカードはモンスター3体をリリースして召喚する事ができる。

この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

バルバロス…つてスキドレバルバかい！

「神機王バルバロスハ生ケ贅無シデ召喚可能。

更ニスキルドレインノ効果デ攻撃力ハ3000ヲ維持スル事ガ可能。

更ニ天使ノ施シヲ発動。

デッキカラカードヲ3枚引キ2枚捨テマス。

ソシテ死者蘇生ヲ発動シ神機王バルバロスを特殊召喚シマス」

わー3000が2体だー…つて悪夢だ（泣）

「バトル。

神機王バルバロスデエアベルンヲ攻撃シマス」

バルバロスは雄叫びをあげる

エアベルンの耳に雄叫びが響きエアベルンは絶命し破壊される

…雄叫びだけで破壊するとかバルバロス凄いな

「…毎回ワンパターンだな吹雪！」

セットしていたガトムズ緊急出撃を発動！

ライフを1000払い、手札のX - セイバーを捨てる事でテッキからXXX - セイバー ガトムズを特殊召喚する！」

クリスさんナイス！

コレで1キルされずに済んだぞ

「カード1枚セットシテターン♪終了シマス」

「私のターン！」

ドロー！

コレで終りだ！

手札から苦渋の選択を発動！
この5枚から1枚を選択しろ！」

X X - セイバー フォルトロール
X X - セイバー フラムナイト
X X - セイバー ガトムズ
X X - セイバー ボガーナイト
X X - セイバー ヒュンレイ

「デハフラムナイト♪選択シマス」

「ではフラムナイトを手札に加える！
更にサイクロンを発動！」

吹雪のセットカードを破壊する！

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

クリスさんのサイクロンがデュエルマシーンのセットカードを破壊する

…激流葬かよ

止めを刺そとモンスターを召喚したら激流葬発動って手か…やるな

「そしてリビングデットの呼び声を発動！

墓地のガトムズを特殊召喚する！」

此方も3100が2体…つてやはり悪夢だ（泣）

「そして強欲な壺を発動！

デッキからカードを2枚ドローする！

そして手札1枚をコストにライトニング・ボルテッキスを発動！

此處でライボル…つて何故十代とかはデステニードローかよ…！？

「バトル！

ガトムズ2体でダイレクトアタックだ！」

「ガーピー…！？」

吹雪 データ LP1400 - 4800

「すまなかつたな」

「いえ…なかなか良いデュエルが見れまし「何処が良いデュエルか
しら…？」明日香…！」

クリスさんのデュエルが終わった直後に明日香達がやつてきた

…てかいつの間に（汗）

「なんで…なんで中等部であんなに罵倒されても貴方と兄さんはそ
んなデッキを使うのよ…！」

罵倒されてまで…なら何故スキルドレインやX・セイバーが存在
している…」「そ、それは…！」

「吹雪はバルバロスが好きだからスキルドレインを使っている。
そして私にはもうハンデスしかできないから…」

もうハンデスしかできない…？

「それでも！

それでも貴方は「なんでリスペクトデュエルができるなのさー」翔
君…！？」

「リスペクトデュエルとは相手を尊重し敬意を払う事！
だけどアンタのデュエルは尊重や敬意は無い！

それどころか相手をいたぶつている！

そんなのデュエルなんかじゃない！」

翔…全然説得力無いし間違っているぞ？

リスペクト・デュエルとは相手を尊重し敬意を払う事まではあつて、

だが相手の戦術を批判したりするのはリスペクトでは無くただのマナー違反だ

「…丸藤 翔。

お前は兄である亮にパワー・ボンドを封印されているからこな」

「な、何故それを…！？」

そりや吹雪さんの幼馴染なんだからカイザーとも知り合いな筈だ

てかカイザーもリスペクト・デュエル狂信者だった嫌だな（汗）

「今のお前ならパワー・ボンド所カリミッター解除すら使えないだろつな」

「なんだと！」

そこまで言つながら『皆様。食堂に集まつてください』『食堂だつて…？』

突然アナウンスが聞こえだす

恐らく夕飯の時間なのだろう

「…」こんな話何時までもする物じゃないな。
着いてこい

「くつ…！」

僕は正しく筈なんだ……！」

「兄さん……なんでなの？」

飯か……ナイスアナウンス

こんな険悪ムードをわざと振り払いたかった所だった

……で私あんまり喋つてなくね？

「ネオスー！

早く飯食べに行こうぜーーー！」

「お、おひーーー！」

私達は夕飯を食べに食堂へと向かつて行つた

……バイキングだったら良いな

第10話 ネオス「用も無いのに呼び出せないでください」 ハーマン「私の

十代（元の世界）「制裁デュエルじゃないんだな」

ネオス「じゅ、十代！？」

十代（元の世界）「久しぶりだな！

あつちで翔苛めてんの？

超ウケる（笑）」

ネオス「苛めては無いが…むしろリスペクトデュエル狂信者…（汗）」

十代（元の世界）「リスペクトデュエル（笑）

バカズバカス（笑）

リスペクトデュエルとか事故満足だろ？（笑）」

ネオス（言つてる事は間違つては無いがムカつく…）

十代（元の世界）「じゃあ次回もお楽しみにな！」

ネオス「…なんでこうなった（泣）」

第1-1話 ネオス「三度の飯よりトコホル…ってなんか食べさせてくだやこ」(H)

明日香のハンデスやスキルドレインを批判する理由が少し判明します

ネオス「人は痛め付けられるのを怖がる。

だから人は痛め付ける側についてしまつのだ」

エアーマン「なにシリアルに言つてるんだお前は…（汗）」

第1-1話 ネオス「三度の飯より『ユエル』ってなんか食べさせてください」（注）

視点 ネオス

タイタニア寮 食堂

…いきなりだけどなあにこれ？

十代達体験入寮組の飯が物凄く酷い

どれくらい酷いかというと元の世界のレッド寮の食事並に酷い

十代と翔は慣れているから大丈夫だろうが明日香の場合はブルーの食事に慣れていると思うからこの食事に不満はあるのではないだろうか？

そして私はといふと…何故かカレーだった

「イエローツてカレーしか食べないんだろ？
好きだねカレー（笑）」

「…私はカレー信者ではなああああい…！」

私はタイタニアの生徒に向かつて叫びながら泣いた

視点 明日香

お前の兄貴って卑怯な戦術で相手を倒してるんだろう？

お前の兄貴ってあのハンデス使いの卑怯者と一緒にいるんだってな？

お前の兄貴正々堂々デュエルできなのかよ？

それに比べてサイバー流はかつこいいぜ！

思い出される中等部の辛い思い出…

私だつてハンデスやスキルドレインは戦術だと思つてる

だけど皆にあわせないと私も卑怯者呼ばわりされる

それが嫌で私もハンデスやスキルドレインなどを卑怯な戦術と呼んでしまつている

ごめんなさい兄さん…

「めんなさいクリスさん…

2人を裏切つて…

視点 ネオス

な、なんか明日香がめっちゃ暗い

大丈夫だらうか…？

「ねえ卑怯者の仲間！
ソース取つてよっ！」

「、この眼鏡…！」

もう我慢ならん…！

「ぬりぬ…」

私は翔のHJフライが見えなくなるへりソースをぶちまけた

「あつ！
なにするんスか！」

「お前の態度が悪いからだ…！」

「翔…今のは完全にお前が悪いぜ…」

「アニキまで…！」

全く…！

リスクト以前にマナーだよマナー…

マナーが守れなくてなにがリスクトテュエルだ！

「Hビーフライがとんでもない事になつてゐる所悪いが食堂のデュエル場まで來てもうおつか…」

いきなり緑川が現れる…ビビるわ！

私は緑川に食堂にあるステージへと連れていかれた

「…来たな」

「なんでお前なんだ白鳥…」

私の目の前には白鳥がいた… のだが

「フランクフルト食べながら待つの止めてくんない？
此方はカレー食べるの妨害されたんだからさ」

「カレーが食べたければデュエルで俺を倒すんだな！」

「正しくは属性E・HEROに恨みがあるんだけどね
正しくは属性E・HEROに恨みがあるからな…」

「ふん！
なんの恨みかは知らんが良いだろうー。」

「「デュエル…！」」

「先攻は頂ぐ！」

ドロー！

E・HERO プリズマーを召喚！」

プリズマー…！

HEROのだが色々な所に派遣される過労死HEROだ青眼とか
三幻魔（アーミタイル軸）などでじきつかわれているとか
えつ？

なんで三幻魔を知ってるのかって？

元の世界では普通のカードの三幻魔（+アーミタイル）が先着3名
に特別プレゼントされた幻のレアカードになっているからだ

ちなみに値段は青眼より少し下なんだとか

「プリズマーの効果を発動！

融合デッキに存在する融合モンスターの素材を選択しデッキに存在
する選択した融合素材を墓地に送る事でプリズマーの名前を素材の
モンスターに変化させる！

俺はE・HERO ジ・アースを選択しE・HERO オーシャン
を墓地に送る…！」

プリズマーは身体を変化させオーシャンと同じ姿になる

「更にカードを2枚セットしてターン終了だ！」

「（恥々じに属性E・HEROがもぬえ……）

私のターン！

ドロー！

ヒアーマンを召喚！

『プリズマーか。

…なんか過労死HEROとして泣けてきた』

おーい

同じ過労死HEROとはいえ今は敵なんだからな

「ヒアーマンの効果発動！

デッキからHEROと名のついたモンスター1体を手札に加える！

私はネオスを手札に加える！

「出たぜ！

ネオスのヒースモンスターだ！」

「しかし…ネオスのレベルは7。

今手札に加えた所で邪魔なだけだぞ？」

悲しいけどクリスさんの言つ通りだ

といつ訳で

「更に天使の施しを発動！
デッキから3枚ドローし2枚捨てる！」

「ネオスを捨てた！？」

「なにエースモンスターを捨ててるんスか！？」

喧しい！

ネオス…といふか私は墓地についてこそ本領發揮なのだ！

…つてそれだと私つてまるでアンデット族みたいだな

「そして大嵐を発動！
フィールド上の魔法・罠を全て破壊する！」

「大嵐か。

別に構わんよ」

破壊したのは融合にヒーロー・シグナル…つて融合？

…そりいえば今はいないがフォレストマンで回収でるんだつたな

「なんで融合を伏せてたんだ…？」

「プレイミスッスよ！」

だから今はいないがフォレストマンだつて…まあ良いや

「手札からO・オーバーソウルを発動！」

ネオスを特殊召喚するー。』

「ネオスは通常モンスターだから可能だな…！
スペーカマンしかまともな通常E・HEROがいなから氣にして
なかつたが…面倒だな」

「ネオスが他のE・HEROと違うのは通常モンスターとこう所だ！
エアーマンでプリズマーを攻撃！
過労トルネード！」

『変な技名つけるなー！』

エアーマンの突風によりプリズマーが老化していく破壊されぬ…つ
て老化！？

エアーマン、お前つて一体…！？

「ちいー！」

白鳥 LP40000 3900

「まだまだあー！
ネオスでダイレクトアタック！
ラス・オブ・ネオス！」

「ぐわあああーー！」

「カードを3枚セットしてターンを終了するー。』

白鳥 LP39000 1400

「良いぞネオス！
その調子だ！」

「おのれえ！」

ドローー！

強欲な壺を発動！

デッキからカードを2枚ドローする。」

此処で強欲な壺とか冗談キツいわ！

「更にハリケーンを発動！」

ハリケーン

通常魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。

ああ……！

奈落の落とし穴にヒーロー・ブラスト、そしてサイクロンがあ……！
(泣)

ガイアとかが出たら破壊してやろうかと思つたのに……！

「そしてE・HERO フォレストマンを守備表示で召喚ー！」

E・HERO フォレストマン

星4／地属性／戦士族／攻1000／守2000

1ターンに一度、自分のスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。

自分のデッキまたは墓地に存在する「融合」魔法カード一枚を手札に加える。

「守備力2000じゃネオス（ソリッドビジョン）を防ぐのは無理ッスよ？」

「いや、白鳥の奴は……！」

「(1)名答！

手札から苦渋の選択を発動！
この中から1枚を選択するがいい！」

E・HERO オーシャン
E・HERO ザ・ヒート×2
E・HERO ボルテック
融合

「私はザ・ヒートを選択する……！」

「では残りは墓地に送るぞ。

そして手札からミラクル・フュージョンを発動！」

出たよミラクル・フュージョン！

苦渋の選択からのミラクル・フュージョンは此方がキツいって！

「墓地のボルテックとザ・ヒートを融合しE・HERO ノヴァマスターを融合召喚！」

E・HERO ノヴァマスター

星8／炎属性／戦士族／攻2600／守2100

「E・HERO」と名のついたモンスター+炎属性モンスターこのカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードが戦闘によつて相手モンスターを破壊した場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「攻撃力2600だつて！？」

「バトル！
ノヴァマスターでネオスを攻撃！
ハンドボルケー！」

ノヴァマスターの手から放たれた炎がネオス（ソリッドビジョン）を焼き付くした

「熱つ！」

「これソリッドビジョンだよね！？」

ネオス LP4000 3900

「更にノヴァマスターの効果発動！
ノヴァマスターが相手モンスターを破壊した時、デッキからカードを1枚ドローする！」

「待てい！」

私は戦闘ダメージを受けた事により手札からトラゴエディアを特殊召喚する！」

トラゴエディア

星10／闇属性／悪魔族／攻

? / 守

?

自分が戦闘ダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力・守備力は自分の手札の枚数×600ポイントアップする。

1ターンに1度、手札のモンスター1体を墓地へ送る事で、そのモンスターと同じレベルの相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してコントロールを得る。

また、1ターンに1度、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択し、このカードのレベルをエンドフェイズ時まで、選択したモンスターと同じレベルにする事ができる。

「ト、トラゴエディアだと！？」

「あの幻のレアカード…？」

「なんでネオスが持つてるのよ…？」

あれ…？

なんでゴーズの時は評価悪かったのにトラゴエディアは評価高いんだ？

「トラゴエディアか…」

トラゴエディアは戦闘ダメージを受けただけでよく自爆特攻からの特殊召喚による追い討ちや不安定だが高い攻撃力を相手に与え効果も優秀とゴーズと違い完璧と言われているモンスターだな。
…ゴーズも十分強いが

解説どうもクリスさん

てかトランゴエディアは完璧では無いんだがなあ…

まあ「ゴーズより召喚しやすいからある意味でゴーズより優秀だけど
そういうえばZeroが『私の元いた世界でトランゴエディアは世界を
危機にさらしかけた』とか言ってたな

てかZeroって私の元いた世界とは違う住人だったのかな?

まあそんな事は置いといて

「トランゴエディアの攻撃力と守備力は私の手札により数値が決まる!
私の手札は5枚だから $600 \times 5 = 3000$ だ!」

トランゴエディア 攻撃力? 3000 守備力? 3000

「攻撃力3000!?」

「凄いぜネオス!」

「まさかトランゴエディアとはな…!
カードを2枚セットしてターンを終了する!」

「私のターン!

ドロー!」

トランゴエディア 攻撃力 3000 3600 守備力 3000

3600

「手札からサイクロンを発動！
右側を破壊する！」

トライエッティア	攻撃力	3600	3000	守備力	3600
3000					

破壊されたのは…融合かよ畜生…

「またブラフを破壊してくれてありがとうな（笑）」

お、おのれえ…！

「アナザーネオスを召喚…」

「！」の瞬間に激流葬を発動する…

「なに…？」

「ここで激流葬だとああー…？」

「せっかく出したトライエッティアが…」

「不味いわね…！」

「カードを2枚セットしてターンを終了する…」

「俺のターン！」

ドローー！

まずは大嵐を発動！

わ、私の奈落の落とし穴とヒーロー・ブラストがああ！

「奈落の落とし穴！？」

リスクペクトに反するカード入れてるなんてやはり卑怯者ッス！」

水色眼鏡え…！

ヤバイ時になに言つてるんだ…！

「更にミラクル・フェージョンを発動！

墓地のノヴァマスターとオーシャンを融合しE・HERO アブソルートZeroを融合召喚するー！」

E・HERO アブソルートZero

星8／水属性／戦士族／攻2500／守2000

「HERO」と名のついたモンスター+水属性モンスターこのカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO アブソルートZero」以外の水属性モンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

出たな私の出番を奪つた根源Zeroー！

「イツだけは墓地に送りたい…！」

「バトル!

アブソルートZeroでダイレクトアタック!」

「ぬわ――――!」

ネオス LP3900 1400

「ネオス!!」

「これでターンを終了する

「わ、私のターン!」

ドロー!」

…奴（Zero）を倒すいいカードが来たな!

「手札から命削りの宝札を発動!

私は手札が5枚になるようにドローする!
最も5ターン後に手札は全て無くなるがな」

命削りの宝札

通常魔法

自分の手札が5枚になるよう、自分のデッキからカードをドローする。

このカードが発動してから5ターン目のスタンバイフェイズ時、自分の手札を全て捨てる。

「ここで命削りの宝札だとお!?」

「更にアナザーネオスを召喚しスペルヴィイス2枚をアナザーネオスに装備する！」

「スペルヴィイスを2枚も…？」

「なにをする気だ？」「

「更に手札からブラックホールを発動する！」

この世界でもブラックホールは禁止では無いから嬉しい

「Zeroがいるけどなんでせっかく召喚してスペルヴィイスを装備したアナザーネオスを自滅させたの？」

「…成る程な。

「この勝負…ネオスの勝ちだな！」

「…そういう事か！

凄いコンボを見せてくれるな！」

「ネオスは通常モンスターだからスペルヴィイスで！」

翔以外は分かつてゐる様だな！

「スペルヴィイスの効果発動！

表側表示のスペルヴィイスが墓地に送られた時、墓地から通常モンスターを特殊召喚する！

2枚送られたから2体のネオスを特殊召喚する！

アツハツハツハツハツハツハ！

惚れ惚れするね！（笑）

「ぬあんだとおおおおーー?」

「ネオス2体でダイレクトアタック！」

「アーティストの仕事は……」

白鳥 LP1400 - 4400

「貴様に一つ言つておいてやる……！」

「オーブの最大の特徴は通常モンスター故のサポート及び汎用系力ードを積み込んだ新たなるHEROなのだ！」

「新たなるHERO…だと…？」

「つまりネオスに融合は必要無いという事だ。」

一応融合はするけどモグラとキモバード以外は役立たずだしなあ……

レインボーボードラボンは強いが融合してほしいし…

「嘘偽りなしエモア...」

なんか斬新なHEROだな！」

「
へ
ん
！」

ただの独りぼっちなHEROツスよ！」

翔貴様あ……！

ある意味間違つてないから怒れん！

「新たなるHERO……かあ」

私は属性E・HEROを叩きのめした事により少しだけすつきりで
きたのであった……視点 明田香

タイタニア寮 図書室

私はタイタニア寮の図書室である神……いや、兄さんを闇へと消した
悪魔の資料を探していたけど遂に見つけた……！

「……コレだわ！」

私は悪魔が書かれたカードのページをカメラに収めた……

そして……兄さんを救つたら兄さんとクリスさんに謝りたい……

破壊の神 ジヴィア

星12／神属性／幻神獣族／攻4000／守4000

意味の無い破壊こそ最高の娛樂。

意味のある破壊など破壊では無い。

第1-1話 ネオス「三度の飯より『ユエル』ってなんか食べさせてください」

ドジリス『今回はこのドジリスと』

ユベル『本編には全く出てないユベルがあとがきに出演します…』

ドジリス『明日香の戦術批判の理由はそういう事だったのか…』

ユベル『まあ人間巻き込まれたくないから虚める側に着いたり見て見ぬふりをしてしまいます。』

ある意味人間の自然的な行為の一つなのかもね。
…まあ虚めはやってはいけないけどね』

ドジリス『ちなみに翔の場合はただのリスペクト『ユエル狂信者』だな。』

兄に憧れるあまりリスペクト『ユエルを勘違いしているな。
さてと…次回はなんと奴がくる…』

ユベル『奴つて誰や?』

ドジリス『次回をお楽しみに!』

ユベル『誤魔化しやがった…』

第12話 ネオス「なんでGXの転生者のトヨエルティスクってシンクロが反応

ネオス「明日香だつて水色眼鏡だつて事情があるのさー。」

エアーマン「腹が立つ事はあるがな」

第1-2話 ネオス「なんでGXの転生者のトヨエルティスクってシンクロが反応

視点 翔

手札からサンダー・ボルトを発動！

お前弱いな！

カードは頂くぜ！

「うわああああ！！」

…まだ

またあの夢だよ

「なんだよ翔…」。

目が覚めちまつたじやん…」

「！」めんアニキ…」

またあの悪夢のせいで起こしちゃったよ

だけど…リスクトデュエルを広めれば全てが健全なトヨエルになる筈なんだ

筈なんだ…よね

あ～た～らしい朝がきた

きぼ～うの朝～が

…じめん

なんかやりたくてやつたけどごめん

なんか翔が悩んでいるように見えたのだがなにがあった

それより今日がタイタニア体験入寮最後の日だ

「レで制裁組と巻き添えを喰らった私ははれてタイタニアから卒業できるのである！」

…アカデミアは卒業しないけどね

「リスクトデュエルは相手を尊重し敬意を…」

「しょ…十代。

翔がなにしてるか聞いてくれ

「なんで俺なんだ？」

「私翔に嫌われてるし…」

てかあの本リスペクトデュエル入門とか書いてないか？

なんか間違つたリスペクトデュエル書いてそうでヤバいんだが

「これはリスペクトデュエル入門書ッス。

お兄さんから借りて呼んでるッス」

お兄さんってカイザーだよね？

なに変な物貸してるんだあの帝王

「リスペクトデュエルねえ…。

リスペクトデュエルって相手を批判するのがリスペクトデュエルなのか？」

「な、なにを……？」

「俺だつらリスペクト関係無く樂しくデュエルするぜー。」

まあ十代らしいといえば十代らしい答えたな…

「ていうか翔つてなんでそんなにリスペクトリスペクト語つんだ？」

「えつ？」

「だからなんでそんなにリスペクトリスペクト語るんだよ？」

そういえばそうだな

…変な理由だつたら怒る

「…小学生の頃、僕は虜めつ子達にカードを盗られていたんだ」

「カードを盗られた?」

「うん。

しかもその連中はサンダーボルトやハーピィの羽箒を使つてきたんだ

だ」

「サンダーボルトって禁止カードじやないか!?」

サンダー・ボルト…そんなカードあつたな

そういうば開闢つて今は禁止カードだが元の世界ではどうなつてるのでだろうか?

「そして僕はまたその虜めつ子達にカードを盗られる瞬間…あるデュエリストと出会つたんだ」

「あるデュエリスト…?」

「僕と同じ年齢だつたんだけどデュエルが強くて皆が知らない召喚方法で虜めつ子達を簡単に倒してしまつたんだ」

成る程な…つてちょっと待て

「翔…。

今知らない召喚方法と言つたがどんな召喚方法か覚えてないか?」

「な、なんスかいきな「大事な事だから！」…たしかチューナーとかいうモンスターと適当なレベルの低いモンスターを融合してたツス」

…それシンクロ召喚じゃないかああああ！！

何故この時代にシンクロ召喚が…まさか転生者！？

「あの…話を続けていいツスか？」

「…うん」

翔…お前を助けた転生者はリスクの欠片も無いぞ

てかなんでデュエルディスクにシンクロモンスターが反応するんだ？

デュエルディスクは海馬コードポーレーションにあるコンピューターがディスクにセットされたカードを電波に…難しいから省略するわ
とにかくX - セイバーみたいに公式ならまだしもまだ作られていいシンクロ召喚は不味い

未来が狂うもあるが（パラドックスみたいなのが現れる可能性がある）それより大変なのは融合が使われなくなる所だ

融合が旧式化＝融合が使われなくなる

つまり十代の立場が危なくなるという事だ

なんて事してくれてんのその転生者！

「ネオス…大丈夫か？」

「大丈夫だ…。

それでなんて言われた？」

「サイバー流に入つてリスペクトデュエルを全世界に広めないかつて言われたッス…」

転生者の奴シンクロ使っておきながらサイバー流なのかよ…

しかも翔が絶望してる時に救いの手（？）を差しのべるコンボでリスペクトデュエル狂信者へとパワーアップさせるという大変な事をしてかすとは…やるな（戦略的な意味で）

「それでサイバー流に入りリスペクトデュエルを頭に叩き込まれたと…そういう訳だな」

「そういう事ッス

リスペクトデュエルが元々そんな理念なのか転生者がリスペクトデュエルの理念を変えたのか…わからんな

…そうだ

「翔。

今度お前に会わせたいデュエリストがいるのだが…良いか？

「会わせたいって…卑怯者「卑怯者では無いから…」…わかつたッス」

…「コレでアイツと会えれば少しは改善される…筈

「ネオス?

会わせたい奴つて?」

「少し訳ありの『トコエリスト』でな。

まあ本人というよりもっと別の理由だがな」

「ふう〜ん」

ひつして私達は長話をしながらタイタニア卒業がきたのであつた

タイタニア寮 寮長室

「遊城 十代に丸藤 翔、そして天上院 明日香はタイタニア寮で
1週間監と過ごし廃寮の罪を償い卒業の資格を得た事に表彰する」

我々は遂にタイタニアを卒業する事ができました…！

ありがとうタイタニア生徒！

ありがとうタイタニア寮長！

ありがとうタイタニア… エルアカデミア… つて私は巻き添え喰らつただけだ
つたあ…！

「ちなみにこの賞状を他の生徒に見せても恥ずかしいだけだから見

せないよ！」にな

余計な事は言わなくていいです…

「ひつて私達は無事に卒業する事ができたのであつた『テュエルア
カトリニア 教室

「天上院くううううん！…」

「な、なんのよいきなり！？」

万丈目がいきなり明日香に飛び付いてきたが明日香は軽く避ける

…なにしてんだお前

「天上院君が帰つて来たお祝いにドローパンパーティーだああ！」

「ややつほおおー！」

その後一瞬だけ周りが沈黙に包まれたのはいつまでもない

「歸れんよ帰つてきました」

「あ、貴方は鮫島校長…？」

そりいえば最初に出て以来ずっと姿を見なかつた鮫島校長じゃないか！

「タイタニアからの卒業おめでとうござります。そんな贋あざやかなメモのキス…では無くドローパンをプレゼントしますよ」

ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ ରୁକ୍ଷ

皆どんだけドローパン好きなんだ！

良いも

こうして私達はドローパンという祝福でタイタニア卒業パーティーを迎えたのであった

… とりあえず翔にはアイツと会わせないとな

第1-2話 ネオス「なんでGXの転生者のトヨエルティスクってシンクロが反応

ユベル『奴つて鮫島の事?』

ドジリス『うん…（汗）』

ユベル『確かに出番無かつたけど…』

それよりネオスの言つた奴の方が『気になるよ』

ドジリス『それはまた近い「うちにな」

ユベル『……。

（また誤魔化しやがった）』

第1-3話 ネオス「ドローパンは凶器以外のなにものでもない...」 ハーマン

ネオス「たまにはギャグもね」

ハーマン「てかこれギャグ中心の小説だよね?」

第1-3話 ネオス「ドローパンは凶器以外のなにものでもない…」

ヒアーマン

視点 ネオス

デュエルアカデミア 購買部

「ドローパン！」

俺はめざしパンを呟嘆する…ってまたかあ

十代は今ドローパンを買っているが…また黄金のタマゴパンじや無かつたようだ

黄金のタマゴパンとはアカデミアの鶏が1日1回しか生まないレアなタマゴらしくスーパークーラーカード感覚でパンに挟んでいるんだとか

普通のタマゴパンとどう違うのかは食べた本人にしかわからない…

「ネオスはなにパンだつたんだ？」

「私はカードパンだが… さもよつミイラかよ（汗）」

パンにミイラ挟むとか食欲失せるわ！

地雷パンよりはましだがコレも嫌だ！

「ハズレカードだな…」

「アタリハズレなんかよりこんなカードを挟んでるのに絶望するわ…」

「ふん！

修行が足りんな！」

「なんだと万丈目！」

「俺の華麗なドローを見るが良い！」

そう言つて万丈目が引いたのはカードパンだった

「カードパンか！

勿論中身はレアカードの筈だ！」

「…アサシンではないか

「なん…だと…!?」

救済処置のしようが無いアサシンを引くとはな…哀れだ

「なんでアサシンなんだ！」

「こんな救済処置の無いカード」「やつたぜ！軍神ガープだ！」なにい
！？」

万丈目の取り巻きがカードパンを引き軍神ガープを当てていた

てか軍神ガープってライラと組み合わせると無限サイクロンコンボができるんだよな

「何故奴がガープを「ハハハハ！ テーモンの召喚だぜ！」何故だああー！」

「 テーモンの召喚ってたしか売ると30万したな

取り巻き得し過ぎだり…（泣）

「…チツ！

また黄金のタマゴパンじゃなかつたわ！」

明日香…だよねあれ？

「明日香…なにを「ななな、なんでも無いわよ…」…ふくん？」

「イツモドローパンマニアだな

全くなんでこの学園の生徒はドローパンが好きなんだ？

しかも明日香が引いたドローパンもカードパンだし

…中身は逆転の女神か

今は救済処置が無いが元の世界では神光の宣告者＆高等儀式術のお陰で素材として大活躍なんだよな

まるで私みたいだ…

「ネオス……なんで泣いてるんだ？」

「な、なんでも無いぞー。」

別に元の世界での扱いに泣いてた訳では無いのだからなー！

「『』めんね皆〜！

この中に黄金のタマゴパンは無いよ〜！

「「なんだつてー…？（ですつてー…？）」「

黄金のタマゴパンが無いのに驚き過ぎだ十代に明田香よ

私としては黄金のタマゴパンより地雷パンを無くしてほしこのだが…

「は、腹があああー…。」

彼処に被害者であるレッズの生徒がいるしセ「黄金のタマゴパンが無いってどういう事だよー…？」

「一週間前から黄金のタマゴパンだけ盗まれてるのよ

なん…だとー？

何故黄金のタマゴパンだけ盗めるのだ…！

「なによそれ！

苦労して黄金のタマゴパンを探している私を馬鹿にしてるのその犯人はー！」

「 「 「 「 明日香 ^{あすか} ……？」 「 「

「 ……ヤバッ」

「 ……もつ半遅れだ」

「 ハレで明日香もドローパンマニアなのが監に発覚した事で…

「 黄金のタマゴパン泥棒を捕まえるわよおおおお…。」

「 もももも…。」

「 ひして私達は夜にドローパン…否、黄金のタマゴパン泥棒を捕ま
える羽田になってしまったとれ

「 しかし」「こうのは査問委員に任せた方が「といつ訳で査問委員
がきました」なんて」「都合主義…？」

万丈目の気持ちもわかるが「は察してやれ

他の小説ではろくな田にあつてなく扱いが酷い査問委員の人達（今
回は女性一人だが）の為にも察してください

『 メタ発言するなよー。』

(「めんね。
ネオスやつりやつた ）

とまあ冗談は「」がでこして

「そんな事よりなんで僕と隼人君まで？」

「確かにそうなんだなあ」

ドローパン事件には関係が無い翔と隼人は十代に呼ばれて来たようだ
てか隼人いたんだつけ？

「なんか酷い事言われた氣がするんだなあ……」

「「氣のせいだ！」」

万丈目…お前も忘れてたな

「しかし泥棒はいつ「ぎいやあああ！！」なんだ！？」

私達が急いで駆けつけると悲鳴をあげたと思われる犯人はそこにい
なかつた

「ドロー！」

…黄金のタマゴパンを召喚！

「十代に先こされたあ～！」

「なにしてんだお前ら！…」

なに犯人捕まえる人が盗まれる品物食つてるんだ！

「だつて犯人が盗んだか確認を「泥棒となにも変わらんだろうが…」

…チツ」

舌打ち聞こえどるわ

まあそんな事よりも

「…なんか仕掛けた?」

「コレの事か?」

査問委員が出したのは… 地雷!?

「対ドローパン泥棒迎撃地雷だ。

本来の地雷よりも威力は遥かに劣るが黒焦げにするくらいの威力はある」

「なんでそんな物騒な物が学園にあんの!?

たしか海馬社長つて兵器嫌いだったよね!?

「我々が独自で開発した!」

「そんなしょもない事に使つ金があるならレッド寮に回してやれ
よー」

次の日の夜

「天上院君…なんだいそれは?」

「スタンガンだけど？」

軽くて電気鼠よろしく10万ボルトよー。」

「「 ようじへない！」」

「流石明日香だぜ！」

「レで泥棒も一撃だぜー。」

「アニキ！

一撃じゃ駄目なんスよー。」

十代と明日香は泥棒を殺す氣か…！（汗）

「とりあえずスタンガンは駄目だ！」

私に良い考えがあるからそつちにしろー。」

「「 良い考え？」」

私は十代と明日香に説明したが…

「そんな黄金のタマゴパンを侮辱するような作戦は駄目よー。」

「ドローパンをなんだと思ってるんだー。」

「ただのパンだらーが！」

本当は凶器と言いたい所だが2人にそんな事を言える筈がない

「とにかくこの作戦でいくからなー。」

1時間後…

「しかし黄金のタマゴパンが勿体無いよな…」

「また盗られるよつましだらう。」

黄金のタマゴパンを盗む者に天罰を下されると思えれば良いんだ

まあ確かにパンが勿体無いのはわかるが…あのパンだしなあ

「来たッスよ…！」

フーンスを無理矢理こじ開けただと……？

「ドロー！

…また黄金のタマゴパンだぜ…！」

本当に当たるがつたよ…！」

「待てい！」

ちよ、十代…？

「チツ…！」

あ～泥棒に逃げられる…

「爆破」

「ぐわああああ！」

わ〜い泥棒爆 殺…つてまた査問委員アンタかいいいい…！

「泥棒を確保したぞ！」

とりあえずまずは怪我を直すために保険室に行くぞ…！」

いや、怪我させたのあんただからあああ…！！

デュエルアカデミア 保険室

あれからすっかり朝になりミイラ状態となつた犯人は保険室で眠つている

「しかし何故この泥棒はドローパンを…？」

「てか爆破なんて予定に入つて無いんですけど…？」

「逃げられたらいけないと思いリモコン式爆弾を仕掛けおいた」

「そんなもんに金使う暇があるならもつとレッズ寮のリフォームとかに使えよ！」

てかなんでリモコン式爆弾がデュエルアカデミアにあるんだ！

「うう…！」

「犯人が目覚めたぞ！」

「「」の黄金のタマ」「パン泥棒があああーー！」

「明日香さん！

泥棒の首が絞まつてゐるッス！」

お前本当に泥棒殺す気満々だろー！

「大山君ー！」

トメちゃんが保険室に入つて來た

「ト…トメちゃん…ー！」

「知り合いなんスか？」

「大山君は一年前に行方不明になつたつて聞いたけどまさか生きてたなんてねえ…！」

「トメちゃん…俺は「」の一年ドロー運が悪いのを克服する為に修行をしていた…！」

そしてその成果を試すために1週間前から夜中に忍び込み黄金のタマゴパンを当てていたんです…！」

「そりだつたんだね…！」

いや、だからつて忍び込むのはちよつとなあ…

てかトメさんなに持つてんすか！

「さあ大山君！」

貴方が引いた黄金のタマゴパンだよー。」

「トメさん！

その黄金のタマゴパンは「頂きますー」…後悔するなよ」

読者はわかると思つがあの黄金のタマゴパンは私が仕込んだ奴である

「中身は黄金のタマゴパン…とカーデ？

…ば、万能地雷グレイモアって事は…ぎいやああああ…！」

皆（こ）存知地雷パン！

私があらかじめ黄金のタマゴパンを挟むパンを地雷パンに変えて置いたのだ！

…つて今の状況では震では無くただの処分品であるが

「ま、また地雷パンだなんて…！」

…「こめん大山

こうして黄金のタマゴパン事件は解決した

ちなみに地雷パンは今まで通りドローパンの仲間入りしている

…なんで仲間から外さないんだ

第1-3話 ネオス「ドローパンは凶器以外のなにものでもないー」 ハーマン

ネオス「なんで地雷パン発売してんだよー。」

ハーマン「トメさんの陰謀じゃなければいいよね?」

ネオス「ドローパンなんて消えてしまえー(泣)」

第1-4話 ネオス「ゴロー」テックは駄目だとかよく聞くが「ゴロー」テックは案外

ネオス「ゴロー」テックから参考にした人もいる筈だよね?」

今日はあとがき無しです

第1-4話 ネオス「『ルー・トッキは駄目だとかよく聞くが『ルー・トッキは案外

視点 ネオス

デュエルアカデミア 購買部

「武藤 遊戯のデッキを公開かあ…」

「城之内兄さんなにしてんだろ…？」

私と剣八は購買部にあるポスターを見ていた

武藤 遊戯のデッキのレプリカがアカデミアに展示されるんだとか

「おひおひー

レッドとイエローの脣はどうやらがれ！」

なにあの柄の悪いブルー？

「ブルーのいい子ちゃんはすつゝんでもらやー。」

あれ？

よく見たらレッドがブルーとメンチきりあつてるのではないか

まあブルーだからって全員が悪ではなくレッドだからって全員が善では無いしな

「ああ！？」

落ちこぼれのレッドが調子に乗つてんじやねーぞ！」

「HマーTHリート気取つてんトメーらの方」そ調子に乗つてんじやねーぞ！」

両者言いたい事はわかるが購買部で争うのは迷惑なんだが…って剣八？

「トメー」そ購買部でギヤー、ギヤー、わめいてんじやねーぞ…紙切れにされてーのかあ…！」

「「わー..」」

あの…剣八さん？（汗）

「つーかレッズさんよお？

聖バリ発動時にサイクロン発動して無効できると勘違いしてるからブルーやイエローに見下されるんだろーが！」

「す、すみません！」

「それとブルーは見下すのは構わねーが場所を考えろやー。」

「は、はいいい！」

いや、見下す事 자체のはいいんですね

確かに基礎知識もわからなかつたら見下されても仕方ないけどまあ

「わかつたら並べ糞チノピラビもー」

「「は、はーー」

す、凄いよ剣ハさん…

でも見下す事自体に〇×を出すのはちょっと…

「さあ、並ぼうか？」

「は、はー…」

まあデュエルモンスターズも弱肉強食と思えばアカデミアも一緒なのかもしぬれないな

アカデミアのランクをカードで例えるなら

オシリス・レッド＝救済処置が難しいカード達だがワイトキングみたいに爆発力抜群な生徒（十代など）がたまにいる（ワイトキング強いけど）

ラー・イエロー＝一般的に使われる汎用性抜群なカード達
オベリスク・ブルー＝使いこなせば切れ級なカード達
サイクロンなど
ドゲマガイなど

タイタニア＝ガチテッキで使われるテーマカード達（ライトロードやBFなど）

オシリーズ・レッドが酷い評価だが十代みたいにワイトキングの如く爆発力が凄いのは凄いと思う

まあそんな事は置いといて整理券を買わなければな

『遊戯デッキねえ..。

よくあんな紙束が回るよな。

俺中心に組まないと視聴者から俺がドジリストって呼ばれちまうんだよ……!』

…なんか聞こえたか?

「ネオス~?

整理券買わないと売り切れるよ?』

「おっといかんいかん…!』

私はこいつして整理券を買ったのであつた

…今日の夜にでも翔とアイツを会わせるかな? 視点
??????

時間が進み夜のイエロー寮で…

「くそつー!

何故勝てないんだ!』

毎回弱点を突かれて敗北してしまつ…

また負けたのかよアイツ？

「『ペー』デッキ使つてたら負けるよなあ！

「『ペー』デッキ使つて勝とうとするなんて流石は外道と言われしサイコ流だな！」

「くそおおーー！」

俺は自分で言つのもあれだが記憶力が良すぎて、デッキが全て『ペー』デッキになつてしまふのにアイツらは…！

コレも全てリスペクトデュエルなんていう理不尽きわまりない物を作り上げたサイバー流のせいだ！

「しかしどうすれば…そつだ！」

明日は武藤 遊戯の『デッキのレプリカが展示される日』。

今日には届いている筈…！

「見てるよサイバー流…！」

視点 ネオス

「ネオス。

今から遊戯さんの『デッキを見に行かないか？』

いきなり三沢が私の部屋に入り込みこんな事を言いだした

「それって整理券が無駄に…ってまあいいか」

明日また見れば良い話だし眠れないし良いか

「とりあえずもう一人誘つてみるから待つてくれ」

私が剣八の部屋に向かつていった…が

イエロー寮 剣八の部屋

『無を喰らうがいい！』

「オルガうぜえええ！」

「ハッハッハー！」

クラ ドジときで私のエク デス先生は倒せんよ…」

なにDD Fしてんだこの2人は…

「あのシオン先生に剣八『カメエヌエーッ…』…駄目だこりや」

恐らく朝までやりそのうので私は剣八を置いて三沢と一緒に向かつた

…そういえば神楽坂の奴いなかつたな

…あとDD Fを知らない読者、めんね

デュエルアカデミア 廊下

「しかし三沢がズルしてみようとするとはな」

「デュエリストとして遊戯さんのデッキは皆の憧れだからな
まあわからん事も無いが…武藤 遊戯が凄いだけでデッキはむちや
くちゃなんだぞ？」

シナジーが合わないカード軍団にバランスを考えすぎて器用貧乏と
化し更には最高パワーは3000を超えるが如歎しへりバリキリ
オン！

「…よくあんな器用貧乏なデッキ回せるよなあ」

「なんか言つたか？」

「な、なんでも無いぞ…」

遊戯デッキを皆の前で雑魚とかなんて言つたら間違いなくフルボッ
コだからなあ…（汗）

「三沢にネオス！？」

「「十代に翔に万丈目＆ダブル取り巻き！？」」

「「ダブル取り巻きつて呼ぶな！」」

だつて名前知らないんだもん

「つーかお前らも…？」

「「「「勿論さーー！」」」」

やつぱり…

考える事は皆一緒か…

「とにかく早く行こ」つぜー！

「そりだな」

私達は展示室に向かつたがそこには遊戯デッキが無くなっていた事など今の私達が知っている筈が無かつた…

視点 神楽坂

岸壁

遂に手に入れた！

「デュエルキングのデッキを！」

俺はデュエルキングのデッキをつい奪つてしまい岸壁でデッキを見てみたのだが…なんだこのデッキは！？

「ブラックマジシャンにブラックマジシャンガール…！クリボーにシフトチェンジ…一般人には扱えないぞ！」

こんな俺には到底使いこなせないぞ…

こんなデッキを使いこなすとは…流石遊戯さんだな…！

「…改造しよう」

俺は無我夢中でデッキを改造した

どうせ明日の朝までは返すし改造した後にレシピだけを口ペーすれば良いんだしね

「とりあえずカオス・ソルジャーを開闢に変える！そしてカオス・ソーサラーにディフェンダーを入れて暗黒騎士ガイアを疾風の暗黒騎士ガイアに…！」

30分後

「できた…！」

ある程度遊戯デッキの原型を留めないとけなかつたから考えるのが大変だった…

…よく考えてたらコレって俺が初めて作ったコピーじゃないデッキじゃね！？

…いやつたああ「そこでなにしてるんスか！」ああ…

折角ハイテンションになっていたのに誰だ…？

「誰だ貴様…って貴様はサイバー流の1人の丸藤 翔！？」

「君は昼間に僕と整理券を賭けて僕とデュエルをした神楽坂君じゃないッスか！？」

まさかサイバー流にリベンジ＆復讐が同時にできる時が来るとはな…！

「丸藤 翔！

俺は流派サイコ流の1人、神楽坂だ！」

「サ、サイコ流！？」

「貴様にデュエルを申し込む！」

そしてサイコ流が外道では無い事を証明してやる！」

「なんだかよくわからないけど…やるしかないッス！」

ハハハハ…！

初めて作った改良オリジナルデッキを味わうがいい！

「「デュエル！..」」

神楽坂 LP4000 翔 LP4000

「先攻は俺からだ！」

ドロー！

手札から苦渋の選択を発動！
さあ1枚選べ！」

ブラックマジシャン
ジャックス・ナイト
クイーンズ・ナイト×2
疾風の暗黒騎士ガイア

「ブラックマジシャンに暗黒騎士ガイア…まさか！？」

「そうさー..

俺が遊戯デッキを盗んだ犯人だ！」

「そ、そんな…！」

遊戯さんのデッキに僕が勝てる筈が…いや、相手は遊戯さんじゃなくて神楽坂君だ！

遊戯さんじやないから勝てる筈ッス！

僕はクイーンズ・ナイトを選択するッス！」

「ではクイーンズ・ナイトを手札に加え残りを墓地に送る…

そしてクイーンズ・ナイトを守備表示で召喚…「

クイーンズ・ナイト

星4／光属性／戦士族／攻1500／守1600
しなやかな動きで敵を翻弄し、相手のスキを突いて素早い攻撃を繰り出す。

「更にカードを1枚セットしてターンを終了だ！」

「僕のターン！」

ドロー！

スチームロイドを召喚…「

スチームロイド

星4／地属性／機械族／攻1800／守1800

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。
このカードは相手モンスターに攻撃された場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントダウンする。

「バトル！

スチームロイドでクイーンズ・ナイトを攻撃…！」

スチームロイドがクイーンズ・ナイトに突進し突き飛ばした

「更にカードを1枚伏せてターン終了…」

「俺のターン！」

ドロー！

墓地のクイーンズ・ナイトと疾風の暗黒騎士ガイアを除外してカオス・ソーサラーを特殊召喚する…！」

カオス・ソーサラー

星6／闇属性／魔法使い族／攻2300／守2000
このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外した場合に特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してゲームから除外する事ができる。

この効果を発動するターン、このカードは攻撃する事ができない。

「カオス・ソーサラー…？」

そんなカード遊戯さんのデッキに入つて無い筈…！」

「少し改造したのさ…」「なんて事を…！」

「ペーテックを使ってなおかつ遊戯さんのデッキを改悪するなんて…！」

改悪つて…

確かに遊戯さんのデッキを改造するのは冒涜とは思つたが記憶する暇が無かつたしあんなデッキは俺には使いこなせんから改造したのだ！

だが敢えて言わせてもらおうか…！

「サイバー流はなんでも批判するが俺だつて好きで『パンチラッキを使っている訳じゃない！』

「好きで使つてたんじゃないんスか……！」

「俺は記憶力が凄いせいで作ったデッキが全て『コピー』デッキになってしまつ！」

そのせいで皆からは外道と呼ばれ馬鹿にされてきた！
だから俺は1キルを得意とするくせに周りから憧れの的となつてゐる
サイバー流を許さない！

貴様を倒しサイコ流が外道じゃない事を証明してやるー！」

「でも……だからって遊戯さんのデッキを奪うなんて許さないッス！」

「……確かに俺は遊戸さんのデッキを盗んだ！
だけどこのデッキから自分でアレンジしたデッキを作る事ができた
んだ！」

そのデッキを改悪なんて言つお前……いや、サイバー流を許さない！」

「神楽坂君……！」

俺は初めてのアレンジデッキでサイバー流を倒す！

……続く

第15話 ネオス「死ぬのは誰でも嫌な事である」 ハーマン「お前は向回車

ネオス「アニメ版の遊戯『テッキツ』ってあの後どうなるのだ？」

ハーマン「保管されるんじゃない？」

第15話 ネオス「死ぬのは誰でも嫌な事である」 ハーマン「お前は何回も

翔と神楽坂がデュエルをしている頃…

視点 ネオス

デュエルアカデミア 森

「なんでクロノス先生までくるんですか？」

「早く探さなければ私の立場が危つい事になるノーネ…！」

そんなに罰を受けるのが怖いんですか…

「ま、まあ騒ぎが起きる前になんとかしましょつかー！」

「そ、そうなーネ！

シーモールネオスにシーモール三沢はあっちを探してほしいノーネ
！」

とりあえず落ち着けクロノス

…そういえば

「クロノス先生？」

「な、なんなノーネ？」

「遊戯さんの『デッキのレプリカつて展示会が終わつた後どうなるんですか？』

「展示会の後、遊戸デッキは…になるノーネ」

「…なんだつて！？」

視点 翔

「丸藤 翔！」

貴様を倒しサイコ流よりサイバー流の方が外道の集まりだと皆に証明してやる！」

「サイバー流は外道なんかじゃ…」

戦術を批判するくらいならスペクトードュエルやリスペクトードュエルの象徴であるサイバー流なんて無くなつた方が良いわああああ！！！

リスペクトードュエルって相手を批判するのがリスペクトードュエルなのか？

僕の頭にネオスやアーキの言葉を思い出した

僕は…サイバー流は外道なの？

「神楽坂君…？」

なんでサイコ流は外道って呼ばれてるんスか…？」

「なんだ知らないのか？」

サイコ流はデュエルに勝つためにあらゆるテッキや戦術、そして理論を研究をして常に全力で戦ってきた！
だがサイバー流は相手を尊重し敬意を払わないとサイコ流を外道扱いし世界に広めやがったんだ！」

「サイバー流がそんな事を…！？」

僕が今まで見てきたサイバー流はなんだつたんだ…！？

「そしてサイコ流は外道として皆から嫌われ軽蔑されてきた！
相手を尊重し敬意を払うとか言って相手を讐めきり戦術を批判しているサイバー流の方がよっぽど外道なのに！」

「……」

なにも言えない…

正々堂々と戦うッス！

リスペクトデュエルとは相手を尊重し敬意を払う事！
だけどアンタのデュエルは尊重や敬意は無い！

それどころか相手をいたぶっている！

そんなのデュエルなんかじゃない！

尊重や敬意は無いのはサイバー流…いや、僕じゃないか…！

「何も言えないか…！」

ならばこの俺が貴様に天誅を下してくれる！」

天誅か…

今の僕は罰を受けなければいけないんだよね…

今まで尊重や敬意を払わずそれどころか批判までした僕には丁度良いかな…「カオス・ソーサラーの効果発動！
1ターンに一度だけこのモンスターの攻撃を破棄する代わりに表側表示のモンスター1体を除外する事ができる！
憎きサイバー流のモンスターを次元の彼方に消し去れ！」

カオス・ソーサラーは混沌の空間を作りスチームロイドを混沌の空間へと引きずり込んで行った

「更に死者蘇生を発動しブラックマジシャンを特殊召喚する…」

ブラックマジシャン

星7／闇属性／魔法使い族／攻2500／守2100
魔法使いとしては、攻撃力・守備力ともに最高クラス。

神楽坂の目の前にあの武藤 遊戯の相棒であるブラックマジシャンが現れる

「ブラックマジシャンよ！

哀れなるサイバー流にダイレクトアタックだ！」

ブラックマジシャンの必殺技である黒・魔・導を翔に放つた

翔 L P 4 0 0 0 1 5 0 0

「コレでターンを終了だ！」

一 僕の：ターン。

卷二

駄目だ

僕なんかがテニスをする資格なんて……無いんだ

翔
！
」

ネオスに二沢君?

は、狂人はシミル神楽坂ミツカだタノノ！？

ケロノス先生までいるツス

一ネオスニ二沢か！

「イエローのトップである2人が来るとは丁度良い！コイツの敗北をこの目で見るがいい！」

一
あ、あれは！

「神楽坂！」

アニキ達まで……！

「神楽坂！」

お前が遊戯さんの『テッキ』を盗んだのか！

「そうだ！」

そして俺はこの『テッキ』を改造し憎きサイバー流に実験していたのさ！」

「……か、改造！？」

「そうだ！」

遊戯『テッキ』のお陰で俺は『ペーストッキ』の呪縛から少しときはなたれ
たんだ！

そしてこの『テッキ』でサイバー流を倒す！

「コイツ……待て十代！」ネオス！？』

ネオスが……僕に近づいてきた？

「翔……デュエルを続行しろ」

「えつ……！？」

僕はネオスから予想もしていない事を言われた

「クロノス先生……言つても良いですかね？」

「……承知したー！」

「翔、神楽坂が今使つてゐる遊戯デッキのレプリカは…展示会が終了した後に処分される」

「…処分！？」

処分つてどういう事！？

「武藤 遊戯のデッキは強力なデッキとして世界で有名だ。そのデッキがアカデミアに展示されるのは世界初なんだ。だがこのデッキで悪用する輩がいるかもしれないという事で展示が終了しだいカードは処分…つまりカードにひとつでは死の宣告を受けているのと同じなんだ…」

「そ、そんな事が…！？」

処分だなんて…そんな！

「だから戦うんだ翔！

奴らは処分される前に戦いたがつてゐる！

お前が奴らに冥土の土産としてデュエルをするんだ！」

「ネオス…」

「それにお前は言つただろう？

サイバー流は相手を尊重し敬意を払う。

確かに今のサイバー流は尊重や敬意所かマナーすら守れていない。だがお前がサイバー流を…否、デュエルが好きならば最低限の事はわかる筈だ」

「最低限の……事？」

俺だつらリスペクト関係無く楽しぐテュエルするぜ！」

「楽しぐ…『テュエル！』

「そうだよ…！」

僕はなんでそんな簡単な事に気づかなかつたんだ…！」

どんな『テュエリスト』にも色々な戦術を仕掛け勝ちにいく

その戦術が決めて楽しんだり『テュエル』自体を楽しむ『テュエリスト』もいる

僕もこの『テュエル』を楽しまなきや駄目なんだ！」

「神楽坂君…！」

「なんだ？

サレンダーでもするのか？」

「サレンダーなんてしない！」

僕はサイバー流…いや、一人の『テュエリスト』として君を倒す！」

視点 ネオス

全く…なんとか立ち直れたか

しかし私が会わせたかつた神楽坂にも会っているしなんで『都合主義なんだ

『楽しめればそれで良い…か。

『元の世界の十代はなんか勝つのに必死だつたな…』

（元の世界の十代が勝つのにだつただと？）

読者にはわかると思うがコレはテレパシーである

一応私も元HEROなのでテレパシーへりこなできる

『なんとか元の世界の十代は楽しむ余裕が無いへりこ必死だつたんだよな…』

（必死か…。それでも私達にとつては迷惑だがな。
もし私に戻つてこいなんて言つても戻つてやらんからな）

『まあお前より私を優先するがな』

この野郎…！（泣）

そんな事をしている間に翔は『ユエルを再開していた

「僕のターン！」

ドロー！

セツトしていたチーン・マテリアルを発動！

チエーン・マテリアル

通常罷

このカードの発動ターンに融合召喚を行う場合、融合モンスターカードによって決められたモンスターを自分の手札・デッキ・フィールド・墓地から選択してゲームから除外し、これらを融合素材とすることができる。

このカードを発動したタイミングで攻撃する事はできず、この効果で融合召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

「チヨーン・マテリアル」?

ビークロイドでのチヨーン・マテリアルは…まさか…」

「僕は手札からビークロイド・「ネクション・ゾーンを発動！」

ビーコロイド・コネクション・ゾーン 通常魔法

通常魔法

手札またはファイールド上から、融合モンスターカードによつて決められたモンスターを墓地へ送り、「ビーコロイド」と名のついた融合モンスター1体を融合ゲッキから特殊召喚する。

このガードによって特殊召喚したモンスターは、魔法・罠・効果モンスターの効果によつては破壊されず、効果を無効化されない。

(「Jの特殊召喚は融合召喚扱いとする」)

「僕はデッキのチームロイド、ドリルロイド、サブマリンロイドを融合しスーパー・ビー・クロイド・ジャンボドリルを融合召喚！」

スーパー・ビーコロイド・ジャンボドリル

星8 / 地属性 / 機械族 / 攻3000 / 守2000

「スチーマロイド」 + 「デリルロイド」 + 「サブマリンロイド」

このモンスターの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「攻撃力3000！？」

だが焦つて融合したのは間違いだ！

チエーン・マテリアルの効果で攻撃はできずビークロイド・コネクション・ゾーンの効果で破壊耐性は付くがカオス・ソーサラーには関係無い！」

確かにカオス・ソーサラーは除外効果がある

だが翔はそんな事くらいわかっている筈だ

「そんなのわかつてるさ！」

手札から強欲な壺を発動し2枚ドロー！

更に手札1枚をコストにライトニング・ボルテックスを発動！」

「ここでライトニング・ボルテックスだと…？」

天から放たれた雷が神楽坂のモンスターを消し去った

「僕はコレでターンを終了するよ！」

そしてチエーン・マテリアルの効果を受けたスーパービークロイド・ジヤンボドリルの自壊はビークロイド・コネクション・ゾーンで帳消しだ！」

「よし！」

これで神楽坂はジヤンボドリルを倒す事が困難になつたぜ！」

確かにカオス・ソーサラーがいなくなつた事で翔が有利にはなつた
だが…

「お前にしては良くやつた方だが…甘いんだよ！
ドロー！」

手札から強欲な壺を発動！」

「[イ]で強欲な壺だと！？」

「流石は元遊戯さんのデッキ…！」

いや、そこは遊戯デッキ関係無いぞ？

てかさりげに元つけてるし

「セットしていたリビングデッドの呼び声を発動！
墓地からカオス・ソーサラーを特殊召喚する…」

「またカオス・ソーサラー！？」

カオス・ソーサラーは正規召喚に成功すれば蘇生が可能なモンスター
だ

ジャンボドリルはここで退場だな

「そして見せてやる！…

墓地のブラックマジシャンとクイーンズ・ナイトを除外しカオス・

ソルジャー - 開闢の使者 - を特殊召喚!」

カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -

星8／光属性／戦士族／攻3000／守2500
このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。自分のターンに一度だけ、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスター1体をゲームから除外する。この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう一度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

「開闢の使者だと!?」

「あの究極のレアカードを神楽坂が持っているとは!?!」

やはり此方でも開闢は強いんだな

元の世界では禁止カードがあっちではリスト変わったのか気に入るなあ…

「カオス・ソーサラーの効果でジャンボドリルを除外だ!」

カオス・ソーサラーがジャンボドリルを混沌の空間へと引きずり込んで行つた

「ジャンボドリルが…!」

「止めだ！」

開闢の使者で、ダイレクトアタックだ！」

「うわあああ……」

翔 LP1500 -1500

「大丈夫か翔！」

「大丈夫ッス……」

このデュエルで大事な事に気がつけたッス……」

翔が何に気がついたかは本人にしかわからん

だが良い方向に向かっているのは私にもわかつた

「クロノス先生。
コレを返します……」

「一三一……？」

あつさり返す事に驚いたのはわかるが落ち着けって

「初めて作ったアレンジテックを手放すのは正直惜しいです……。
ですが俺はもう満足です」

「そうですーか……」

ですが盗んだ罪が消える訳では無いノーネ

確かに盗みは罪だ

どんな理由でも神楽坂のやつた事は罪である

「貴方にはレポート50枚全てをやつしてもいい——」

「……わかりました」

「うして遊戯、テッキ盜難事件は幕を閉じた……」

イエロー寮 外

展示会が無事に終わり神楽坂はレポートの半分を終えた頃

「神楽坂——！」

「ネオス……？」

私は神楽坂を待ち伏せしていた

「なんだ？

もしかしてレポートを「却下」……やっぱり

「レポートは手伝わないが……ほりよ」

私は神楽坂にあるカードを渡す

「これは……ブラックマジシャン——？」

「クロノス先生からのプレゼントだ」

「…ありがとうございます」

私はあの後処分される遊戯デッキの中からブラックマジシャンだけくれるようにクロノスを説得した

説得するのめちゃくちゃ大変だったんだからなー！

『すまないな…』

(神楽坂と共に頑張れよ…ブラックマジシャン)

私はブラックマジシャンにてレパシーを送り寮に戻つていった…

第15話 ネオス「死ぬのは誰でも嫌な事である」 ハーマン「お前は向かう回り

ユベル『よかつたねブラックマジシャン……』

ドジリス『だが処分された他のカードが可哀想で仕方ないんだが』
それは言わないと約束だよ』……つん（汗）』

ユベル『次回は十代を付け狙つあの女の話だ……』

ドジリス『このヤンデレめ！
では次回もお楽しみに！』

第16話 ネオス「最強の過労死は私である」 ハーマン「いや、私が最強の

ネオス「ジャンク・シンクロノ」「ドッペル・ウォリアー、ダンティライオン。

最近流行りのガチ軍団だな」

ハーマン「アイツら疲れを知らんのか？（汗）」

今日はあとがき無しです

そしてこの小説の独自設定あり（コベル曰くあの女とアカデミア）

第16話 ネオス「最強の過労死は私である」 ハーマン「いや、私が最強の

視点 ネオス

イエロー寮 ネオスの部屋

「コレを使えばエアーマンが確実に過労死できるな…」

『殺す氣があ前は！』

今のは暇なので新しいデッキを作っている

勿論私が切札のデッキだ

『ていうかコレ下手したら全モンスターが過労死するぞ…』

「皆私の気持ちがわかれれば良いんだ！」

『お前つて奴は…』

フハハハハハ！

コレで全てのモンスターは過労死する事に「お邪魔しまーす」…誰だ？

『なんで小学生がアカデミアにいるんだよ?』

知るか

てかよく見たらアカデミアの制服にそっくりだな

「あ～なに勝手に入つてんのぞ」

「シオン先生?」

早速ですが何故アカデミアに小学生が?

そしてなんでアカデミアと制服がそっくりなんですか?」

つーかよく見たら小学生全員の制服の色が赤とか黄色、そして青が
いるがまさか…

「アカデミア小等部から小学6年がやつて来てアカデミアの見学に
来てるんだよ」

「あ～そうですか…はあ…?」

アカデミアに見学!?

てかデュエルアカデミアって小等部あったのかよ!?

「なあなあ!」

「なんだ?」

小学生が話しかけて来るが…やはり男子である

ところが、これは恐らく女子は全員オベリスクブルーなのだらうな

「俺どデュエルしようぜー！」

終わったねあの人

勝也君デュエル強いからねえ！」

聞こえてるだ小学生！

てかコイツ本当に強いのか？

オシリス・レッドなんかルールを間違えるくらいだから小学生はもつと酷いかもしれん…（汗）

だけど某マスターズの切札勝 みたいに小学生なのにデュエルがめちゃくちゃ強いつてパターンもあるが…小学生に環境の厳しさを教えてやるのには丁度良いかもしれんな

「良いだろ？。

子供に環境の厳しさを教えてくれるー。」

「その台詞は負けフラグだぜ？」

「勝つてから言つんだな！」

あれ？

今の私つてHEROでは無く悪役じゃね？

これではまるでE・HEROじゃなくてE HEROではないか！

「まあ悪のHEROになつても負けないがな！」

「「デュエル！」」

ネオス LP4000 勝也 LP4000

「俺のターン！」

「ドロー！」

「俺のエースモンスター－エルフの剣士を召喚！」

「エルフの剣士？」

エルフの剣士

星4／地属性／戦士族／攻1400／守1200

剣術を学んだエルフ。

素早い攻撃で敵を翻弄する。

「更に団結の力を発動してエルフの剣士に装備！」

団結の力

装備魔法

装備モンスターの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体につき800ポイントアップする。

エルフの剣士 攻撃力1400 2200 守備力1200 200

00

「ターン終了だぜ！」

攻撃力2000…！

あんなのに勝てるわけ無いよな～

攻撃力2000”ときだぞ皆一・

シオン先生なんか攻撃力30000以上を余裕で出すんだからな！

「私のターン！

ドロー！

手札から苦渋の選択を発動！』

E・HERO ネオス×2

E・HERO エアーマン

ゾンビ・マスター

馬頭鬼

「そんな雑魚カードなんか怖くないぜ！
ゾンビ・マスターを選択だ！」

ほお…ゾンビ・マスターを選択するか

「E・HEROにアンデット族…？」

相性合うの？」「

シオン先生…確かにこの「テッキ」はある意味ではネタである意味では凶悪な「テッキ」なのですよ！」

「ではゾンビ・マスターを手札に加え残りを墓地に送る！そして手札からアンデットワールドを発動！」

アンデットワールド

フィールド魔法

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上及び墓地に存在する全てのモンスターをアンデット族として扱う。また、このカードがフィールド上に存在する限りアンデット族以外のモンスターのアドバンス召喚をする事はできない。

周りのフィールドはファンタジーに出てくる様な魔の世界へと変わった

「な、なんだこれ！？」

「このカードはフィールドと墓地のモンスターを全てアンデット族にするカードだ！つまり…こんな使い方も可能なのだ！まずは手札からブラックホールを発動！」

ブラックホールがエルフの剣士を呑み込み破壊した

「エルフの剣士が！？」

「そして生者の書・禁断の呪術・を発動！」

生者の書 - 禁断の呪術 -

通常魔法

自分の墓地に存在するアンデット族モンスター1体を選択して特殊召喚し、相手の墓地に存在するモンスター1体を選択してゲームから除外する。

「墓地からエアーマンを蘇生してお前の墓地のエルフの剣士を除外する！」

エアーマンの効果でデッキからアナザー・ネオスを手札に加える！そして更に馬頭鬼の効果発動！

馬頭鬼を除外する事でアンデット族を蘇生する！墓地からネオスを特殊召喚する！」

フハハハハハ！

アンデットワールドとこの私ネオスを混合させた光アンデットネオス！

全てのモンスターを過労死させる究極の過労死デッキだ！

「ネオス…。

相手は小学生だよ？」

「大げな結構！

今日の私は…過労すら凌駕する存在だ！

エアーマンとネオスでダイレクトアタック！」

「ぎやああああ…！」

勝也 LP4000 - 200

酷い…！

モンスターが可哀想だよ！

なんか不評だな…

アンデット族は墓地にいてこそ喜びを感じるんだからな！

「てかシオン先生！

アカデミア小等部つてこんなにレベル低いんですか！」

「コイツはレッドの制服来てるから多分雑魚だね。
エルフの剣士で驚いてたのレッドだけだし」

なんだ…良かつたよ

もしもアカデミアのレベルがこんなに低かったらアカデミアの面目丸つぶれだからな

…待てよ

そういうえばコイツら小学生だよな？

そして私もよく知る人物も私が初めて知ったのは彼女が中学1年生の時

まさかな…

視点 ク里斯

タイタニア寮 ク里斯の部屋

「伝説の剣豪…後に英雄王となるギルガメスは全ての武器を集め暗黒王イクスデスを打ち倒し世界に平和をもたらしました…。やはり久しぶりに見ると面白いな」

聖剣伝説…

全ての武器を集めるのが夢である剣豪ギルガメスが聖剣を集め暗黒王イクスデスを打ち倒し世界を救う話だ

子供の時から読んでいるが何度も見ても面白い

中等部で一人でいた時は何時もコレを読んでいたな

まあ何時も一人だったから読んでばかりだったが…

「亮様…！」

いきなり私の部屋の窓から…小学生…?

「亮様！」

私の思いを受け取つ「いや、此処はブルー寮じゃないんだが…えつ？」

そして…

「私はデュエルアカデミア小等部の早乙女 レイです！
あの…亮様は？」

「慌て過ぎだぞ。

私はクリス・ラーディッシュだ。
タイタニアの生徒だ」

「タイタニアってあの…？」

タイタニアは小等部でも有名なのか？

そんなにタイタニアは凄いのか…

「所で亮様って言つてたが…」

「はい！

丸藤 亮様と会いたいんですが…会えますか？」

サイバー流奥義：飛 文化アタックウゥウウ…！

駄目だ…！

この娘にあの馬鹿を会わせては駄目だ！

「亮は…ちょっと忙しいから会えないぞ？

デュエルの予約でいっぱいだから会う余裕は無い…な

「 もうですか… ハア 」

ため息つかないでほし… !

なんか申し訳ない気分になるから… !

「 とこりか何故レイは此処に? 」

「 知らないんですか? 」

今日は私達アカデミア小等部が高等部に見学しに行く日ですよ? 」

…忘れてた

タイタニア寮からあまり出てないからよくわからなかつたな…

「 それよつ… テュール… しません? 」

「 テュールを? 」

「 折角会えたんだし… ほら、 テュールをしたら皆仲良くなれるじやないですか… ! 」

皆仲良く… か

なんだらつか

レイはなんとなく私と同じ感じがしている気がする… が折角頼まれたんだ

やるだけやるつ

「良いも。

じゃあやひつか?」

「は、はー。」

「「トコトコルーー。」

： 続く

第17話 ネオス「遊戯王って闇がメインなのに最近の環境は光がメインな気が

ネオス「オネストにマスターヒュペリオンにクリスティアにアース
つて天使ばっかじゃないか…（汗）」

エアーマン「クリスティア嫌あああああ！…（泣）」

今回もあとがき無し+レイに若手オリジナル設定あり

そしてデュエルはありますが途中で終わります（ストーリー的な意
味で）

第17話 ネオス「遊戯王って闇がメインなのに最近の環境は光がメインな気が

視点 ク里斯

デュエルアカデミア 森

「すみません…。

こんな所でデュエルなんて頼んで…」

「なにか事情があるなら仕方ないぞ」

私達は森でデュエルをする事になった

森なら人があまり来ないし見つかりにくい

…だが気になるのはレイのデッキだ

こんな所に来てデュエルをするという事は不味いデッキなのだろうか？

「ではいきますよー」

「わかった」

「「デュエル…」」

クリス LP4000 レイ LP4000

「私のターン！」

ドロー！

モンスターとカードをセットしてターン終了！」

「私のターン！」

ドロー！

モンスターとカードをセットしてターンを終了する。」

「（攻撃してこない…？）

私のターン！

ドロー！

セットしていたライトロード・ハンター ライコウを反転召喚！

ライトロード！？

「ライコウのリバース効果発動！」

クリスさんのセットカードを破壊します！」

ライコウが目から小さな閃光を発射しセットカードを破壊する

「リバースカードオープン！」

威嚇する咆哮！

「コレによつこのターン、バトルフェイズは行えないぞ！」

「だつたらそのセットモンスターを破壊するまで！
だけどその前にライコウの効果でデッキから3枚カードを墓地に送ります！」

ライトロード…

墓地肥やしが軽視されているのを見てエ2社が墓地肥やしがいかに優秀かアピールする為に開発されたシリーズだ

だがあるカードによる凶悪な効果が原因で制作が中止されたシリーズだ

：何故私がこんな事を知ってるかと言つと母さんが酒を飲んで酔つた時に言つていたからだ（汗）

「ライコウの効果でデッキから墓地に送られたウォルフの効果発動！
ウォルフを特殊召喚！」

ライトロード・ビースト ウォルフ

星4／光属性／獣戦士族／攻2100／守 300

このカードは通常召喚できない。

このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「そしてライコウを生け贋にケルビムを召喚！」

ライトロード・エンジェル ケルビム

星5／光属性／天使族／攻2300／守 200

このカードが「ライトロード」と名のついたモンスターを生け贋にして生け贋召喚に成功した時、デッキの上からカードを4枚墓地に送る事で相手フィールド上のカードを2枚まで破壊する。

「コストとしてデッキからカードを4枚墓地に送りケルビムの効果発動！」

相手フィールド上のカードを2枚まで破壊するよ…」

ケルビムの杖から光の球が発射されセットモンスターを破壊した

「良し！

破壊されたのはダークソウルだ！」

「ダ、ダークソウルって…？」

ダークソウルはフィールドから墓地に送られた時、エンドフェイズ時にデッキからX セイバーと名のついたモンスター1体を手札に加える！」

XX - セイバー ダークソウル

星3 / 地属性 / 獣族 / 攻 100 / 守 100

このカードが自分フィールド上から墓地へ送られたターンのエンドフェイズ時、自分のデッキから「X - セイバー」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

「手助けしちゃった…！」
ターンを終了するよ」

「エンドフェイズ時にダークソウルの効果発動！
デッキからボガーナイトを手札に加える！」

「コレで展開する事はできるが… ウォルフはともかくケルビムを倒すのにはまだキツいな

「私のターン！』

ドロー！

XX - セイバー ボガーナイトを召喚！』

クリスの目の前に巨漢の獣人が現れる

XX - セイバー ボガーナイト（仕様変更版）

星4 / 地属性 / 獣戦士族 / 攻1900 / 守1000

このカードが召喚に成功した時、手札からレベル4以下の「X - セイバー」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

自分フィールド上に「X - セイバー」と名のついたモンスターが存在しない場合、このカードは攻撃宣言する事ができず自分のターンエンドフェイズ時にこのカードのコントローラーは1000ポイントのダメージを受ける。

「ボガーナイトの効果発動！』

ボガーナイトが召喚された時、手札からレベル4以下のX - セイバーを特殊召喚する事ができる！

「フラムナイトを特殊召喚する！」

XX - セイバー フラムナイト

星3 / 地属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守1000

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り一度だけ相手

モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。

このカードが戦闘によつて相手フィールド上に守備表示で存在するモンスターを破壊した場合、自分の墓地に存在するレベル4以下の「X・セイバー」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

クリスの田の前に赤き鎧を纏つた女戦士が現れる

「そして手札から地碎きを発動！」

地碎き

通常魔法

相手フィールド上に表側表示で存在する守備力が一番高いモンスター1体を破壊する。

「レイのフィールドで1番守備力の高いウォルフを破壊する！」

「ウォルフが…！」

でもケルビムは無事よ…」

「まだケルビムは倒せないが…時間稼ぎくらいにはなる！カードを1枚セットしてターンを終了する…」

「私のターン！」

ドロー！

モンスターをセットしてバトル！
ケルビムでフラムナイトを攻撃！

ケルビムが杖から発射される光の球で攻撃するが…

「フラムナイトの効果発動！」

このカードが表側表示で存在する時、一度だけ攻撃を無効にする…」

フラムナイトはケルビムが発射した光の球を手に持つ剣で弾き攻撃を無効にした

「ぐつ…ターン終了…！」

「私のターン！」

ドロー！

…ターンを終了する

ケルビムを倒すカードが来なかつたか…！

「どうやら良いカードが来なかつたみたいですね…！」

私のターン！

ドロー！

手札から苦渋の選択を発動！

この中から1枚選択してください！」

ライトロード・マジシャン ライラ
ライトロード・モンク エイリン
ライトロード・パラディン ジュイン×2
ライトロード・ウォリアー ガロス

「ならばガロスを選択する」

「では残りは墓地に送ります！
そしてソーラー・エクスチェンジを発動します！」

ソーラー・エクスチェンジ

通常魔法

手札から「ライトロード」と名のついたモンスターカード一枚を捨てて発動する。
自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後デッキの上からカードを2枚墓地に送る。

「私はさつき加えたライラをコストに2枚ドローし……？」

ん…？

「どうした？」

「あ、いや……デッキから2枚墓地に送ります……」

さつきの反応はなんなんだ…？

「あ、あの…？」

なんでクリスさんはリストpektから外れているX・セイバーを使つてるんですか？

周りから卑怯とか言われる筈「お前もなんでデュエルモンスターの黒歴史と呼ばれたライトロードを使つている?」…まさか知つてゐる人がいたとは思わなかつたです」「

私の母さんは工2社のテーマカード制作委員長だから時々話してくれる

「…『ミニ箱から拾つたんです』

「『ミニ箱…?』

なんでライトロードが『ミニ箱に入つてたんだ…?』

「私がカードを買おうとショッピングに行つたらショッピングの『ミニ箱』に入つてたんですね…。」

その時はライトロードがあんなに強いだなんて知らないくて『ミニ箱』から拾いデュエルをしてました。

その結果として皆から嫌われて…「うう…」

私と…同じだ

卑怯だぞ！

リスペクトデュエルをしない卑怯者め！

「…ほら、もう泣かない

「でもお…！」

レイの持つ手札のカードの中からカードが一枚こぼれ落ちる

「これは…裁きの龍？」

裁きの龍

星8／光属性／ドラゴン族／攻3000／守2600

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に「ライトロード」と名のついたモンスターが4種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。

1000ライフポイントを払う事で、このカード以外のフィールド上に存在するカードを全て破壊する。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを4枚墓地へ送る。

「もしかしてコレが原因か?」

クリスはレイが落とした裁きの龍を渡す

「…はい。

コレがあつたから、テュエルに勝てたけど…皆から卑怯者呼ばわりされて…！」

「大丈夫…私がついてるからな」

「…ありがとう…！」

レイ…私が守つてあげるからな

視点 ネオス

つまらん

「リスクペクトドキュエルとは相手を尊重し敬意を払う。つまりカウンター罠で妨害したりハンデスで崩したりするのはリスクペクトから反しており……」

リスクペクトドキュエルの授業なんぞ誰も望んで無い

万丈目とダブル取り巻きは寝てるし三沢は「あんなドキュエルを侮辱するリスクペクトドキュエルとかいう理念なんぞ聞くくらいなら単位が落ちても構わないから寮で自習した方がまし」とか言つていなか

十代と翔に至つては隠れてドローパン食べてる

お前ら成績ヤバいんだから一応聞き流してでも良いから聞くふりしどけ

明日香はよくわからないが聞き流してる様に感じるのは気のせいかな?

「ハンデスを使うのは卑怯者以外の何者でも無い。

…では丸藤 翔

「ほあい?」

ドローパン食べながら返事するなよ

「貴様あ…！」

最近リスクペクトドキュエルの授業をサボったりふざけたりする癖がつ

あおつて……！

もういい！

ではネオスに答えて「チャイムがなりました～！」…今日の授業は
終りだ！」

やっと終わったよ……

しかしあるさんじゃないな……

白鳥から毎年していると聞いたが授業に出てないのが原因なのか？

…放課後にでもタイタニア寮にでも行くか

…続く

第1-8話 ネオス「アニメ版の天よりの宝札より命削りの宝札の方が強くな?」

ネオス「相手の全力を見る暇があつたらデッキを改造しどけ」

エアーマン「個人的に天よりの宝札（アニメ版）より命削りの宝札
だな」

第1-8話 ネオス「アニメ版の天よりの宝札より命削りの宝札の方が強くな?」

視点 ク里斯

デュエルアカデミア 森

「さあ、デュエルできるか?」

「でも……手札見えちゃつたよお……」

そういうばそうちだつたな

「でもデュエルリストとじでデュエルを止めるのは「…中断して移動するぞ」へ?」

なにか視線を感じる…

月1テストの時と同じ嫌な視線だ…！

「走れるか?」

「は、はい」

私とレイは全速力で走った

だがコレで終わつては無いのは誰も知る筈も無かつた…

視点 ネオス

「デュエルアカデミア 海岸

「なんで海岸なんかに来たんスか…」

「だつて暇じやん」

「海でデュエルつてのも良いかもな！」

「アニキ…」

本当はクリスさんを探しに来たのだがどうやらいよいよだ

てか十代は海に来てデュエルなのだなあ…

「ル～」

あれ？

なんか何処かで聞いた声がするぞ？

「翔じやないか。

友達連れて会いに来たのか？」

「お、お兄さん…」

あれってカイザーか！？

なんで高速で腰振りながらギター引いてんだ！

「ハツハツハー！」

入学式以来1回も会ってないから寂しかつたぞ～！」

「なあ翔…。

あれってあのカイザーなのか？」

「…うん。

昔はかつじよかつたのにお兄さんがデュエルアカデミアに行つて夏休みで家に戻つて来た時に馬鹿になつてたんだ…」

なんじやそりや…

大方ギャグマ ガ日和でも読んで覚醒したに違いない（汗）

「それよりなにしているんスかお兄さん？」

「海でギターの練習をしていたのだが…なにか騒がしい事になりそうだな」

「えつ…？」

それついでどうこう「いじまで来れば良いか…」あ、あれは…。」

クリスさん…多分レイだな

なにから逃げてる様な気がするな

「ハハハハ！」

とつとう追いついたぞ！」

突如海岸近くの森から小学生の少年が現れる

「ちつ！』

追い付かれたか！」

「俺はサイバー流リトル級の龍虎 真だ！」

「サ、サイバー流リトル級…ってなんのお兄さん？」

「小学生クラスの子供達を中心に構成されたサイバー流使い達だ。デュエルの腕は小学生の中の上だな」

サイバー流にそんな物があつたのか…

悪影響を与えて無ければ良いが…

「早乙女 レイ！」

お前はアカデミア小等部でありながらライトロードというリスクペクトに反したカテゴリーを使った！

よつてこの俺がお前を成敗してやるぜー！」

「成敗！？」

なんでライトロードを使っちゃいけないのよ…

ていうかサイバー流だってパワー・ボンド使って1キルしてるじゃ

ない！」

「サイバー流は融合をしている！

だが貴様の裁きの龍とかいうモンスターはたった1000ポイント払うだけで全てを破壊するリスクトに反したカードだ！」

まあ確かにライフ4000で3000のダイレクトアタックはほぼ反則レベルだがライトロードは裁きがいてこそ成り立つんだから仕方ないだろう

「おーお前。

そこでなにをしてるんだい？」

「貴方はカイザー亮…！？

丁度良いぜ！

カイザー亮の目の前でお前のアンチリスクト精神を叩き潰してやるぜ！」

この餓鬼…カイザーにアピールするつもりだな

大方”サイバー流はライトロードなんていう卑怯なカテゴリーには負けません！”ってアピールして世に広めたいんだろうな

いつの間にかあの餓鬼の手にビデオカメラがあるのが証拠だ

「上等よ…

そのデュエル、待て…そのデュエルは俺がやるぜ…」あ、あの…？

じゅ、十代…？

「女の子を卑怯者呼ぼわりしてなにがリスクペクトだよー。リスクペクトの前にマナーを守れよマナーを！」

「フン！

そんな卑怯者マナーなんて必要無いんだよー。」

いや、どんな人にも最低限のマナーは必要だからな
「えーと… 関前は？」

「そ、早乙女 レイです…」

「レイか！

今から俺があの小学生を倒すから待ってろよー。」

「は、はー…！」

あれ？

「コレでもしかして元の世界の十代が言っていたレイが十代に惚れる前兆なのか？」

レイってデュエルした後、俺に惚れちまつてさあー！

まあ俺は明日香よりレイの方が好きだったから良いけどなー！（笑）

僕もレイの方が好きだよイヤツッホオオオオオオウー！

最後のはエドな

「「」のサイバー流である俺を倒すだと？」

良いだろ？」

「マナーも守れない奴には負けないぜー！」

十代と真は『テュエル』ディスクを構える

「『テュエル！』」

十代 LP4000 真 LP4000

視点 ク里斯

十代とサイバー流を名乗る小学生との『テュエル』が始まったが…

「ルルルララ
飛鳥文化の極み」

こんな時になに歌ってるんだバカイザー…

「あ、アレがあの亮様…！？」

「…ああ」

「私のイメージがあ…！」

昔はかつこよかつたのにいつの間にか馬鹿になつてた時には驚いたのが懐かしい

吹雪が見たらどんな反応をするだろ？

「俺のターン！」

ドロー！

E・HERO クレイマンを召喚！

E・HERO クレイマン

粘土でできた頑丈な体を持つE・HERO。体をはって、仲間のE・HEROを守り抜く。

クレイマンか

フォレストマンが出てからは融合素材としてしか活躍が望めなかつたHEROだな

「更にカードを一枚伏せてターンを終了するぜー！」

「俺のターン！」

ドロー！

サイバー・ドラゴンを特殊召喚！

サイバー・ドラゴン

星5／光属性／機械族／攻2100／守1600

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在していない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

サイバー・ドラゴン…

リスククトデュエルの象徴からなのがあまり好きなモンスターじゃない…！

「バトル！

サイバー・ドラゴンでクレイマンを攻撃！
エボリューション・バースト！」

サイバー・ドラゴンの口から発射した光弾がクレイマンを灰にし破壊する

「だがこの瞬間ヒーロー・シグナルを発動！」

ヒーロー・シグナル

通常罠
自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。

自分の手札またはデッキから「E・HERO」という名のついたレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する。

「自分のモンスターが破壊された時に発動可能！
手札がデッキからレベル4以下のE・HEROを特殊召喚する！
こい！フェザーマン！」

十代の目の前に人に近い鳥人が現れる

「カードを1枚セットしてターンエンド！」

「俺のターン！」

ドローー！

手札から融合を発動！

場のフェザーマンと手札のバーストレーディを融合！
現れよ！E・HERO フレイム・ウイングマン！

「出た！

アニキのヒースモンスター・ツス！」

フレイム・ウイングマンが出たか

更なる融合をするかそれとも…？

「更に手札から強欲な壺を発動！
デッキからカードを2枚ドローする！
そしてミスト・ボディを発動！」

ミスト・ボディ

装備魔法

装備モンスターは戦闘では破壊されない。

「コレならサイバー・ドラゴンを倒せるツス！」

「バトル！

フレイム・ウイングマンでサイバー・ドラゴンを攻撃！
フレイム・シユート！」

フレイム・ウイングマンは炎を身体に纏いサイバー・ドラゴンに突進する

「ミスト・ボディの効果でフレイム・ウイングマンは戦闘では破壊されないぜ！」

サイバー・ドラゴンはフレイム・ウイングマンを迎撃しようと光弾を発射するが全て弾かれ貫かれ破壊された

「フレイム・ウイングマンの効果ダメージを受けてもリラフ…」

「うわあああ…！」

真 LP4000 1900

「カードを2枚伏せてターン終了！」

「良いぞアニキ！」

「このままいければ良いがな…」

亮の言つ通りだ

認めたくは無いがサイバー流は強い…！

「俺のターン！」

ドロー！

手札からパワー・ボンドを発動！「

パワー・ボンド

通常魔法

手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

このカードによって特殊召喚したモンスターは、元々の攻撃力分だけ攻撃力がアップする。

発動ターンのエンドフェイズ時、このカードを発動したプレイヤーは、特殊召喚したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受ける。（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

「手札のサイバー・ドラゴン2体を融合しサイバー・ツイン・ドラゴンを融合召喚！」

サイバー・ツイン・ドラゴン

星8／光属性／機械族／攻2800／守2100

「サイバー・ドラゴン」 + 「サイバー・ドラゴン」

このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

「パワー・ボンドの効果でサイバー・ツイン・ドラゴンの攻撃力は2倍になる！」

サイバー・ツイン・ドラゴン 攻撃力2800 5600

「更に手札から天よりの宝札を発動！

互いは手札が6枚になるようデッキからカードをドローする！」

天よりの宝札だと？

最強のドローカードと呼ばれてるが私はそう思えないな

「天よりの宝札！？最強のドロー系アーカードだよー？」

「いや、 それでもないぞ？」

天よりの宝札は相手にもドローさせる欠点がある。
このターンに決められなかつたらピンチになる可能性が高い」

「やつなんだ……」

相手にドローさせない点なら命削りの宝札が一番強いんだがなあ…

「俺にもドローさせるのか？」

「リスクペクトデュアルは相手を尊重し敬意を払う！」

俺が天よりの宝札を使ったのは相手の全力を見たいからだー！」

全力だと？

そんな物…裏を返せば相手が全力を出すまで手を抜いているのと同じやないか…！

「そして俺はサイバー・ジラフを召喚ー！」

サイバー・ジラフ

星3／光属性／機械族／攻 300／守 800

このカードを生け贋に捧げる。

このターンのエンドフェイズまで、このカードのコントローラーへの効果によるダメージは0になる。

「このカードは生け贋に捧げる事で効果ダメージを0にするー！」

「 げえ ！」

じゃあパワー・ボンドの効果ダメージも！？』

「 その通り！

だがその前にバトルだ！

サイバー・ツインでフレイム・ウイングマンを攻撃！』

「 リバースカードオープン！

ヒーローバリア！』

ヒーローバリア

通常罠

自分フィールド上に「 E・HERO 」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を一度だけ無効にする。

「 だがサイバー・ツインは2回攻撃が可能だ！
もう一度フレイム・ウイングマンを攻撃！』

「 ヒーローバリアを発動！

フレイム・ウイングマンは破壊させないぜ！』

「 ならばサイバー・ジラフの効果発動！

このカードを生け贋に捧げエンドフェイズまで効果ダメージを0にする！

コレでターンエンド！』

「 俺のターン！

ドロー！

お前の天よりの宝札が俺にチャンスをくれたぜ！」

「なんだと！？」

まあ6枚も手札補充ができるたらチャンスも生まれるだろ？」

「カードを5枚伏せてターンを終了！」

5枚も…？

ブラフなのかそれとも全て本命か…？

「パワー・ボンドには弱点がある。
1つは皆が知っている効果ダメージだ。
もう1つはその攻撃力にあるが…わかるか？」

「お兄さん…それって？」

「見ていればわかるや」

パワー・ボンドの弱点…あれか！

「俺のターン！」

ドロー！

お前の全力が見れないのは残念だがバトルだ！
サイバー・ツインでフレイム・ウイングマンを攻撃！」

サイバー・ツインの光線がフレイム・ウイングマンに向かっていく

「お前の天よりの宝札から生まれたチャンスはこれだ！」

リバースカードオープン！

魔法の筒！」

魔法の筒

通常罷

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「こ」のカードは相手モンスターの攻撃宣言時に発動できる！

攻撃を無効にし無効にしたモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える！」

「な、なんだつて！？」

サイバー・ツインの攻撃は魔法の筒により真に向かっていき直撃する

「ば、馬鹿なあああ！！」

真 LP1900 - 3700

「ガツチャ！」

楽しいデュエルだつたぜ！」

魔法の筒による止めか…

相手の天よりの宝札が招いた勝利だな

「さあ、コレでレイから離れてもらひおつか！」

「認めない…認めないぞ！」

真が砂浜から少し大きな石ころを拾つ

「我がサイバー流に榮光あれ！」

真はそう言いながら石ころをレイに向かって投げつける

「危ねえ！」

「くつ！」

私は無意識なのか真が投げつけた石ころからレイを庇つていた

「クリスさん！」

「お前！」

負けたからって石ころ投げつけるのがサイバー流なのかよ！」

「フ、フン！」

リスクペクトデュエルをしない奴にはいづれ災いが起るぜ！

ハハハハハハ！」

そう言いながら真はその場から逃げたす様に走り去つていった

「大丈夫かクリスさん！？」

「大丈夫だ。

子供の投げた石「ひい」ときで怪我なんかしない」

少し痛い程度だが大丈夫だわ」

「「めんなさい…！」

わた…ボクのせい…！」

「悪いのはレイじゃなくてあのサイバー流だぜ」

「…やはりサイバー流は変わり始めている」

亮…？

「亮…？」

それはどうこう「飛鳥文化の極み」…聞けそうにないな

肝心な時に馬鹿になるなんて…！」

「お兄さん…あの時のお兄さんに戻つて…！」

ついして十代とサイバー流のデュエルが終わった

だが「コレがアカデミアに起じるとんでもない事件に繋がる事になるのはまだ先の話である…」

視点 ネオス

デュエルアカデミア 港

アカデミア小等部のアカデミアの見学が終わり小学生が港から帰る事になつてた

「あつちに行つても頑張れよー！」

「はーー！」

「十代様も頑張つてくださいねー！」

「じゅ、十代様！？」

あ、レイとのフラグが立つたようだな

元の世界と同じ様に十代がレイに惚れる時が来るのが楽しみだな（笑）

「じゃあ…の前に」

ん？

レイの奴、クリスさんの田の前に来たな

「…来年此処に入学しに行きますから楽しみにしてくださいねー」

「…は？」

な、なんか良く聞こえなかつたがクリスさん固まつてるんだが…な

に言ったんだレイの奴

「じゃあさよならー！」

レイは船に乗り手を振りながら皆に別れを告げたのであつた…

第1-8話 ネオス「アニメ版の天よりの宝札より命削りの宝札の方が強くな?」

ユベル『あの女…まさか来年に…?』

ドジリス『さあな。

それは2期になつてからのお楽しみつて事で』

ユベル『次回は遂にセブンスターズ編だね』

ドジリス『ノース校はどうしたかつて?

万丈目がノース校に行つてないからスルー!』

エアーマン『それで良いのかドジリス…。

まあ一応ノース校は出す。

…名前だけだが』

第1-9話 ドジリス「アニメ版が基準だからってセブンスターズの順番まで一緒に

ネオス「セブンスターズ編なのにシリアル感のなんだが（汗）」

今日はギャグ中心です（一応シリアルアスあり）

独自設定あり

第1-9話 ドジリス「アニメ版が基準だからってセブンスターズの順番まで一緒に

視点 ネオス

デュエルアカデミア 教室

「殆どのデッキに入るカウンター罠でよく使われているカードは神の宣告に盗賊の七つ道具ですー。」

「デッキを選びますーが神罰も入るノーネ！」

早速ですが皆さん

クロノスの授業が楽しいです

だつて殆どの授業がリスクトデュエルに関する物だつたり小学生でもわかるサイクロンで大嵐は防げませんなどつまらなかつたんだよね

「ではドロッ…シニヨール十代！

カウンター罠のスペルスピードを言つてみるノーネ！」

「ス、スペルスピード？

…多分3じゃなかつたつけ？」

「よろしく！」

入学当初よりはだいぶましになつてきたノーネ!』

そういうえば入学当初の十代は酷かつたな…

カオス・ソーサラーの蘇生条件を知らなかつたりスペルスピードを知らなかつたりで大変だつたよ

月1テストなんか筆記と実技の合計が141というギリギリな点だつたからレポートは書かずに済んだんだよな(ちなみに私は170点)

そういうえば関係無いけど転生者つてレッド寮に入るためにやけにカードに詳しい事に疑問を持たないのだろうか?

”あれ?『イツ試験番号1111番なのにカード詳しくね?もしかして別人?』って思わないのだろうか?

「…という訳で今日の授業はここまでなノーネ!
ちなみにシニヨール十代にシニヨールネオス、シニヨール万丈目、
シニヨール三沢、シニヨーラ明口番はこの後、校長室に来るノーネ
!」

鮫島校長が?

元の世界の十代が昔なんか言つてた様な気がするが…なんだつけ?

デュエルアカデミア 校長室

「　　「　　「　　「　　「幻魔？」　　「　　「　　「

「はー。

この学園には三幻魔と云う神のカードと同等の力を持つカードが…

話が1時間かかったらので省略

1時間も三幻魔の話なんて読者がつまらなくなるからなー

「どうわけで君達にはこの七星門の鍵を一人1個ずつ守ってほしいのです。

もつとも覚悟が無ければ断つても構いません」

…思い出した！

たしか元の世界の十代が三幻魔がどうひいてたがまさかコレの事だったのか！？

だが…

なんで七星門の鍵を守る為にチュエルするんだよ？

意味不明（笑）

てか復活させたくなかつたら鍵を溶岩に落とせば良かつたのにょ（笑）

どう考えても元の世界の十代の言つてゐ事が正しいよなあ…

『てかこの鍵手に入れたら溶岩に落としちゃ』

なに言つてゐんだエアーマン…（汗）

んな事したら話が終わるでは無いか

まあこんなメタな発言してる私もアレだがな

「よつしゃ！」

アカデミアの未来の為にもセブンスターZとかいう奴らを倒してやるぜ！」

ちょ、十代！？

いくらデュエルが好きだからって……！

「仕方ないな。

この万丈目がアカデミアの守護神となつてやるー。」

万丈目もか……！

「わかりました。

（奴の手がかりが掴めるかもしれない……）」

明日香まで……！（汗）

明日香だけは常識人だと思つてたのに！

「……ネオス君に三沢君はどうしますか？」

……沈黙が続く

もしかして……

「三沢…お前まさか…。」

「ネオスもか…。」

「どうやら考へては一緒の様だ

「「鮫島校長」」

「なんでしょうか?」

見事に言葉がシンクロする

「「鍵を溶岩に落としたら解決するのでは?」」

その後、私達は鮫島校長に「ひびく叱られた

イエロー寮 シオノの部屋

「溶岩に落とせばいいの…。」

「まああの狸だから仕方ないよ。

あの狸アカデミアに凶悪犯が来た時、デュエルで解決しようついたらいいだから」

なんて校長だ…

凶悪犯相手にデュエルで解決させるとかどんだけ鬼畜なんだ…

てかデュエルを受けた凶悪犯も凶悪犯だよな

「しかしセブンスターZとかいう組織が来るって事はアカデミアが危険に晒されるって事ですよね?」

確かに剣八の言つ通りだ

鮫島…いや、もうあんな生徒を危険に晒す奴なんて狸で良いや

なにを考えてるのか知らないがあの狸がデュエルでなんでも解決しよつとするなら此方にも考えがあるぞ…！」

「シオン先生。

私達でセブンスターZを倒しましょう」

「はあ！？」

あの狸の企みに乗るの！？

「それを逆に利用するんですよ」

私はビデオカメラをシオン先生と剣八に見せる

「ビデオカメラにセブンスターZとのデュエルを記録して全国に見せつけてやるんですよ」

「…危険な賭けだよ」

「臣も承知です」

シオン先生の言つ通りコレは危険な賭けだ

何故なら闇のデュエルをビデオカメラに記録する事自体が難しく最悪の場合、殺される可能性がある

仮に記録できたとしてもそれを全国に見せてもフィクション扱いされて信じる可能性は低いと言つてもいい

更にはアカデミアに入学者が減る可能性が高く評判が落ちて廃校になるかもしね

だがアカデミアの生徒を危険に晒す様な狸を校長のままにするのもっと危ない

：危険だがやるしかないな

「…仕方ないなあ。

その危険な賭けに乗つてあげるよー。」

「城之内兄さんも強運の持ち主だ…。

城之内兄さんの強運が僕にも備わっているのを信じてその賭けに乗るよ」

良し！

コレで同士が増えた！

私達はセブンスターズ…そして狸校長との戦いに備えるのであった

夜の海とはロマンチックである

だけど今はそんな雰囲気では無いのである

「本当に来るのか十代？」

「近くの海で蝙蝠が出現したって噂があつたんだ。
そいつがセブンスターーズの筈だぜ！」

そんな安易な予想でセブンスターーズと決めつけるのかお前は…（汗）

「それにしても来ないね」

「剣八…なんでニンニクを持っている？』

「吸血鬼対策に決まってるじゃないか！」

「その大量のニンニクのせいで此方に匂いが來てるんだよー。」

『ニンニク臭つー。』

精霊状態のHアーマンにもニンニクの匂いが伝わってるへりこだぞー。

「おい！』

なんか小さい船が来たぞ！

本當だ

しかしあんなボロ船でよくここまでこれたな
てかよく見たら大量の蝙蝠がいるんだが

「アララ…。

この私をお出迎えするなんて礼儀が良いじゃない」

「お前がセブンスターズか！」

いきなり質問が十代

「そう。

私はセブンスターズの一人、吸血鬼の力ミューーラよー。」

「「「吸血鬼！？」」「

本当に吸血鬼がセブンスターズとは…！

凄いな十代：（汗）

「…アララ！

私の好物を持つてるなんて用意が良いじゃない！」

好物つて…まさか…？

「吸血鬼がニンニクを食べたあああ…！」

…私の目の前にあり得ない光景が見えている

吸血鬼であるカミュー・ラがニンニクを美味しそうに食べているのを…

「吸血鬼でも私だけは特別でニンニクが好物なのよ」

「そそそ、そつなんですか…」

…十字架用意しとけば良かつたな

「…早速だけどモリの貴方に闇のデュエルを申し込むわ！」

カミュー・ラが指を指した先…それは

「ぼ、僕ですか…」

ニンニクの匂いが染み付いた剣ハだつた

「貴方が負けたらニンニク栽培を…私が負けたら一つだけ願いを叶えてあげるわ」

「さあ、デュエルだ！」

早つ！

剣ハデュエルディスク構えるの早つ！

そんなに叶えて欲しい願いがあるのか…？

「フフフ…ニンニク」

なんかニンニクのお陰で空気が和んだが…闇のデュエルが始まる

「「デュエル！」」

剣八 L.P 4000 カミューラ L.P 4000

「ニンニクのお礼に先攻はあげるわ」

「ど、どうも…。

「ロー..」

そりいえば剣八のデッキってどんなのだらうか？

イエロー寮にずっといたのに全然デュエルしてなかつたんだよな

「暗黒界の狂王 ブロンを召喚！」

暗黒界の狂王 ブロン星4／闇属性／悪魔族／攻1800／守 4
00

このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、自分の手札を1枚選択して捨てる事ができる。

剣八のデッキは暗黒界か！

に、似合わ…いや、似合つな（性格豹変時に限るが）

「更にカードを2枚伏せてターンを終了」

「私のターン！」

ドロー！

手札から愚かな埋葬を発動！

「デッキからゾンビマスターを墓地に送るわ！
更に手札から手札抹殺を発動！」

手札抹殺

通常魔法

お互の手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

て、手札抹殺！？

まさか暗黒界の特徴を知らないのか！？

「互いは手札のカードを全て捨ててその枚数分ドローする…
フフフ…いいカードが「この瞬間にブラウの効果発動！」…は？」

「ブラウが手札から捨てられた時、デッキからカードを一枚ドローします。

相手の効果で捨てられた場合は2枚ドローが可能になりますが」

「な、なによそれ！？」

…やっぱり暗黒界を知らない様だな

「あの…暗黒界知らないんですか？」

「1週間前に目覚めたばかりだからカードプールなんてあまり知らないわよ！」

そ、それなら仕方ないよな…

てか1週間前に目覚めさせた吸血鬼をセブンスターズにする意味あつたのか…？

「ちなみにブラウは2枚あつたので合計4枚ドローしますね」

「ちい…！」

ならばゾンビ・マスターを召喚…」

ゾンビ・マスター

星4／闇属性／アンデット族／攻1800／守 0

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、手札のモンスターカード1枚を墓地に送る事で、自分または相手の墓地に存在するレベル4以下のアンデット族モンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに一度しか使用できない。

「更にゾンビ・マスターの効果発動！

手札のモンスター1体をコストにレベル4以下のアンデット族1体を蘇生させる！

いでよ！ゾンビ・マスター！」

またゾンビ・マスターか…！

「更にゾンビ・マスターの効果発動！

手札のモンスターをコストに闇竜の黒騎士を特殊召喚！」

闇竜の黒騎士

星4／光属性／アンデット族／攻1900／守1200

1ターンに一度、相手の墓地から戦闘によって破壊されたレベル4以下のアンデット族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「バトルよ！」

全モンスターでダイレクトアタック！」

「不味いぜ！」

このままじゃあ…！「リバースカードオープン！マインドクラッシュユー！」マ、マインドクラッシュユー？」「

マインドクラッシュ

通常罷

カード名を一つ宣言して発動する。

宣言したカードが相手の手札にある場合、相手はそのカードを全て墓地へ捨てる。

宣言したカードが相手の手札に無い場合、自分は手札をランダムに1枚捨てる。

「マインドクラッシュは相手の手札のカードがなんなのか宣言して当たつた場合は宣言したカードを全て捨てさせ、外れた場合は自分の手札をランダムに選択して捨てます」

「そんなカードじゃ負けちまうぜー！」

慌てるな十代

剣八はマインドクラッシュでアイツを出すつもりだろうからな

「宣言するカードはワイトです

「無いわよそんなカード……！」

「じゃあ僕の手札をランダムに選択して捨てますね」

ちなみにこの効果はディスクが決めてくれる

不正行為防止の為なんとか

「良し。

捨てられた「ゴルド」の効果を発動し「ゴルド」を…特殊召喚するぜえええ
！！！」

暗黒界の武神 「ゴルド」

星5／闇属性／悪魔族／攻2300／守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊する事ができる。

「」、「攻击力2300が生け贋無しで！？」

「暗黒界はなあ…ゾンビみたいにしつこく蘇るのが特徴なんだよおおお！」

け、剣八様モードだ…とかゴルドとか使つたら性格変わるんだな

「くつ…！」

ターンを終了するわ」

「俺のターン！」

ドロー！

良いのが引けなかつたがまあいい…バトルだ！
ゴルドでゾンビ・マスターを攻撃！

「くう！」

カミューラ LP 4000 3500

「ターンを終了するぜ！」

「調子に乗るんじゃなよ！
私のターン！」

ドロー！

闇竜の黒騎士を生け贋に龍骨鬼を召喚！

龍骨鬼

星6／闇属性／アンデット族／攻2400／守2000
このカードと戦闘を行つたモンスターが戦士族・魔法使い族の場合、
ダメージステップ終了時にそのモンスターを破壊する。

「龍骨鬼か…不味いな」

「バトル！

龍骨鬼でゴルドを攻撃！

「ちつ！」

剣八 LP4000 3900

「残り2体でダイレクトアタック！」

「ぐわああーー！」

剣八 LP3900 200

「剣八！」

不味い…剣八の顔色が青くなっていく…！

闇のデュエルの影響か！

「ターンを終了するわ。

エースモンスターも失ってやる事が無くなつたんじやない？」

「なに言つてんだアマア…！」

「ゴルドはエースでもなんでもねえんだよ！」

「な、なんですって！？」

「俺…ゴルドが切札かと思つてたぜ」

「ゴルドが切札では無い…まさか暗黒界を暴走させたあのモンスターが切札なのか！？」

「俺のターン！」

ドローー！

来たぜえ！

天使の施しを発動！

デッキから3枚ドローし2枚捨てる！

天使の施しなら捨てる効果はコストでは無いから暗黒界とは相性がいい！

「更に捨てたグラファ 2体の効果発動！
コイツがカードの効果で捨てられた時、相手フィールド上のカード
1枚を破壊する！」

「なあ！？」

地面からグラファらしき者の手が現れ龍骨鬼と闇竜の黒騎士を呑み込んでもいた

「更に命削りの宝札を発動！
デッキからカードを5枚ドローする！
そして手札から手札抹殺を発動！」

「手札抹殺つて事は… またゴルド！？」

「ゴルドだけじゃねえ！
ベージもだ！」

手札抹殺で捨てられたゴルドとベージを特殊召喚！

星4／闇属性／魔族／攻1600／守1300

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

「だけどソイツらだけでは私のライフを〇にする事は不可能よー。」

「だったらゾンビの如く蘇るまでだ！」

グラファの効果発動！

グラファ以外の暗黒界を手札に戻す事で墓地から特殊召喚する！

「ゴルドとベージを戻してグラファ2体を特殊召喚！」「暗黒界の龍神

グラファ

星8／闇属性／魔族／攻2700／守1800

このカードは「暗黒界の龍神 グラファ」以外の自分フィールド上に表側表示で存在する「暗黒界」と名のついたモンスター1体を手札に戻し、墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手の手札をランダムに1枚確認する。

確認したカードがモンスターだった場合、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「な、なんて蘇生能力なの……！」

「バトルだ！」

グラファAでゾンビ・マスターを、グラファBでダイレクトアタックだ！」

「ああああああーー！」

カミュー ラ LP3500 2600 -100

「…ありがとうございました」

も、戻つたな…本当にありがとうございました

その後…

「あの…なんで着いてきたんですか?」

「食べる物が無いからしばらく世話になるわよ。
朝は二ソニク、昼も二ソニク、夜も二ソニクよ…」

「ネオス…助け「シオン先生」撮れました?」…はあ

カミューラがイエロー寮に居候する事になつた

勿論セブンスターズに関する情報を条件にだがな

そしてビデオカメラに記録はできた…がカミューラが居候した為に
カミューラを証人にするという事でビデオカメラは保留されたとか…

ちなみに…

「俺の願いはなあ…糞兄貴が俺から借りた借金を返済してほしいん
だよおおおお!!!!」

と隣で叫び声が聞こえた…

怖いです（汗）

第1-9話 ドジリス「アニメ版が基準だからってセブンスターズの順番まで一緒に

ユベル『あれ？

カミュー「うとヨハンの声って似てるね？』

ドジリス『まあ中の人一緒だしな。
さて次回は眞氣になる奴が登場！』

ユベル『前後編でお送りしま～す』

第20話　????「破壊こそ最大の癒しだつちょ！」（笑）」　ネオス「誰だよ

????「僕ちんの名前は「ネタバレするんじゃない！」によ〜ん
（泣）」

ネオス「では????がネタバレする前に本編へどうぞ！」

第20話　????「破壊こそ最大の癒しだつちょ！（笑）」　ネオス「誰だよ

視点　ネオス

イエロー寮 剣八の部屋

「タイタンにアムナエル、黒蠍に私、アビドスそしてダークネス…コレで全部よ」

私はカミューラからセブンスターズの情報を聞き出している

もつともカミューラは1週間前に目覚めたばかりなのであまり知らないようだが

「まあセブンなだけに7人か…「そういえば1人セブンスターズがいたわ」まじで？」

「ええ。

まあ1人というよりは2人で1人みたいな感じだつたわ。
たしか…1人ダークネスでもう1人は…あまりわからないけど性格とかは狂気その者だつたわ」

つまりダークネスとその狂気その者の奴が2人で1人というわけか…
ていうか二三二ク臭くて耐えきれん…！

「カミューラ…！」

ニンニク何個食べたんだ…？」

「ざつと30個くらいかしら？」

「まじ…か」

私はニンニクの匂いに耐えきれず気絶してしまつのであつた…

視点 ク里斯

タイタニア寮 クリストの部屋

「”アカデミアの火山で待っています”…どういう事だ？」

部屋の机に手紙置かれていた

だがいつ誰が手紙を置いたんだ？

私はそんな疑問を考えながら火山に向かつて行つた

視点 明日香

ブルー女子寮 明日香の部屋

「セブンスターズからしたらまず弱い相手から狙う筈…」

セブンスターズの事を考えながらデッキを組んでいた

いや～、ホント無様だね～！

くつ…！

思い出したく無い物を思い出しちゃったじゃない…！

「融合に機械天使の儀式、やつぱりドゥーブルパッセはいるわね。
それから『ドゥーブルパッセ？3年前みたいに間抜けな負け方する
から止めた方がいいんじゃないのぉ～？』なにが間抜け…よ…！？」

嘘…？

なんでアイツが…！？

『お一人様』招待～！』

私は光に包まれ氣を失つていった…

視点 十代

「こ……此処は？」

俺はたしかセブンスターズ戦に備えてテッキの調整をしててその時
いきなり光に包まれて……って今考へても仕方ねえや

「よつこや……我がデュエル場へ」

「誰だ！」

俺の目の前に黒い仮面を付けた男がいた

「我が名はダークネス。

セブンスターズの『はいはい呼んだ？』……勝手に喋るな

な、なんだ？

1人で勝手に喋り始めたぞ？

『一応自己紹介しどうか？

僕ちんジヴァって言つんだけどさあ～！』

うげえ！？

仮面の男の耳から道化師みたいなのが出でてきた！

『驚いた？

道化師は驚かすのが仕事だからね！
まあ今の僕さんは破壊の神だけど』

破壊の神！？

それって三幻魔よりヤバいんじゃないのか！？

「ジヴァ…！」

兄さんの仇…討たせてもらうわ…！」

明日香…仇つて…？

『なに、まだ覚えてたのぉ？
まあいいけどねえ～』

両者、デュエルディスクを構える

「明日香！

危険だから俺も「貴様はそこで見物しているがいい」ちつ…！」

地面から出た炎の壁で近づけねえ…！

「『デュエル…！』」

明日香 LP4000 ジヴァ LP4000

『あつ、先攻ビツカ～』

「私を嘗めてるの…？」

『そりゃ間抜けな負け方した奴なんか余裕だからねえ～！』

「あ～…あの明日香に余裕出しすぎじゃないか？」

「だけど間抜けな負け方つて…？」

「なら先攻を取らせたのを後悔させてあげるわ！」

ドローー！

手札から融合を発動！

「エトワール・サイバーとブレード・スケーターを融合しサイバー・ブレイダーを融合召喚！」

サイバー・ブレイダー

融合モンスター

星7／地属性／戦士族／攻2100／守 800

「エトワール・サイバー」 + 「ブレード・スケーター」

このモンスターの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

相手のコントロールするモンスターが1体のみの場合、このカードは戦闘によつては破壊されない。

相手のコントロールするモンスターが2体のみの場合、このカードの攻撃力は倍になる。

相手のコントロールするモンスターが3体のみの場合、このカードは相手の魔法・罠・効果モンスターの効果を無効にする。

明日香のエースモンスターだ！

コイツはかなり強いぜ！

「更に強欲な壺を発動！」

デッキからカードを2枚ドローする！

そしてカードを1枚伏せてターンを終了するわ！」

『はいはい凄いね～。

というわけで僕さんのターン！

ドロー！』

アイツ…あの展開力でびっくりしないのかよ…？

『神の居城 - ヴァルハラを発動！』

神の居城 - ヴァルハラ

永続魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札から天使族モンスター1体を特殊召喚できる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「ヴァルハラってなんだ？」

『ヴァルハラを知らない？

ヴァルハラは僕さんのフィールドにモンスターがない時、手札から天使族モンスターを特殊召喚できるんだつちょ！』

「手札から天使族つて…まさか！」

『わかつたかなあ～？

手札からThe splendid VENUSを特殊召喚！』

The splendid VENUS

星8／光属性／天使族／攻2800／守2400

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する天使族以外の全てのモンスターの攻撃力と守備力は500ポイントダウンする。

また、自分がコントロールする魔法・罠カードの発動と効果は無効化されない。

「いきなり最上級モンスターですって！？」

『まだまだあ！

The splendid VENUSの効果は天使族以外のモンスターの攻守両方を500ダウンしちゃうよん！』

サイバー・ブレイダー 攻撃力2100	1600	守備力800
300		

「バトル！

The splendid VENUSでサイバー・ブレイダーを攻撃だつちょ！』

The splendid VENUSの杖から放たれた閃光がサイバー・ブレイダーを焼くが…

「サイバー・ブレイダーの効果発動！

サイバー・ブレイダーは相手モンスターが1体のみの時、戦闘では破壊されないわ！」

「じゃあ戦闘ダメージよろしく～」

「くつ……」

明日香 LP4000 2800

先攻を取られちまたけど明日香なら大丈夫だよな…？

『カードを一枚伏せてターンを終了』

「私のターン！」

ドロー！

手札からサイクロンを発動！
ヴァルハラを破壊するわ！

更に地碎きを発動！

The splendid VENUS 1体のみだから対象関係無
しに破壊するわ！

サイバー・ブレイダー 攻撃力1600 2100 守備力LP3
00 800

コレでThe splendid VENUSを倒したぜ！

「明日香ー！」

この調子で頑張れよー！」

「（十代）！」

そりよー！あんな奴に負けるわけにはいかないのよー！
サイバー・チュチュを召喚！」

明日香の皿の前にピンク色のタイツと髪が特徴のバレリーナが現れる

「バトル！』

『サイバー・ブレイダーでダイレクトアタック！』

『じゃあセットしていたリビング・デッキの呼び声を発動！』

The splendid VENUSを「リバースカードオープ
ン！砂塵の大竜巻！」によ？』

砂塵の大竜巻

通常罷

相手フィールド上に存在する魔法・罷カード1枚を選択して破壊す
る。

その後、自分の手札から魔法または罷カード1枚をセットする事が
できる。

「リビングデッキの呼び声を破壊するわ！』

上手い！

これでThe splendid VENUSを蘇生できなくせ
たぞ！

『サイバー・ブレイダーでダイレクトアタック！』

『あうん！』

ジヴァ L.P 4000 1900

『つたく痛いなもお～！』

相変わらず余裕だな…

なにがあるのか？

「ダイレクトアタックをされたから手札からゴーズを特殊召喚！」

「ゴーズ！？」

ゴーズがいたからダイレクトアタックを受けても余裕だったのか！

『更に戦闘によるダメージだからカイエントークンを特殊召喚！』

カイエントークン 攻撃力0 2100 守備力0 2100

「だけど相手モンスターが2体のみだからサイバー・ブレイダーの攻撃力は倍になるわ！」

サイバー・ブレイダー 攻撃力2100 4200

「コレでターンを終了するわ！」

『僕さんのターン！』

ドロー！

あのさあ～？

その神束何時まで使ってんの？』

「紙束ですって…！」

「お前！」

明日香が一生懸命作つたデッキを紙束なんて呼ぶな！」

『つたく良い子ちゃんぶりやがつて…！

だつたら教えてやるよ…！

コイツは学校で教えてもらつた事を真似て自分の兄を失つたんだよ』

兄を失つた…！？

にしてもジヴァの声がドスの聞いた声になりやがつた

「明日香…！」

それつて「消したのは貴方じゃない！」いや、あの『リスペクトデュエルだつけ？折角パートナーのカウンター罠を破壊してまでリスクペクトに拘らなければ負けてなかつたのにねえー！』あの時は…！』
黙目だ…聞いてないし』

「…黙つて聞いた方がいい」

…その方が良いな

『この子学校で習つた事は全て正しいと思ってたんだよ。
習つてたのはたしかリスペクトデュエルっていうのだつけ？
パートナーのカウンター罠を破壊したのはリスペクトに反するから
破壊したんだつてさ～』

「…」

『そ～んでもつて僕ちんの切札が召喚されて負けちゃつて兄が闇に

消されたってわけなんだぞ……感想は？』

俺の目の前にマイクが現れる

『…に感想を語りつてのか…！

「ふざけるな！

悪いのは明日香じゃなくて明日香の呪さんを消したお前じゃないか
！』

『あつ、やつぱつやつぱつと思つた！

…だが…このカスのせいでのパートナーとの絆が破壊されのだよ』

「…わい」

『それでそのパートナーは学校からはリストラに反する戦術をするから学校中…つまり生徒だけでなく教師からも嫌われて唯一その戦術を受け入れてくれたソイツの兄も、「ひむかーー！」ヒヒヒヒ…怒つた怒つた』

「なんで思い出したく無い事を思い出させるのよ…

あの時は…皆から嫌われたくなつただけなのよおおお…』

あの明日香が取り乱してゐる…！？

『嫌われたくなかった結果がこれだよ…

…まあ、それも今日で最後となる』

『……』

『無言が…まあいい。

では今から特別ショーキャンペーンを開催するじょー！

ドロー！

カイエントークンを生け贋に光神テテュスを召喚！』

光神テテュス

星5／光属性／天使族／攻2400／守1800
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分がカードをドローした時、そのカードが天使族モンスターだつた場合、そのカードを相手に見せる事で自分はカードをもう一枚ドローする事ができる。

『テテュスの効果はドローしたカードが天使族だつたら相手に見せて更にドローができる！
もしもテテュスの効果でドローしたカードが天使族だつたらまたドローが可能になるんだっちょ…』

「な、なんだよその反則ストレス効果！？」

下手すれば強欲な壺を遙かに凌ぐドロー系モンスターになるじゃないか！

『という事で強欲な壺を発動！

デッキからカードを2枚ドロー！

大天使クリスティアだよ～ん！

更にドロー！

堕天使アスマディウス！』

その後更にドローが続き…

『ドロー！

・天使族じゃないや』

ジヴァがドローしたカードの数は……10枚

『まあ良いや！

手札から最終戦争を発動！』

「「や、最終戦争！？」「

最終戦争

通常魔法

手札を5枚捨てて発動する。

フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

『ハツハー！

破壊破壊破壊破壊だああああ……』

全てのフィールドが巨大な爆風に呑み込まれ……全てが破壊される

「そ、そんな……！？」

『……破壊は終焉を越えて新たなる破壊が始まる……』

「新たなる破壊……！」

『そうだ。

道化師という私の仮の姿から真の姿へと変わる時！
手札から破壊の神ジヴァを特殊召喚する！』

破壊の神ジヴァ

星12／神属性／幻神獣族／攻4000／守4000
このカードは通常召喚できない。

フィールド上のカードを2枚以上破壊する効果でフィールド上のカードが全て破壊された場合のみ手札から特殊召喚する事ができる。自分スタンバイフェイズ時にこのカード以外のフィールド上の全てのカードを破壊する事ができる。

このカードの効果発動時、このカード以外のモンスターの効果・魔法・罠は全て無効され相手はモンスターの効果・魔法・罠を発動する事ができない。

このカードは戦闘によって相手ライフを0にする事ができない。

ジヴァは道化師の姿から堕天使の姿へと変わった

『バトルだ…！

破壊の力を受けよ…』

ジヴァは一回転し巨大な翼で明日香を貫いた

「きやああああ…！」

明日香 LP2800 1

「う、ライフが残った！？」

『私は破壊の神だ…！

殺しはできないのだよ…』

だ、だが奴の効果のお陰で明日香は…

「……」

明日香は糸が切れた人形のように倒れた

「あ、明日香！」

『奴の身体が耐えきらなかつたか…』

「あ、明日香を… よくも明日香を…」

コイツだけは… 絶対に許さない！

『勘違いをするでない。

私は殺しはできない。

つまりソイツはまだ息がある』

「嘘をつくな…」

『偽りではない。

ソイツは生きている』

…確かに息がある

『だがソイツにそれ以上のデュエルは無理なようだ』

ジヴァは道化師の姿に戻りダークネスの耳の中に入つていった

『じゃあ後はダークネスよろしく～！

あと特別ゲストがもうすぐ来るよ～ん！』

「…最後だけ何時ものふざけた口調に戻つたか」

そう言いつつダークネスはデュエルディスクを構える

「さあこい。

私は貴様にデュエルを申し込む

「…望む所だ！」

視点 ク里斯

「やつと頂上についた…！」

相変わらず熱いな此処は…

…吹雪が消えたのも此処だつたな

「さあこい。

私は貴様にデュエルを申し込む

…この声！

まさか…！

「…望む所だ！」

「デュエ「待て！」ル？」

「吹雪…吹雪か！」

「…誰だ？」

覚えていない…のか？

「私はクリス・ラーディッシュ！
天上院 吹雪の幼馴染だ！」

… 続く

第20話　????「破壊こそ最大の癒しだつちょ！（笑）」　ネオス「誰だよ

破壊の神 ジヴァ

星12／神属性／幻神獣族／攻4000／守4000

このカードは通常召喚できない。

フィールド上のカードを2枚以上破壊する効果でフィールド上のカードが全て破壊された場合のみ手札から特殊召喚する事ができる。自分スタンバイフェイズ時にこのカード以外のフィールド上の全てのカードを破壊する事ができる。

このカードの効果発動時、このカード以外のモンスターの効果・魔法・罠は全て無効され相手はモンスターの効果・魔法・罠を発動する事ができない。

このカードは戦闘によって相手ライフを0にする事ができない。

ユベル『破壊の神ねえ…強いじゃないか』

ドジリス『ブラロや裁きと違うのは効果を無効化されないと疑似的なスキルドレインを発動する事だな。破壊耐性持ちのスカーレット涙田だぞ』

ユベル『一応スタダで無効は…無理だね。発動を無効化するし』

ドジリス『次回はVSダークネス戦だ！』

ユベル『楽しみに待つててね』

第21話 ネオス「真のHEROとなれど悲しませぬ、絶望に落ちる前に笑ひな

ネオス「HEROは遅れて来る者…。

そんな言葉を聞いたHEROはHERO失格だ」

「アーマン「早めに来て」」
「HEROだ！」

一部修正しました

第21話 ネオス「真のHEROとは誰も悲しませず、絶望に落ちる前に救つ物

視点 ク里斯

デュエルアカデミア 火山

「私はクリス・ラーディッシュ！
天上院 吹雪の幼馴染だ！」

私の目の前には大きくはなつているが間違いなく吹雪だ

「…私の名はダークネス。
セブンスターズの一人だ」

セブンスターズ？

…なんだそれは？

『手紙を置いてここまで来させたけど遅かつたか。』
…つまらん！』

（やはりお前がジヴァ…！）

私は遊城 十代を狙っていたのに余計な者が混じつた原因は…！）

『その割りには空氣読んでくれてたじゃ～ん』

なんだ？

なにかと話してゐる様に見えるが全然聞こえない…

「…私は鍵を持つ者としかデュエルをしない。
だから貴様に用は無い」

鍵なら…

「寮の鍵なら「七星門の鍵だ！」…見事なツツ「ミミだ！」

「…やつも言つたが私は鍵を持つ者としかデュエルをしない。
故に私は「鍵ならやるぜ」…なに？」

「ただし…クリスさんに勝つたらな…」

「イツ…私にダークネスデュエルをさせる気か…！

…ありがとう

「…良いだろ？。

さあ、デュエルディスクを構える」

「…お前にだけは絶対に負けん！」

「「デュエル…！」

クリス LP4000 ダークネス LP4000

「先攻は頂ぐ。

ドロー。

黒竜の雛を召喚」

黒竜の雛

星1／闇属性／ドラゴン族／攻 800／守 500
自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送つて
発動できる。

手札から「真紅眼の黒竜」1体を特殊召喚する。

「黒竜の雛…？」

たしか伝説のレアカードの…

「黒竜の雛の効果発動。

このカードを墓地に送り、手札から真紅眼の黒竜を特殊召喚する」

黒竜の雛の全身が黒く光だし大きくなつていく

黒き光が消えて雛から巨大な黒竜へと成長した

真紅眼の黒竜

星7／闇属性／ドラゴン族／攻2400／守2000
真紅の眼を持つ黒竜。

怒りの黒き炎はその眼に映る者全てを焼き飛ばす。

「レッドアイズだつて！？」

そうか…！

たしか黒竜の雛はレッドアイズシリーズのサポートモンスター！

伝説のレアカードだが攻撃力の低さが災いして帝シリーズの影に隠れてしまつたレッドアイズの強化の為に開発されたカード

眞母さんが言つてたが…多分まだレッドアイズシリーズがある筈だ

「更に手札から苦渋の選択を発動。

私が選ぶのはこのカードだ」

真紅眼の黒竜 × 2

真紅眼の飛竜 × 3

全部レッドアイズシリーズか…

どんな効果かわからないカードを選ぶのは危険だが真紅眼の飛竜とかいうモンスターが墓地で効果が発動するモンスターの可能性もある

だがどのみち真紅眼の飛竜は墓地に送られるからこゝは真紅眼の黒竜を選ぶか

「私は真紅眼の黒竜を選択する」

「では真紅眼の黒竜を手札に加え残りを墓地に送る。
カードを1枚伏せてターンを終了する」

「私のターン！」

ドローー！」

最上級モンスターとしては攻撃力が低いがいきなり出でてくると少し厄介だな…！

だが除去なら可能だ！

「X・セイバー エアベルンを召喚！」

クリスの田の前に凶暴な野獣戦士が現れる

「更にセイバー・スラッシュを発動！
このカードは自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するX・セイバーの数だけ表側表示で存在するカードを破壊する！
消え去れ、レッドアイズ！」

エアベルンが真紅眼の黒竜の田の前にせまり真紅眼の黒竜の首を切り裂いた

「レッドアイズを破壊したか」

「やつたぜ！

コレで伝説のモンスターが破壊された！」

「バトル！

エアベルンでダイレクトアタック！」

「そうはさせん。

リバースカードオープン。リビングデッジの呼び声を発動する。
真紅眼の黒竜を蘇生するがバトルを続けるか？」「

「… 中断する」

レッドアイズが蘇生されたか…！」

「カードを2枚セットしてターンを終了する」

「私のターン。

ドロー。

手札から黒炎弾を発動する

黒炎弾

通常魔法

自分フィールド上の「真紅眼の黒竜」1体を選択して発動する。
選択した「真紅眼の黒竜」の元々の攻撃力分のダメージを相手ライ
フに与える。

このカードを発動するターン「真紅眼の黒竜」は攻撃できない。

「(1)のカードは真紅眼の黒竜が存在する時、真紅眼の黒竜1体を選
択して発動する事ができる。

相手プレイヤーに真紅眼の黒竜の元々の攻撃力分のダメージを与え
る」

真紅眼の黒竜の元々の攻撃力は… 2400！

「漆黒の炎を味わうが良い」

真紅眼の黒竜の口から吐いた炎がクリスに直撃する

「ハハ……！」

クリス LP4000 1600

あ、熱い……！

ソリッヂビージョンじゃないのか……！？

「感じているな。

このテュエルは闇のテュエルだ。

闇のテュエルで発生するダメージは実際に受けれる

なんだと……！？

「ダメージを受けるといつ事はお前も……？」

「やうだ。

最もダメージを受けるのは器の方だがな」

「そんな……！」

もしも私が奴を攻撃した吹雪が……！

一体どうすれば……！

クリスが動搖している時、一つの光が十代から離れイエロー寮に向かって行っていた……

視点 エアーマン

イエロー寮 ネオスの部屋

ネオスが剣八の部屋で氣絶し火山でクリス達が闇のデュエルをして
いる頃…

『全く…ニンニクの匂いが此処まで来ているではないか』

カミュー ラめ…

いくらニンニクが好きだからってコレは無いだろ？

『クリクリ～！』

…なんか声が聞こえたが『クリクリ～！（怒）』ハネクリボーか

小さいからなかなか気がつかなかつた上にクリボーの方が知名度高
いし…

『クリ～クリクリ～！』

『…なるほど』

読者の皆は「存知だろうがハネクリボーはクリクリとしか言わない

…だから適当に”なるほど”としか言えんのだ！（汗）

『…闇の「テコヘルの氣配？』

私の直感なのか何処かで闇の「テコヘルの氣配を察知した

『クリー！』

ハネクリボーガエアーマンを火山のある方向に引っ張る

『…もしかして火山に行けど？』

『クリー！』

そんなに二ヶ『ココ』しても何もやうんぞ？

…まあ闇の「テュエル」という事はセブンスターーズの可能性もあるしネ
オスの為に偵察として行くかな…

『デュエルアカ『ミア 火山

…熱いわあああ！！

熱いの苦手なんだよなあ…

「どうすれば…！」

あれはたしかネオスが大好きなクリスさんではないか

それにあの仮面の男は…ダークネス！

昔私が色々な世界の十代のデッキに入れられていた時に戦つたセブンスターーズの1人！

読者の皆の中には知らない人もいるだろうが全てのカードにはデュエルモンスターズの精霊がいる…というよりカードは精霊界から人間界に繋がる電車みたいな物である

…つまり全てのエアーマンのカード＝私である

だからあらゆる世界の十代が召喚したら現れ別の世界の十代が召喚したら現れるの繰り返しで過労し死にかけていたのだ

ちなみにネオスは分身を作つてサボつてた時があつた（すぐにバレたけど）

てかそんな事よりどんな状況なのだ？

「デュエルを続けるぞ。

黒炎弾が発動されたターン、真紅眼の黒竜は攻撃する事ができない」

「…そうか」

…安心しているがなにか迷つている様にも感じるな

「だが…進化させれば問題無い」

「なんだと…！？」

真紅眼の黒竜の進化… アイツか！

「手札から強欲な壺を発動。
デッキからカードを2枚ドローする。

そして真紅眼の黒竜を生け贋に真紅眼の闇竜を特殊召喚する」

真紅眼の黒竜の腕が翼へと変わっていく

真紅眼の黒竜が真紅眼の闇竜に進化した

真紅眼の闇竜

星9／闇属性／ドラゴン族／攻2400／守2000

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「真紅眼の黒竜」1体をリリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき300ポイントアップする。

やはり真紅眼の闇竜か

「このカードは墓地に存在するドラゴン族モンスター1体につき攻撃力が300ポイントアップする」

真紅眼の闇竜 攻撃力2400 4200

「攻撃力4200…！」

クリスさんのライフは1600か…！

「」のままだと負けるぞ！

「リバースカードオープン！威嚇する咆哮！」

エアベルンが放つた咆哮が真紅眼の闇竜を怯ませた

「…ターンを終了する」

「私のターン！」

ドロー！

（吹雪を傷つける訳にはいかない…だけど）

エアベルンを守備表示に変更してターンを終了する…。

「私のターン。

ドロー。

真紅眼の闇竜でエアベルンを攻撃

真紅眼の闇竜の炎がエアベルンを焼きつくした

「ターンを終了する」

「私のターン！」

ドロー！

私は「恐れているのだろう？」「…なんだと？」

「貴様はこの器が傷つくるのを恐れている。

私は心がわかる」

「なにを言つて「器を傷つけたくないなら貴様の身体と交換するのはどうだ?」なに…!？」

身体の交換!?

あんな事やこんな事を…じゃなくて器の入れ替えか

「身体を入れ替えれば大事な器は傷つかなくてすむが…どうする?」

「…わか「駄目だ!」…?」

十代…?

「確かにその取引が成立すればダークネスに取りつかれてるクリスさん的大事な人は助かる…!」

だけどクリスさん自身が取りつかれたらなんの意味も無いじゃないか!」

「…確かにそうだ。」

だが吹雪が傷つくのはもつと嫌だ!

私を孤独から解放してくれた吹雪を傷つけるのは絶対に嫌だ!」

孤独：か

私は皆からHERO必須カードと呼ばれ、デュエリストからもHEROからも親しまれてきた

だが召喚された後の私はただの融合素材扱いされ本当の友と呼べる者はいなくて孤独だつた

…ネオスと出会つまでは

ネオスとは同じ過労死HEROだったから気が合つてたのかかもしれない

ネオスが召喚された後の私を単なる融合素材では無く共に戦うHERO…戦友として見ててくれてたからかもしれない

私としては真のHEROとは本当に困つてたり悲しみや絶望にうちひしがれる前に笑顔にするのが本当のHEROなのだと私は思うぞ？

…そうだ

私が今やれる事は一つ！

「交換しないなら…死ね」

ダークネスは真紅眼の闇竜に命令しクリスに向けて漆黒の炎を放つ

「…わらばだ」

クリスは漆黒の炎にへと包まれていった…

視点 ク里斯

「…熱くない？」

私は炎に焼かれた筈…

よく見ると私の周りに風ができるていて風が炎を弾いていた

『くつ…！

やはり攻撃力4200はキツいな…』

「…誰だ！？」

声はするが誰なのかわからない！

十代…いや、ダークネスでもない！

『君には私が見えないだろう。
だが君…いや、彼を守る事はできる。
だから…ダークネスを攻撃するんだ！』

「だが…そしたら吹雪が『大丈夫だ！私を信じろ…』もし吹雪が
傷ついたら許さないからな！」

『…わかつた！』

私を包んでいた風が治まり私の前にはダークネスがいた

「生きているだと…？」

ならばもう一度「テュエルを再開する」なに…？

「デュエルを再開すると言つた！
貴様を倒し吹雪を救う！」

「器が傷つくのだぞ？」

「…傷つかない！絶対に！」

「ならばそれを証明してみせよ！
もしもこのターンで決めなければ貴様を殺す！」

このターンで決着を着けろだと…？

…上等だ！

「良いだろう！

手札から強欲な壺を発動！

デッキからカードを2枚ドローする…

コレは…昔吹雪と初めてタッグデュエル大会に出た時に優勝して貰
ったカードじゃないか…！

今まで3年間引いた事の無いカードだったのに…

このカードを使えば勝てる！

「手札から苦渋の選択を発動！
この5枚を選択しろ！」

レスキュー キャット

X - セイバー エアベルン × 2

XX - セイバー ガトムズ×2

「レスキュー・キャットを手札に加えたいのだろうが甘いぞ？
私はガトムズを選択する」

「ではガトムズ手札に加えそれ以外を墓地に送る」

正直レスキュー・キャットは墓地に送りたかったからレスキュー・キャット以外ならなんでもいい！

「手札から死者蘇生を発動！
墓地からレスキュー・キャットを特殊召喚！」

「なに…！？」

死者蘇生をレスキュー・キャットに使用する為に…！」

「それだけじゃないぞ？
レスキュー・キャットの効果発動！」

このカードを生け贋にデッキからレベル3以下の獣族を2体特殊召喚する！

「こい！ダークソウル達！」

クリスの目の前にダークソウルが現れる

「だがそれだけでは私はおろか真紅眼の闇竜は倒せんぞ？」

「倒せるさ…このカードを使えば！
だがその前に命削りの宝札を発動！
手札が5枚になるようにデッキからカードをドローする！
更にX セイバーがフィールドに2体存在するのでXX - セイバー

「フォルトロールを特殊召喚！」

そしてフォルトロールとダークソウル2体を生け贋に……！」

「3体を生け贋だと……！？」

「どんなモンスターが来るんだ！？」

「神獣王バルバロスを召喚！」

クリスの目の前に巨大な獣人の獅子王が現れる

「神獣王バルバロス……だと！？」

「神獣王バルバロスは生け贋無しで召喚できるモンスター。主にスキルドレインを使うデッキでのアタッカーが有名なモンスターだ。

……だが3体生け贋という困難な召喚を達成した者にのみ真の力を貸してくれる！

神獣王バルバロスの効果発動！

神獣王バルバロスの持つ槍からジヴィアが使った最終戦争をも超える光線を地面から放ち火柱を立ち上がらせた

真紅眼の闇竜は火柱に耐えきれず破壊された

「真紅眼の闇竜が……破壊されただと……！？」

「神獣王バルバロスの効果は3体を生け贋に捧げ召喚された場合、相手フィールド上のカードを全て破壊する！」

「なに！？」

だが忘れて無いだろうな！

このターンで決めなかつたら貴様は…「墓地のガトムズとエアベルンを除外してデスクカリバーを特殊召喚する！」なん……だと……！」

クリスの目の前に大剣を軽々しく持ち鎧を着けた巨大な魔神が現れる

「バトル！

デスクカリバーでダイレクトアタック！」

デスクカリバーの大剣が爆炎を纏いダークネスに大剣を向けて豪快に切つた

「ぐわあああ！！」

ダークネス LP 4 0 0 0 4 0 0

『この程度…！』

ダークネスの身体に傷はつかなかつた

エアーマンがダメージを自身に移したからだ

「神獣王バルバロスで止めだ！」

トルネード・シェイパー！！」

バルバロスの持つ槍から竜巻が発生する

バルバロスは竜巻ごと槍を回転させダークネスを貫いた

「ぬおおおおお…！」

ダークネス LP400 - 2600

『フフ…ハハハ…！

やつたぜネオス…！

悲しませずに笑顔で終わらせそつだ…！』

ダークネスから仮面が外れダークネス…もとい天上院 吹雪はその場に倒れてる

「…やつた！やつたぜ！

クリスさん！アンタの大切な人は

十代が助かったと言う直前にクリスは気を失いその場に倒れる

「ク、クリスさん！」

『ダークネスがやられたか…。

…まあいいや』

氣絶している吹雪の耳からジヴィアが現れダークネス（仮面）を回収する

「てめえ…！」

その仮面を捨てろ…！」

『嫌だね！

一応僕ちんセブンスターズだしダークネスとは付き合い長いからね
…』

ジヴァはダークネス（仮面）をポケットに詰め火山から去ろうとしたが…

「待て！」

「一つ聞きたい事がある…」

『なんだつちよ？』

ジヴァは一旦停止し身体を十代の方に向いた

「なんでセブンスターZはお前の力を使わないんだ！」

『そんな事？』

：それは僕ちんが破壊の神であつて死神じゃないからさー。』

「破壊の神つて破壊するから人を殺すのも『違うな』なに？」

ジヴァは何時ものふざけた口調を止め破壊の神の時と同じ口調になる

『破壊の神と死神は似ている様で全く違う。

私の力は破壊。

だが破壊とは物などを壊すといつ意味であり生き物の死と物などが壊れるのとは全然違うのだ

「よく…わからねえよ」

『その年で理解したら逆に凄いぞ？

一つ忠告するならばセブンスターZの目的は破壊では無い事だけだ』

「破壊じゃないのか？」

じゃあ奴らの目的は『はいはいそこまで！』なあ！」

ジヴァは何時ものふざけた口調に戻り十代に小さな笛を渡す

『一番破壊したい物があつたらその笛を吹くと良いよ～ん！
僕ちんがすぐに破壊しに行くじょーー！』

「誰がお前なんか』近い未来にお前は必ず使うぞ…』なに…？』

『ちなみにその笛は捨てても次の日に戻ってくるから捨てても無駄
だつちよ！
ではバツハハーイ！』

ジヴァは墮天使の翼を生やし空へと飛びだつて行った…

「近い未来つて何時なんだよー！
いや、それより3人を保健室に…』

その後十代は翔達を呼びクリス達を保健室にへと運んで行つたので
あつた…

視点 エアーマン

イエロー寮 ネオスの部屋

『た、ただいま…。』

な、なんとか生き残れたぞ…！

『…悲しませずに笑顔を見せられそうだ…。』

エアーマンはベッドに倒れこみ深い眠りに着いたのであつた

第21話 ネオス「真のHEROとは誰も悲しませず、絶望に落ちる前に救ひ出せ

ユベル『ダークネス…殺したい』

ドジリス『少なくとも第1形態じゃ無理だな』

ユベル『まあそりゃナビセ…』

ドジリス『なあに気にするな。』

第2形態になれば『あんなキモい形態嫌だ!』自分の形態なのにな
に言つてんだ(汗)』

ユベル『次回はあの鶏頭の 達が登場!』

ドジリス『次回も楽しみにな!』

第22話 ネオス「充電池はそれを充電して使いましょう」 万丈目「誰が

ネオス「学園祭は恋の祭でもある（まだ学園祭は始まってません）」

エアーマン「フュザーマンの奴バーストレディに告白したのだろうか？」

今日はあとがき無しです

第22話 ネオス「充電池はさつさと充電して使いましょう」

万丈目「誰が

視点 万丈目

デュエルアカデミア 保健室

「天上院君！」

俺は天上院君が倒れたと聞き保健室に突入していた

「ま、万丈目！？」

「十代！」

天上院君はどうなっている！』

「明日香なら安静にしてるよ…」

「天上院君！」

俺は天上院君が寝ているベッドを確認した

「天上院君…！」

何故こんな事に…！」

「セブンスターZにやられて…」

「セブンスターズだと！？」

セブンスターズめ…！

天上院君をこんな酷い日にあわせてくれた札は必ずしてやるからな

…！

『万丈目 準君。

今すぐ校長室に来るよつに』

校内放送？

『万丈目。

鮫島校長が校長室に来るよつに

こんな時に一体なんなんだ…いや、よくよく考えれば天上院君をこんな目にあわせた原因の一つは鮫島校長じやないか！

あの時はノリで頼まれてしまつたがなんで鮫島校長はこんな重大な事を生徒に頼むんだ？

…此処は一つ鮫島校長に聞くしか無い！

俺は保健室を後にし急いで校長室に向かつて行つた

視点 十代

「ハハハ…。

元気だね彼は

「万丈目は俺並みにデュエルが強いし活発だからな

俺と一緒に話しているのはダークネスに取りつかれクリスさんが助けた吹雪さんだ

「それにしても…吹雪さんは明日香の事許さないのか？」

「…3年前の事かい？」

「…どうやら明日香とクリス…もしくは別の誰かから聞いたみたいだね。僕は気にしてないよ。」

僕と明日香は兄妹だし明日香が好きだから許せんや」

吹雪さん…酷い田にあわらされたのに許せるなんて凄いな

俺が吹雪さんの立場だったら絶対に明日香を許せなかつただろうな…

「だけど…クリスは明日香を絶対に許さないだろ?」

「…クリスさんが明日香を許さない理由ってなんなんだ？」

俺が1番気になってる事はクリスさんと明日香との関係だ

クリスさんが明日香と会つ度に明日香に向けて険悪な目で睨んでいるのがとても気になる

「恐らく君は僕が闇に消される原因是明日香がパートナーのカウンター罠をわざと破壊したってのを明日香がクリス…そしてその関係

者から聞いた筈だよね?」

「は、はい」

「…その時、明日香のパートナーが…クリスだつたんだ」

「えつ…！？」

ジヴアとのデュエルで明日香とパートナーを組んでいたのがクリスさんだつたのか…！」

「あの時、明日香とクリスの周りにはアカデミア中等部の生徒がいっぱいいたんだ。

更に明日香にはその時のデュエルが闇のデュエルだと知らなかつたんだ」

「もしかしてジヴアが魔術かなんかで幻かなにかを…？」

「ジヴアを知つてゐなら話が早いね。

多分十代君の予想通りの可能性が高いと思つ」

「…という事はジヴアが魔術で生徒の幻を作つて明日香を動搖させたつて事か…」

「まあ色々言つても過去は変わらない。

でも明日香とクリスの関係が元通りになつて欲しいな…」

「吹雪さん…」

吹雪は明日香とクリスが寝ているベッドを見つめながら2人の仲が

良くなるのを願つのであつた…

視点 万丈目

「トヨエルアカデミア 校長室

「鮫島校長！」

俺は校長室に入り鮫島校長に疑問に思つてゐる事を伝える…筈だった

「おおー! 準じやないか!」

「ちよ、長作兄さん! ?」

俺の目の前にはお客様用ソファーに座つていた長作兄さんがいた

丁度君のお兄さんにテレビの宣伝を頼んでいたのですよ」

「万丈田君ですか。

「アカデミアを! ?」

「その通り!

海馬コーポレーションの社長である海馬瀬戸が経営するトヨエルアカデミア・

そのアカデミアに入学する生徒を増やすために宣伝をしようと万丈グループのテレビ局であるサンダーチャンネルでアカデミア宣伝

の番組を作るのだよ！」

セブンスターズが潜伏しているかもしづれないって時に宣伝番組だと！？

長作兄さんはセブンスターズを知らないからともかく、鮫島校長はなにを考えてるんだ！

「ちなみに生放送だから身だしなみを整えておくんだぞ準！」

「生放送だと！？」
この笑いのネタにされている鶏頭が全国ネットにてやつりじゃない！

鮫島校長！何故俺を呼んだんですか！」

まさか宣伝番組に関係する事じゃないだろ？な……！

「君にはサンダーチャンネルで生徒代表として出てほしいのですよ

「…なにいいい！？」

デュエルアカデミア レッド寮

という訳で俺は生放送の前に長作兄さんにアカデミアの案内をする事になった

「なあ万丈目？

あの人つてお前の兄さんなのか？」

「ああ。ていうか貴様はなにをしている!」

鎧やら兜やら色んな物が外に散乱しているではないか！

「もうすぐ学園祭じゃん？」

レッピ寮は「スハレテニハルをする事になつて、二スハレの衣装を作つてるんだ！」

学園祭か…すっかり忘れてたな

「コスプレデュエルか！」

なんなら三万又四千枚」「た漁の為は二十六枚衣装を一回行こうが長
作兄さん!」「あ、ああ

「待ってくれよー！俺も行くぜー！」

デユエルアカデミア イエロー寮

レッド寮から十代も着いてきてイエロー寮に来たが…

なんだこの巨大なステージはあああ！？

「十代に鶏頭じゃないか」

俺の目の前には台本を持つたネオスがいた

「誰が鶏頭だ！」

「どうかなんだその台本は…」

「イエローとタイタニアが共同でやる劇”HERO・ザ・ライブ
ネオス・ブ・ラックマジシャン”の台本だ」

「学園祭でやる劇だぞ！」

「こんな学園祭でやれるレベルじゃないだろーが！」

「こうかよくこんなのが作れる予算がアカデミアにあつたな！」

「イエローとタイタニアすげー！」

俺もHEROとして参加してーぜ！」「貴様もなにを言つてるんだ！
ていうか貴様は天上院君の見舞いを「吹雪さんが”僕の事は良いから学園祭の準備に行つてきなよ”って言つてたから」…そつか」

吹雪さん…

もしかして俺達に気を使わせない為に…

「それより次行こうぜ…」

「あ、ああ」

デュエルアカデミア 古井戸

れた

何故なり…

準に会つ前にブルー寮を見に行つて見たけど喫茶店（男子）とメイド喫茶（女子）という普通の学園祭の出し物みたいで地味でつまらない（笑）

…との事だ

地味な上につまらなくて悪かつたな！（泣）

「しかし長作兄さんは何故こんなちんけな井戸に…？」

「フフフ…聞いて驚くなよ…？」

…どうせひくな事じやないんだろうな

「この古井戸をお化け屋敷…いや、お化け井戸に改造するのだよ…」

「お化け井戸…？」

「おおー！なんか凄そうだな！」

「そうだろう！

昔の話になるがこの古井戸はアカデミアの生徒が弱小カードを捨てていたのだ

「酷い奴らだな…！」

弱小カードだからって捨てるなんてデュエリストとして失格だぜ…

まあ確かにカードを捨てるのは「デュエリストとしては失格だが…弱小カードなんて使わないんだよな

よくテレビでクズカードなんて存在しないとかカードは使い方次第で無限の可能性を引き出すなど言つてるが俺はそうは思えないな

例えば精神統一

このカードは魔力カウンターを稼ぐ為に作られたカードだが完全上位互換の魔力掌握が存在している

オマケにペガサス会長しか持つてないがトウーンのもくじで魔力力ウンターを溜める上にトウーンモンスターをサーチできる

こんなにも指摘されて精神統一なんて使つ氣にならないだろう

…金が無いから代わりに入れてるとかなら仕方ないが

「準！私は井戸の外で待機しているから2人で井戸の中を見てきてくれたまえ！」

「いや、なんで長作兄さんは来ないんだ！？」

「いや、それは…あれだ！」

政治家の私にもしも怪我などの事故にあつたら政治が大変な事になるからな！」

…本当は怖いんだな

「行かないんだつたら俺と万丈目の2人で行くぜ！」

「ハツハツハー！」

威勢の言い君にはこの梯子をあげよう！

ちょ、何処にそんな長い物を入れてたんだ！？

「さあ、行こうぜ万丈目！」

いつの間にか十代は梯子を使って井戸に入っていた

「…仕方ない」

俺は渋々十代と一緒に井戸に入つていった

…井戸の底で恐怖が待つてゐるのを知らずに

… 続く

第23話 ネオス「本当のクズカードといつのは救済処置が不可能&完全上位種

ネオス「クズカードなんて存在しない？」

だったらそのクズカードを使って勝ち続けてみろやー。」

エアーマン『だからって私に精神統一やラージマウスを押し付けてくるな！（汗）』

第23話 ネオス「本当のクズカードといつのは救済処置が不可能&完全上位種

視点 万丈目

井戸の中

俺と十代は長作兄さんを置いて井戸の中に入つたのだが…

「うげえ！？ なんだよこの大量カード！」

井戸の中にはカードが大量に捨てられていた

しかも弱小カードが… つてちょっと待てええええ！

「なんでサクリファイスが捨てられてるんだ！
ああ！ ワイトキングまで！」

「万丈目ー！」に聖なる魔術師が！』

「なんだと！？ なんて勿体無い事を…！」

なんで強力カードと言われている聖なる魔術師が捨てられてるんだ！

本当の弱小カードというのはラージマウスみたいに完全上位種である貫ガエルがいたりするカードの事を言うんだ！

それなのに…それなのに何故サククリファイスなどの強カードが捨てられてるんだああ！！

『オーウ！貴方達は私の強さを分かつている様、テース！』

ん？

今声がしたが…

「うわっ！？サククリファイスだ！」

「なにを言つているんだ貴様は…。
そんなものが…いたあ！」

俺の目の前にサククリファイスがいた

『私は攻守が0という理由で捨てられこの井戸の中では3年間待ち続けていたのテース！
どうか私を拾つてくだサーアイ！』

「言われなくても強カードは貰『ちよつと待つたあ！』なんだ！」

また声をかけられ振り向くと…

『全国の女子高生の為にこの私を拾うのです！』

…ワイトだった

「ワイト？万丈目は強いカードが好きだからワイトなんで弱小カー

ドは「良いだね」「…えつ！？」

まさかあの伝説のレアカードであるワイトがこんな所で手に入ると
はな…！」

「ワイトって最弱って呼ばれてるカードだぞ！？
なんで強いカードが好きな万丈目が拾つんだ？」

「フフフ…！実はワイトは高額で取引されている裏のレアカードな
のだ…！」

「う、裏のレアカード？」

「ワイトはデュエルモンスターZが始まった当初は雑魚カードと呼ばれ敬遠されていた。
だが一部のマニアには人気がありその影響か様々なサポートカードや親戚ワイトキングなどが制作された。

それによりワイトはプロの間で人気カードと化し1枚1万円という
レベル1の通常モンスターで最高額を出したカリスマモンスターと
して君臨したのだ！」

「でもよ？それならなんでプロの間でしか人気が無かつたんだ？
プロの間で人気があるなら一般でも人気があつた筈だぜ？」

「それにもちゃんとした理由がある。

”墓地へ行つたモンスターへの敬意を忘れてはならない”って言葉
を知つてゐるか？」

「ああ。たしかアカデミアの道徳で聞いたな」

なんだ

いつも授業中に寝ててゐるのに道徳はちゃんと聞いてるんだな

「知つてゐるなら話が早い。

ワイトを愚かな埋葬や苦渋の選択で送る戦法がプロで流行つてた時に”墓地へ行つたモンスターへの敬意を忘れてる”とか”モンスターを当たり前の様に墓地に送るなんてデュエリストとして失格だ”などの批判を受けてしまいワイトデッキは歴史の影に隠れてしまつたんだ。

その影響で苦渋の選択や愚かな埋葬などの墓地に送るカードは雑魚カード扱いされてしまつたんだ。

まあ当時は苦渋の選択などはワイトでしか活かせないと思われていたらしいからな

「そんな事があつたんだな…」

「攻撃力主義の時代”という事もあつてワイトと墓地肥やし戦法は歴史の影に埋もれてしまつたつて訳や…」

ちなみにこの話はワイトマニアである長作兄さんが教えてくれたのだが…なんか悔しい

「もしかしたら此処つてデュエルモンスターズの歴史から消されたモンスター達の墓場なのかもしねいな…」

「十代…そうでも無いよつだぞ」

そう…此処は愚かで馬鹿なデュエリストが使えないと思い込んだ愚かな墓場だ！

『いや～ん！私達にも救世主が来たみたいよあさけや～ん！』

『やつたな弟～！コレでこの小汚ない井戸から脱出できるわ～！』

『やつたやつたあ～！』

「…なにコイシジラ？」

「この気持ち悪く、そして変態パンツは…伝説のレアカード、おジャマ～？」

「十代～おジャマだ！」

伝説のレアカードのおジャマだ！」

「おジャマとは凶悪なファーリードロックを備え地盤沈下とのコンボは無く伝説のレアカードだ！」…まじで～？」

「おジャマとは凶悪なファーリードロックを備え地盤沈下とのコンボで対ワイルドギキと呼ばれた伝説のレアカードだ！」

「…もしかしておジャマも～」

「…サイバー流の戦術批判によつおジャマも歴史の影に埋もれてしまった悲劇のモンスターだ」

オマケに単体では本当に雑魚カードだから「パリ箱に捨てられていたりする

「お前達も回収だ！」

『『『いやつたああーー』』』

えへいーーJのアカヒニアの井戸はレアカード保存場か！

「レアカードも拾つたし帰るぞ十代」

「でもまだ弱小モンスターがいるぞ？」

「なに？」

ラージマウスにプチテンシ、はにわなど…ただの雑魚カードか

『僕達も連れてってよー！』

『そんな気持ちの悪い奴らなんて連れてくより私を連れてってよー！』

「十代！奴らはまつとこで帰るべー！」

「でもこんな所に放置なんて、夜中喧しきくなつて眠れなくなるのが！」…よし帰ろう

流石の十代もいつるやくて眠れなくなるのは嫌な様だな

『そんな！酷い！』

『ひつなつたり…ー』

井戸の真ん中から巨大な空間が…なんか不味い気がする…ー

『お前達なんか異世界に飛んでいなくなつてしまえー。』

「「…まじでか！？」」

そんな事を言つてゐ内に俺達は吸い込まれて行くのであつた…

…畜生！

？？？？？

「此処は…？」

『いやん！アイツら酷～い！』

俺達（+拾つたカード達）は井戸の真ん中にできた巨大な空間に吸い込まれていたが…此処は見たことがあるぞ…

「十代…起きろ十代…」

「…な、なんだよ？」

「俺達アカデミアにいるだ！？」

「…はあ…？」

俺達は井戸にいた筈…だが何故アカデミアに戻つて来ているんだ…？

「にしてもなんで夜なんだ？」

て、どうか此処つてアカデミアはアカデミアでも……俺達が知ってるアカデミアじゃ無いんじゃないか？」

「おい！それって俺達が異世界のデュエルアカデミアに来たつて事か！？」

「異空間を作ったモンスター達が言つてたじやん。異世界がなんとかつて……」

確かに言つてたが……だが何故アカデミアなんだ？

「さあな。でも「十代！」……ん？」

なんだアイツ？

黒髪に短い髪、着ている物からオシリスレッドの様だが……見たことないな

「十代！お前なんで此処にいるんだ！」

「いかんで万丈目はブルーの恰好してんだよ……」

「……誰だ？」

「十代も知らないのか？」

「いかんな奴入学式はおろか試験にもいなかつたぞ……？」

「なんで忘れてんだよ……」

俺は『グオオオオオオ！……』……くそつ……」

「な、なんだ！？」

「氣をつける！アイツは俺達を狙ってる！」

「そんな事より貴様は誰な」「きやああああ……悲鳴！？」

全く……アカデミアになにが起じてるんだ！？

「奴だ！チエイサーが「危ねえ！」……えつー？」

オシリスレッドの生徒の頭にロケット弾が直撃しオシリスレッドの生徒の頭が消滅し絶命した

『転者殺』

俺達の目の前に黒いコートを着た巨大な男が現れる

だがその男の顔は口がむき出しで唇が無くまるで化け物の様な顔だつた

オマケにその化け物の顔は猟奇的な目だった

まるで俺達を殺そとする猟奇的な目だった

『生抹殺！』

「……逃げるぞ十代！」

俺達が逃げ出した直後に化け物は手に持ったロケットランチャーで俺達を襲ってきた

『グオオオオオオオオ！！』

俺達は全力で逃げ出した

だが化け物は疲れを知らないのか全速力で追いかけてくる

「くそつ！なんてしつこいんだ！」

「何処かに良い場所は… そうだ！」

「なんだ！」

「井戸だ！此処がアカデミアなら井戸がある筈だ！」

あの井戸ならこの訳のわからないアカデミアから脱出できるかもしれんな！」

そうとわかれば井戸に直行だ！

：だが現実はそんなに甘くはない

井戸がある場所が森だったので何処にあるかわからず迷い更には化け物がロケットランチャーを乱射しながら追跡してくる始末だ

「まだ追いかけてくるか！」

『グオオオオオオオオ！！』

「万丈目！井戸を発見したぜ！」

でかした十代！

俺達は急いで井戸に入つた

ああ…コレで助か『グオオオオオ…』…まじかよ

なんと化け物は井戸の中に入り込んできた

「ああ…！」

『転死』

化け物が持つロケットランチャーからロケット弾が発射される

「「うわあああ…！」」

その悲鳴を最後に俺達は意識を失つた：

デュエルアカデミア 保健室

「…田君…万丈目君…」

「…吹雪さん？」

あれ…死んでない？

「アハハハ。無事みたいだね」

「俺達は井戸にいた筈…。

十代と長作兄さんは?」

「十代君はベッドで安静にしていて君の兄さんは帰つていったよ。君が持つてたワイトとワイトキングを持つてね」

あの野郎…勝手に持つていったな

「ていうか吹雪さん…もう大丈夫なんですか?」

「10COHNE!僕ならもうパンペーンセー!」

「ハハハ、そうですか…」

天上院君から聞いてたがまさかここまでテンションが高いとは

「やうやく。クリスや明日香も退院したから安心してくれ。では僕は「吹雪〜!ブルーでやる劇の”聖徳太子の楽しい鉄道建設”の練習やるから聞く〜!」う、うん…じやあね万丈目君」

そういつと吹雪さんは保健室から出ていった

てこうかさつきの声ってカイザーか!?

「…つかしあの時に起こった事は夢だったのか?」

できればやうだと思いたいと心の中から誓つた俺だった…

視点 無し

デュエルアカデミア(?)

夜のデュエルアカデミアの森に転がっているオシリスレッドの制服を着たの男子生徒とオベリスクブルーの制服を着た女子の死体

その近くに…十代達を追いかけていた大男…否、化け物がいた

『転…者…抹…完了。』

次の平行…生者の反応あり…突入』

化け物は異空間を作り出し中へと入つていった…

第23話 ネオス「本当のクズカードといつのは救済処置が不可能&完全上位種

ユベル『アカテニア（？）に出てきたあの化け物は…？』

ドジリス『物語に関わつてくるのは確実だな…！

ちなみに奴の目的の一部は今回の話を見てみると微妙にわかるから
チェックしてみよう』

ユベル『次回はあの筋肉女…じゃなくて虎女が登場…』

ドジリス『次回も楽しみに…者殺ス…なんでお前が此処にいる
んだああああ…！…』

? ? ? ?『グオオオオオオオ…！…』

第24話 ネオス「純粧に過労死を楽しむ者」やー ハーマン「自分を棒

生還者「帝の監さん」せつかわれて正直疲れます

ゾンキヤリ「奇遇ですね。私もゾンマスさん」復活せられまくつてます」

ハーマン「私もエラロッデッキに出張しまくつてます」

ネオス「コレが時代の流れか…（汗）」

開闢「久し…ぶり」

ネオス「めぢやくぢやガリガリじやねーか！？」

開闢「禁止解除されてから監から使われまくつて…」

ネオス「まじか…（汗）」

第24話 ネオス「純粋に過労死を楽しむ者」やめよー

エアーマン「自分を棒

視点 ネオス

デュエルアカデミア 教室

みなさん

皆のE・HERO ネオスだよん

いきなりだけど言わせてほしい

…生徒少くね？

「今日の授業は…自習だ自習ー。

こんなにも生徒が少なかつたら授業にならんからなー。」

授業が自習になるくらい生徒が少ないのだ

「自習になつちやつたね

「よつしゃーじゅあ今からデュエルしようぜー。」

「何故そつなるー。」

「デュエルもいいけど勉強をした方がいいんじゃないのか？」

「せっかくだし今から問題を出すから答えてみる十代！」

「問題？」「デュエルの問題ならOKだぜ！」

「勿論デュエルの問題だ！」

「今から俺が見せるカードの中で蘇生が可能なカードを答えてみろ！」

そう言つて万丈目が見せたカードはダーク・アーマード・ドラゴンに
ダーク・クリエイター、そして混沌の黒魔術師だ

「うん！残念だが正解は混沌の黒魔術師とダーク・クリエイターだ
てるのだ…？」

「た、たしか…混沌の黒魔術師？」

おっ、正解したな

「ふん！残念だが正解は混沌の黒魔術師とダーク・クリエイターだ
！」

「うわっ！？正解が2つあるなんて聞いてないぞ！？」

「誰が正解が1つだと言つたか！」

「これは万丈目の言い分が正しいよなあ…」

「ネオス～！万丈目の問題に答えてくれよ～！」

「なんでそうなるんだ！」

「フフン！ではいくぞネオス！
この中で手札に存在している暗黒界のモンスターの効果を発動させ
ないカードを答えてみろ！」

なになに…？

手札断殺に墓穴の道連れに死のデッキ破壊ウイルスか

「さあ、答えてみ「手札断殺に死のデッキ破壊ウイルス。墓穴の道
連れ以外のカードは手札を破壊したり墓地に送る効果であり捨てる
効果では無い」…正解だ」

ハハハハ

暗黒界を使う初心者は必ず間違えるんだよね

暗黒界を使う人は気をつけよ

「くそつ！では次の問「ガオー！」…なんだ今の鳴き声？」

ガオーといえば百獣王ライオ「ガオー！」…虎だった

「「「「虎だああああ…！」」」

「お前達！七星門の鍵を持っているな！」

なんか教室の入口からアマゾネス似の女達が出てきたんだけど

：…ていうかアマゾネスじゃね？

「なんだと…といつ事はお前達はセブンスターズか…」

「我々では無く長がセブンスターズの一人だ！」

我々は長の命でお前達を死闘場に連れに来たのだ！」

あの…話を勝手に進めないでほしいのだが

「死闘場だつて…！？」

「そりだ…さあ、我が長の所まで来てもらおつか！」

勝手に話が進み我々は死闘場とかいう場所へと連れていかれるので
あつた

デュエルアカデミア 死闘場

「よく来たな！私はアマゾネスの長、そしてセブンスターズの一人
であるターヤだ！」

「シ、シニヨール達！？」

私達はアマゾネス達により死闘場に連れられ現れたのはアマゾネス
の長、そしてセブンスターズのターヤだった

そういうえば直接では無いとはいって異世界で会つたけどまさかセブン
スターズだったとは…

「シ、シニヨール達！」

助けに来てくれたーノ！」

「「「「助けてくれえええ！……」」」

あれ？

クロノスに行方不明になつた生徒達ではないか

てかなに？

もしかしてアマゾネスに誘拐されてたのか？

「な、なんでクロノス先生に行方不明になつてた生徒達が！？」

「…」の人達に死闘場を作つてもらいました…」

「いや、なんで急にノリが軽くなるんだ！」

（タニヤに演技をしろと言われましたーがここまで心配してくれる
とーは…！

なんか申し訳ないノーネ…！）

「…早く対戦を決めないと」

「そうだったな。

ではそうだな…お前だ！」

そう言うとタニヤが指を指した方向は…十代…ではなく私…でもなく緑川だった

てかいつの間に来てたんだよお前！

「さつきたまたま通りかかつたら此処を見つけただけだ」

心を読むんじゃない！

「お前を我が婿に迎え我らアマゾネスの子孫を増やす！
その為に私どデュエルをしろ！」

いや、話についていけないんですけどおおおお！

なんで子孫作りにデュエルをする必要があるんだ！？

「良いだろう。だがお前が負けたら人質の解放」とセブンスターズ
の情報を頂く

いや、デュエルするんかい！

…とツツ「ミミを入れたい所だがどうやら緑川は人質の解放とセブン
スターズの情報が欲しい為にデュエルをするみたいだな

…てかタニヤに聞くよりイヒロー寮に居候してたカミューラに聞い
た方がいいんじゃないのか？

「良いだろう！

ではデュエルを「長！決闘の掟を忘れてますよ！」「あつそつだつた
掟…？」

まさかあんな事やこんな事を…

「私とのデュエルは2つのデッキがあり1つは知恵のデッキ、もう1つ勇気の「どちらでも構わない。結果はかわらん」いや、決めてもらわないと「だから結果はかわらん」決めてもらわないと困っちゃうへん」

「…ならば勇気のデッキで…」

「はい では…」

「「デュエル!…」」

緑川 LP4000 タニヤ LP4000

「私の先攻、ドロー!」

手札からフィールド魔法、アマゾネスの死闘場を発動する!..

アマゾネス死闘場

フィールド魔法

発動時、お互いのプレイヤーは600ポイントのライフを回復する。お互いのプレイヤーが戦闘ダメージを受けた時、100ポイントのライフを支払う事で相手に100ポイントのダメージを与える。この効果は1度の戦闘につき、お互いに1度ずつ任意で発動する事ができる。

「このカードの効果は発動時に互いのライフを600ポイント回復させる。

更にこのカードがフィールド場に存在するかぎり互いのプレイヤーが戦闘ダメージを与えた時、ライフを100ポイント払う事で相手

「ライフに100ポイントダメージを『える事ができる…』

緑川 LP4000 4600 タニヤ LP4000 4600

…アマゾネス関係ねええええ…！」

なんだその中途半端…いや、ショボいバーンカードは…？

てかそんなもん使うくらいなら盗入ゴブリン使つた方がましだわ！

「戦闘ダメージを受ける度に+100ポイントのダメージ…。

持久戦になると厄介なカードになっちゃうッス！」

『持久戦になつてもそこまで関係無いけどな』

そんな事を言つちやいけませんエアーマンよ

だがなんでアマゾネスの里じやないんだ…？

「更にアマゾネスの剣士を召喚…」

アマゾネスの剣士

星4／地属性／戦士族／攻1500／守1600

このカードが戦闘を行う事によつて受けのコントローラーの戦闘ダメージは相手が受けれる。

「出た！ショボい地獄戦士の完全上位種カード…」

「貴様！俺が使つてたカードを…」

「カードを一枚伏せてターンを終了する…」

まづまづの陣形だが… アマゾネスの死闘場が微妙過ぎるな（汗）

「俺のターン。

ドロー。

手札から次元の裂け目を発動する

次元の裂け目

永続魔法

墓地へ送られるモンスターは墓地へは行かずゲームから除外される。

「次元の裂け目？ 次元デッキか？」

「次元デッキっていつも色々あるからな。

次元帝とか次元斬とか次元ハンデスとか

他にも次元スキドレバルバとか次元ネオス… 次元ネオスは裂け目使わないや

「更に手札から手札断殺を発動。

手札のカードを2枚墓地に送り2枚ドローするカードだが今回は墓地ではなく除外される」

「ちい…！ だがそれはお前も含まれるぞ！」

「構わない。そしてカードを2枚伏せてターンを終了する。
エンドフェイズ時に除外されているこの2枚のカードの効果が発動される」

次元の裂け目から2体の丸い機械が現れる

異次元の偵察機

星2／闇属性／機械族／攻 800／守1200

このカードがゲームから除外された場合、そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する。

「な、なんだアレ！？」

「異次元の偵察機だ。

異次元の偵察機は除外されたターンのエンドフェイズ時に自分のフィールド場に帰還するつて授業で習ったではないか

「…その時寝てたと思つ」

じゅ、十代：

デュエルキングになる為には勉強も大切なんだからな…（泣）

「私のターン！

ドロー！

アマゾネスの格闘戦士を召喚する！

タニヤの田の前に筋肉質なアマゾネスの武道家（？）が現れる

てかなんで剣士いるのに格闘戦士を入れてるのだ？

格闘戦士って効果は違つけどアマゾネスの剣士の完全劣化版なのに…ってそんな事よりもこのままでは緑川はダメージを受けてしまつた

「バトル！アマゾネスの格闘戦士で異次元の偵察機を攻撃！アマゾネス蹴殺の舞い！」

アマゾネスの格闘戦士が異次元の偵察機に接近する

「リバースカード発動。グラヴィティ・バインド・超重力の網 -」

グラヴィティ・バインド・超重力の網 -

永続罠

フィールド上に存在する全てのレベル4以上のモンスターは攻撃をする事ができない。

グラヴィティ・バインド・超重力の網 -が発動した瞬間、フィールド全体に巨大な網が張り巡らされる

「このカードが存在する限り、互いのレベル4以上のモンスターは攻撃ができなくなる」

「くつ…！姑息な手を…！」

ではターンを終了する…」

「俺のターン。

ドロー。

キヤノン・ソルジャーを召喚する「

キヤノン・ソルジャー

星4／闇属性／機械族／攻1400／守1300
自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事で、
相手ライフに500ポイントダメージを与える。

次元の裂け目にキヤノン・ソルジャー…このままだとタニヤが負けるな

「こ」のままだと緑川の勝ちだな

「えつ？どうして？

キヤノン・ソルジャーが出ただけなのに？」

「なるほど。次元の裂け目と異次元の偵察機、そしてキヤノン・ソルジャーによる射出コンボだな。

まず次元の裂け目を発動し異次元の偵察機をフィールドに揃える。
そして射出系モンスターを使い異次元の偵察機を発射してバーンダージを与える。

更に次元の裂け目により異次元の偵察機は帰還するから半無限ループが可能となる… そうだろうネオス？

「正解だ万丈目。流石はオベリスクブルーなだけはある… 一応は」

「一応は余計だ！」

ハハハハ… つとタニヤが大嵐かサイクロンを入れていいならともかく入れてないなら緑川の勝利は確定だな

「キヤノン・ソルジャーの効果発動。

異次元の偵察機を射出し500ポイントのダメージを与える」

異次元の偵察機はキヤノン・ソルジャーの砲身に無理矢理入り込み
キヤノン・ソルジャーはタニヤに向けて勢いよく発射し直撃させた

…よく入り込めたな偵察機

「ぐつ！」

タニヤ LP4600 4100

「次の偵察機も射出する」

タニヤ LP4100 3700

「コレでターンを終了する。

エンドフェイズ時に異次元の偵察機が帰還する」

「私のターン！

ドロー！

その小賢しい網をこのカードで破壊する！

手札からサイクロンを発動！』

タニヤがサイクロンを発動した瞬間、サイクロンのイラストから竜巻が現れグラヴィティ・バインド・超重力の網・を吹き飛ばした

「ああ！グラヴィティ・バインドが破壊されちゃった！』

「バトル！

アマゾネスの格闘戦士で「リバースカードオープン。グラヴィティ・

バインド・超重力の網 - 「なにい！？」

「どうもグラヴィティ・バインド・超重力の網 - だつたんかい！」

だがそのお陰でダメージを免れたか

「サイクロンは制限カード。

後は大嵐を引かなければ半無限ループによりお前は敗北する

「ターンを終了する」

「俺のターン。

ドロー。

異次元の偵察機を召喚。

更にキヤノン・ソルジャーで射出

タニヤ LP3700 2200

「ターンを終了する

「私のターン……！」

ドロー！

「……ターンを終了する

「俺のターン。」

ドロー。

キャノン・ソルジャーを召喚し全モンスターを射出する」

タニヤ LP2200 - 300

「ノーダメージだと…！？」

「緑川…なんて奴だ」

「約束だ。人質の解放とセブンスターズの情報を渡してもらおうか」

「…良いだろ？！」

普通の奴（アカデミアの生徒とか）なら怒り狂う所なのに以外にも精神面高いんだな

「シニヨール達～！助かったノーネ！」

「クロノス先生！仕事サボっちゃ駄目だろ！」

「サボつてないノーネ！」

こうして緑川 vs タニヤのデュエルは終わつたが…なにか引っかかるな…

そんな疑問を持ちながら私はイエロー寮に戻つていった

視点 緑川

?????

ターニャとのデュエルが終わり夜の死闘場…

「待たせたな」

「…正直あんなデュエル認めたくなかったがな」

やはりとは思ったが次元目キャノンバーンは嫌だったか

早速だが約束の情報を教えてもらひつぞ

「…セブンスターズのボスはこの学園の理事長である影丸だ」

「やはりそうか。だがもう一つ情報がある筈だ」

「…バレていたか。

この世界はある1人の少年により危機に晒されている。
オマケにその少年を狙っている者も来る。
正直セブンスターズなんかより危険な存在だ」

「…そいつについてわかる事はあるか?」

「1つわかる事は…その少年は…転生者だ」

第24話 ネオス「純粋に過労死を楽しむ者」やおー

エアーマン「自分を棒

ユベル『転生者が世界の危機に晒している……か』

ドジリス『心当たりは?』

ユベル『ある可能性があるならば……イレギュラー』

ドジリス『なるほど』

ユベル『そんな事より次回は皆大好き学園祭だよー』

ドジリス『アビドスとかは?』

ユベル『飛ばします（笑）』

ドジリス『ユベルH…-』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7591v/>

遊戯王GX ネオス「十代が私を使ってくれないから自らデュエルアカデミアに」

2011年11月11日09時06分発行